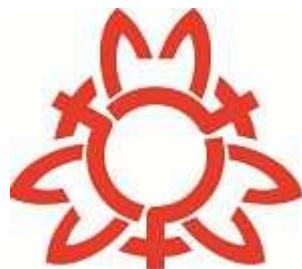


令和7年度  
伊奈町教育委員会  
点検・評価報告書  
(令和6年度対象)



伊奈町教育委員会

## はじめに

伊奈町教育委員会は、「ずっと住みたい 緑あふれた 安心・安全なまち」の創造を目指し、「生涯にわたり学び続ける 笑顔あふれる学校づくり、まちづくり」を基本理念とした「第2期伊奈町教育振興基本計画」を、令和2年3月に策定いたしました。

令和2年度から令和6年度に取り組む伊奈町の教育行政の6つの基本目標である「確かな学力と自立する力の育成」「豊かな心と健やかな体の育成」「質の高い学校教育を推進するための環境の充実」「学校・家庭・地域の連携と教育力の向上」「生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興」「スポーツ及びレクリエーション活動の推進」を掲げ、様々な施策や事業を進めております。

教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっております。

この報告書は、伊奈町教育委員会が行った事務事業の点検評価の結果をまとめたものです。各事業がどのように展開され、どのような進捗状況にあるかを公表することにより、広くご意見をいただき、今後の教育行政に生かすとともに、教育政策立案を的確に行い、効果的な教育行政を推進していきたいと考えております。

なお、本報告書は、第2期伊奈町教育振興基本計画のもとでの伊奈町教育委員会事業についての点検評価となっております。

令和7年12月

伊奈町教育委員会

伊奈町教育委員会委員

教育長 豊田 稔之

教育長職務代理者 三國 隆夫

委員 土方 一匡

委員 成田 弥寿子

委員 西川 智美

## 目 次

I	点検評価の基本方針	1
( 1 )	趣旨	1
( 2 )	点検評価の対象及び方法	1
( 3 )	教育施策	2
①	教育委員会組織機構図	2
②	教育財政	3
③	伊奈町総合振興計画 基本構想の概要	5
④	教育施策の体系	7
⑤	対象事業の一覧	9
II	令和6年度実施事業等の点検評価結果	11
III	関係資料	97
	学校別児童生徒数・学級数	98
	学校施設の現況	100

## I 点検評価の基本方針

### (1) 趣旨

平成19年6月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」が一部改正され、平成20年4月から全ての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに、公表することとされています。(法第26条第1項)

伊奈町教育委員会では、法の趣旨に則り効果的な教育行政の推進に資するとともに、町民に対する説明責任を果たすため、令和6年度に実施した教育に関する事務の管理及び執行の状況について点検評価を行い、本報告書を作成しました。

### (2) 点検評価の対象及び方法

対象となる点検評価は、「伊奈町総合振興計画」実施計画（令和5年度版）に位置付けられている施策・事業のうち、令和6年度に実施した事業としています。

教育委員会の施策・事業の取組実績等を取りまとめ、自己評価を行った後、その客観性を確保する観点から、教育に関して学識経験を有する佐々木智美氏と林八州夫氏の2名の方より、ご意見ご助言をいただきました。

※《参考》 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

〔昭和31年6月30日法律第162号〕

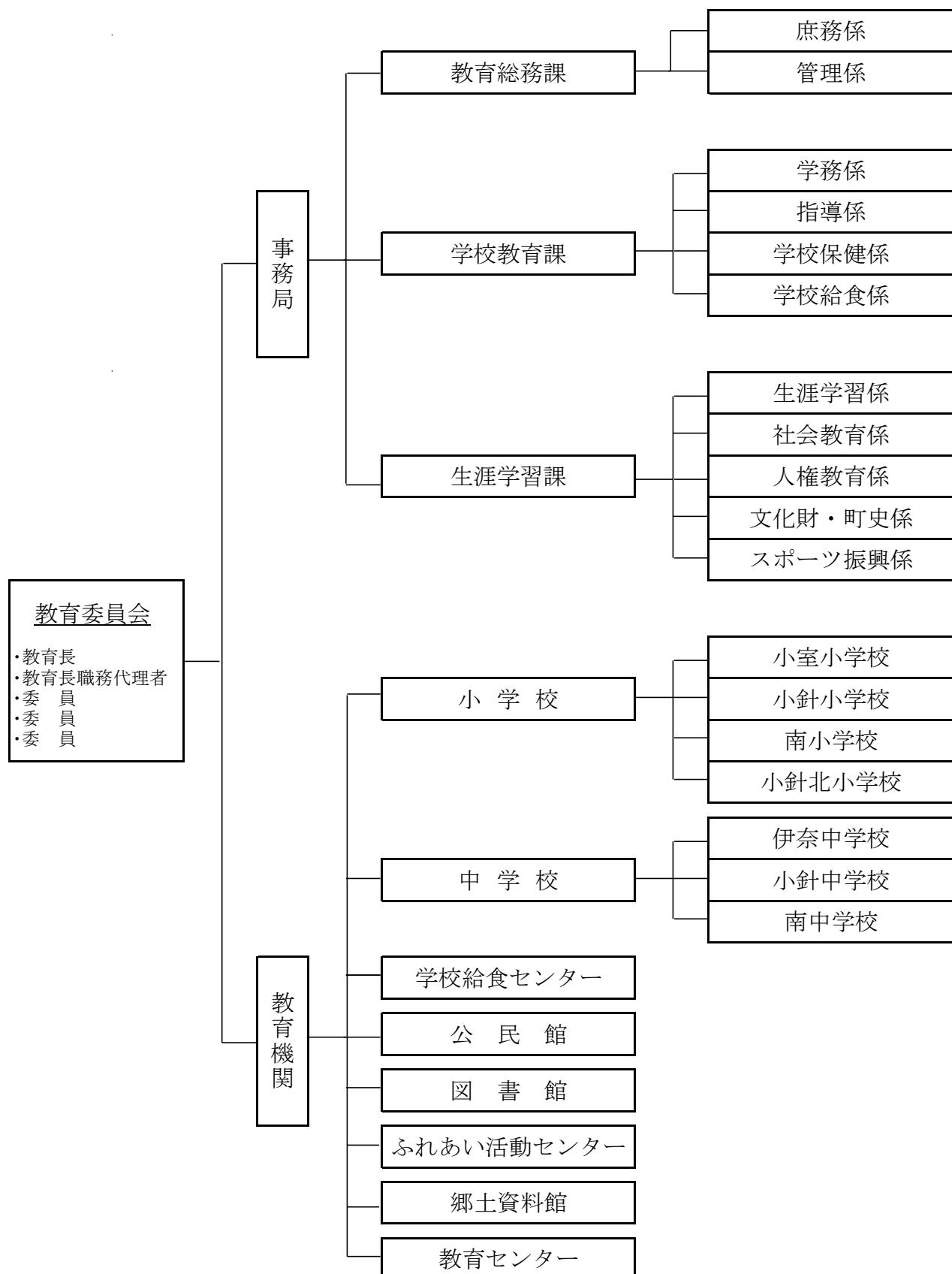
（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

### ( 3 ) 教育施策

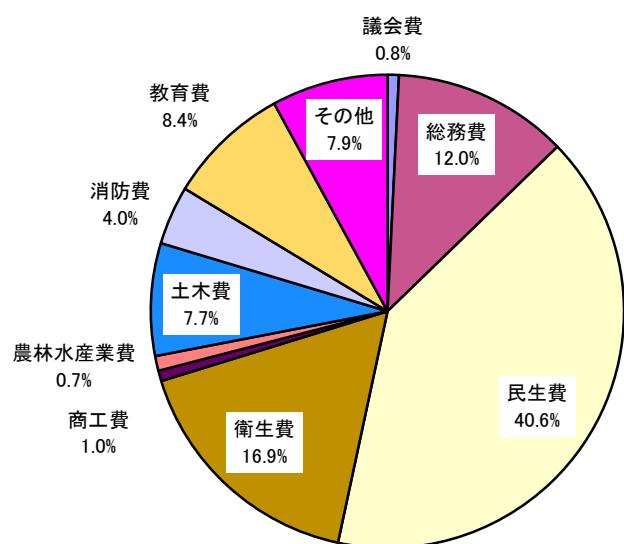
#### ① 教育委員会組織機構図



## ② 教育財政

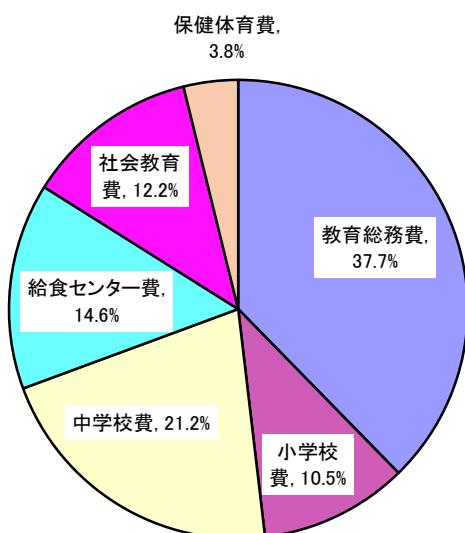
令和6年度決算の状況 (単位千円)

一般会計歳出決算



議 会 費	125,568
総 務 費	1,925,055
民 生 費	6,520,984
衛 生 費	2,710,107
農 林 水 産 業 費	116,016
商 工 費	164,091
土 木 費	1,233,258
消 防 費	642,696
教 育 費	1,349,773
そ の 他	1,275,332
〈 総 計 〉	16,062,880

教育費歳出決算



教 育 総 務 費	508,415
小 学 校 費	141,259
中 学 校 費	286,735
給食センター費	196,645
社会教育費	164,790
保 健 体 育 費	51,929
〈 総 計 〉	1,349,773

## 歳出決算対前年比較（単位千円）

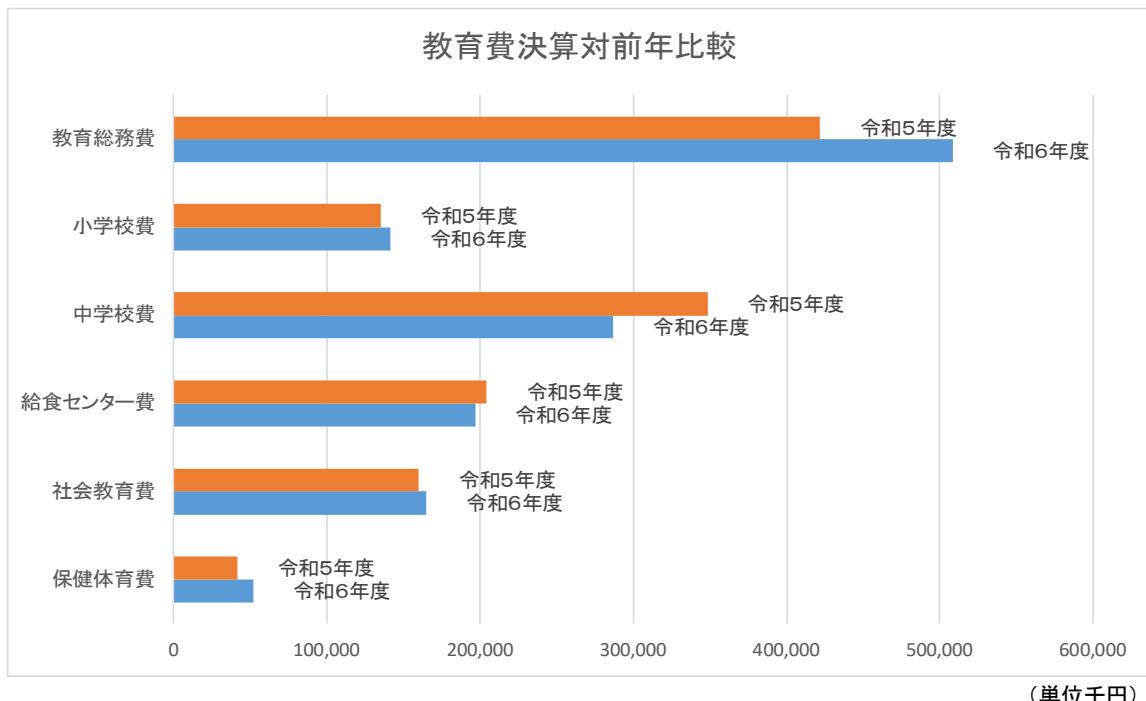
### 一般会計歳出決算

	令和5年度	令和6年度
議 会 費	120,970	125,568
総 務 費	1,607,751	1,925,055
民 生 費	6,131,530	6,520,984
衛 生 費	2,366,622	2,710,107
農 林 水 産 業 費	85,677	116,016
商 工 費	124,362	164,091
土 木 費	963,103	1,233,258
消 防 費	644,343	642,696
教 育 費	1,310,992	1,349,773
そ の 他	1,311,859	1,275,332
〈 総 計 〉	14,667,209	16,062,880

### 教育費歳出決算

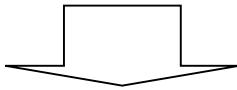
	令和5年度	令和6年度
教 育 総 務 費	421,879	508,415
小 学 校 費	134,861	141,259
中 学 校 費	348,487	286,735
給 食 セン タ ー 費	204,189	196,645
社 会 教 育 費	159,904	164,790
保 健 体 育 費	41,672	51,929
〈 総 計 〉	1,310,992	1,349,773

### 教育費決算対前年比較



### ③ 伊奈町総合振興計画 基本構想の概要

日本一住んでみたいまちを目指して  
ずっと住みたい 緑にあふれた キラキラ光る元気なまち  
(伊奈町の将来像)



#### 将来像実現のための基本目標

##### 第1章 防災・減災 みんなで考え 行動するまち ～安心・安全なまちに暮らす～

町民一人一人の生活を守る観点から災害や事故、犯罪を減らし、安心で安全に暮らすことのできるまちを目指します。

自然災害の発生に備えるとともに、万が一災害に遭っても地域住民が相互に支え合い、安心して暮らすことのできる地域社会を形成します。

広域化による消防・救急体制の充実やまちぐるみによる地域防犯や交通安全活動、さらには安心な消費生活を支援し、町民一人一人の安心・安全を守る施策の充実を図ります。

##### 第2章 いきいき 元気 健康長寿のまち ～健康で心安らぐまちに暮らす～

すべての町民が元気で、心身ともに健康で長生きができ、お互いに助け合い、支え合う地域社会の中で、生きがいをもって心豊かに暮らすことのできるまちを目指します。

町民一人一人の健康づくりを支援し、地域において安心して医療を受けられる環境を整えます。

子供や高齢者、障がい者などを地域で支えることができるよう、地域コミュニティ活動を活性化する一方、高齢者や障がい者の自立生活支援、サービス提供体制の充実を図ります。

##### 第3章 人を育て はじける笑顔 輝くまち ～豊かな心を育むまちに暮らす～

家庭の大切さや地域の中での支え合いを基本にしながら、安心して子供を育てることができ、町民の誰もが学ぶことの楽しさを感じられ、身近に文化芸術、スポーツ・レクリエーションに親しむことのできるまちを目指します。子供と子育て家庭を地域ぐるみで支える仕組みをつくります。

子供が楽しく学び、生きる力を育む魅力ある学校づくりを推進するとともに、青少年の健全育成を推進するなど将来を担う人材の育成に努めます。生涯学習、文化芸術、スポーツ・レクリエーションなど町民の多様な活動を支援し、その活性化を図ります。

##### 第4章 キラキラ光る ずっと住み続けたいまち ～緑あふれる、にぎわいのあるまちに暮らす～

豊かな緑を守るとともに、身近な緑を広げ、緑豊かなまちをつくります。環境への負荷を抑制した循環型社会の構築と、暮らしの充実に必要な機能やサービスの集積など、地域の魅力向上を図ります。

また、地球温暖化対策やごみの適正処理などによる環境への配慮に努めます。

良好な市街地を形成するとともに、町の骨格を形成する都市計画道路の整備を促進します。公共交通については、利便性を高め、利用の促進を図ります。町の発展を促す産業経済については都市農業の振興、商工業活動の活性化を促します。また、にぎわいのある空間形成や地域の拠点となる活気ある商業を育てるとともに、地域の様々な資源を生かし、まちの魅力を町内外に発信し、誘客に努めます。

## 第5章 共につくる 未来につながるまち ～町民と行政が協働するまちに暮らす～

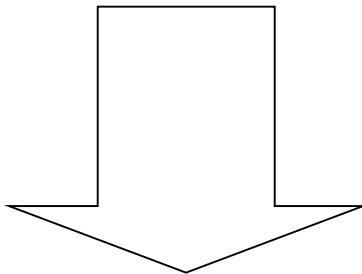
町民参画による開かれた法制と経営的視点に立った行政運営を行うことにより、質の高い法制運営を目指します。

町民の声が行政にしっかりと届き、活かされる仕組みをつくるとともに、地域の課題解決や地域おこしを協働で推進するための環境を整備します。

また協働にあたっては、町内に立地する県民活動総合センターをはじめとする県施設との連携と活用を勧めます。

これからの中財政運営にあたっては、これまで培ってきた地域資源などのストックを十分に活用し、最少の費用で最大の効果を引き出す経営的視点を重視します。

また、お互いの人権が尊重され、平和に暮らすことのできる共生のまちづくりを推進します。



## 教育分野の取組

## 第3章 人を育て はじける笑顔 輝くまち ～豊かな心を育むまちに暮らす～

## 第5章 共につくる 未来につながるまち ～町民と行政が協働するまちに暮らす～

## ④教育施策の体系

# 第3章 人を育てはじける笑顔 輝くまち～豊かな心を育むまちに暮らす～



## 第5章 共につくる未来につながるまち～町民と行政が協働するまちに暮らす～

第5節 人権尊重と  
平和意識の啓発推進

1 人権・同和教育啓発の推進

⑤ 対象事業の一覧 ※各施策に対する教育委員会該当事業

第3章 人を育て はじける笑顔 輝くまち ~豊かな心を育むまちに暮らす

第2節 確かな学力と自立する力の育成

1 学力の向上

- 1 英語検定促進事業
- 2 教育研究・研修事業
- 3 学校理科教材整備事業
- 4 小学校児童援助奨励事業
- 5 中学校生徒援助奨励事業

2 新しい時代に対応した教育の推進

- 6 英語指導助手活用事業

3 進路指導・キャリア教育の充実

- 7 教育指導事業
- 8 奨学資金貸付事業

4 幼児教育との連携の推進

- 9 幼児教育振興協議会運営事業

5 特別支援教育の充実

- 10 小学校児童援助奨励事業
- 11 中学校生徒援助奨励事業

6 不登校児童生徒への支援

- 12 教育センター運営事業
- 13 いじめ問題対策事業
- 14 小中学校及び関係機関との連携推進事業

第3節 豊かな心と健やかな体の育成

1 豊かな心の育成

- 15 教育指導事業

2 いじめの防止対策の推進

- 16 教育センター運営事業
- 17 いじめ問題対策事業

3 生徒指導の充実

- 18 教育補助員等配置事業

4 人権を尊重した教育の推進

- 19 教育指導事業

5 児童生徒の健康の保持・増進

- 20 学校保健関連事業

6 体力の向上と学校体育活動の推進

- 21 教育補助員等配置事業
- 22 地域部活動検討推進事業

第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

1 学校の組織運営の改善

- 23 学校現場における業務改善加速事業
- 24 スクール・サポート・スタッフ配置事業
- 25 統合型校務支援システム運営事業
- 26 小学校運営事業
- 27 中学校運営事業

2 子どもたちの安心・安全の確保

- 28 コミュニティ・スクール推進事業

3 学習環境の整備・充実

- 29 小学校整備事業
- 30 中学校整備事業
- 31 小学校内管理事業
- 32 中学校内管理事業
- 33 小学校施設維持管理事業
- 34 中学校施設維持管理事業
- 35 小学校教科備品等購入事業
- 36 中学校教科備品等購入事業
- 37 教育委員会事務局事務費
- 38 町立小中学校 I C T 教育環境維持管理事業
- 39 教育指導事業
- 40 学校 I C T 環境整備事業

4 学校給食の充実

- 41 給食センター管理事務費
- 42 給食センター施設維持管理事業
- 43 給食センター運営事業
- 44 給食センター整備事業
- 45 価格高騰対策学校給食食材支援事業

第5節 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

1 家庭教育支援体制の充実

- 46 社会教育振興事業

2 地域の教育力の向上

- 47 二十歳の集い実施事業
- 48 青少年健全育成推進事業

3 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進

- 49 社会教育振興事業

#### 4 コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置及び推進

50 コミュニティ・スクール推進事業

### 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

#### 1 学び合いの生涯学習の推進

51 生涯学習推進事業

52 ふれあい活動センター運営管理事業

53 公民館運営事業

54 図書館運営管理事業

#### 2 文化芸術の振興と伝統文化の継承

55 総合文化祭実施事業

56 文化芸術振興事業

#### 3 文化財及び町史資料の保護・保存・活用

57 文化財保護事業

58 地方資料館運営事業

59 町史編集事務費

60 伊奈氏屋敷跡保存活用事業

### 第7節 スポーツ及びレクリエーション活動の推進

#### 1 スポーツを通じた元気なまちづくり

61 体育施設維持管理事業

#### 2 スポーツ・レクリエーション事業の充実

62 スポーツレクリエーション振興事業

63 友好都市スポーツ交流事業

## 第5章 共につくる 未来につながるまち ~町民と行政が協働するまちに暮らす~

### 第5節 人権尊重と平和意識の啓発推進

#### 1 人権・同和教育啓発の推進

64 人権教育事業

## II 令和6年度実施事業の点検評価結果

令和6年度実施の事業点検評価については、7ページの「教育施策の体系」ごとに施策の評価を行い、その達成度等を評価しています。（行政評価表）

また、それぞれの教育施策に付随する事業ごとに更に評価を行い、それぞれの課題を明確化しています。（事務事業の評価・課題）

# 令和7年度 伊奈町教育委員会事業点検評価報告書 施策に対する意見 一覧

施策名	学識経験者	学識経験者
<b>第3章 第2節 確かな学力と自立する力の育成</b>	<p>【1. 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多くの事業成績からも児童生徒の適切な学習環境が整えられたことが分かります。各校においても譲り受け研究に着手され、主に学習に取り組む児童生徒の育成、指導力向上等、着実に実績を上げています。校内の研究に留まるほどなく、その成果を広く町内外での活用につなげてください。</li> <li>英語検定に向けた支援事業、着実に成果を上げています。更に受験者数を増やすためのニーズの把握、資格取得への促進をお願いします。</li> <li>新学援制度が適切に運用されていることがあります。児童生徒、保護者の安心へとつなげてください。</li> <li>「施設を達成するうえでの慣習について」の記載で成果指標の値で児童生徒の割合が減少した要因として、端末操作の問題を挙げていますが、他の数値の低下や全員的な数値の減少の分析を受けての課題として受け止めようと思います。次期施策につなげるためにも、比較分析、成果資料として引き継げる数値を残しておかれることを検討ください。</li> </ul>	<p>【1. 学力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>埼玉県学力・学習状況調査の学力を1ランク以上伸ばした児童生徒の割合が10%以上減った主要原因として、紙の調査から一人一台の学習端末を利用した調査への変更が挙げられていますが、本当にそれが生じた要因なのか多少の疑問が残る感じた。ただ、先生方は学力を上げるために様々な工夫をしていましたということは紛れもない事実だと思います。</li> <li>7割以上の生徒が英検3級相当以上の資格を得てあり、大変すばらしいと思っていますが、伊奈町のように高い割合の市町村はどれくらいあるのかと思つ。</li> </ul>
	<p>【2. 新しい時代に対応した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>グローバル化に対応すべく、小学校における早期の英語教育に取り組んでいただけた、ALTの適正な人材数、人材等、採用基準等) 配置がなされ体験的に学ぶことが進められました。その後も継続ください。</li> <li>ICT環境の整備についても最も優先して進められていますが、他の数値の低下や全員的な数値の減少の分析を受けての課題として受け止めようと思います。次期施策につなげるためにも、比較分析、成果資料として引き継ぎ計画的な実施を検討してください。</li> </ul>	<p>【2. 新しい時代に対応した教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>急速なICTの発展に教育界がついでいくのは大変だと思いますが、特に主体的にになってICTを使う教員のスキルの向上が不可欠に思われる。研修の充実に努めたいと思います。</li> </ul>
	<p>【3. 進路指導・キャリア教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>R5に実現できなかった小金中学校の社会体験チャレンジ事業が実施できましたことは良かったです。各事業所の協力により、実現に至ったものと解します。その背景には町内外の学校での大人数を吸引していくだけた状況があり、もうしばらく同様の状況が続くことから、来年度以降も長期的な展望を持って実施環境の整備を願うものです。</li> <li>予算額が前年度の5倍強の数値となっており、執行状況についての記載、取り扱われた事業の詳細についての説明も必要となるのではないかと考えます。</li> </ul>	<p>【3. 進路指導・キャリア教育の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>すべての中学校で中学生社会体験チャレンジ事業が実施されたことはとてもよかったです。小さな町で受け入れていただく事業所をまかなくのは大変だと思いますが、引き続き連携先の確保に努めたいと思います。おそらく実施していると思うが、近隣市の事業所も視野に入れておくといいかもしれません。</li> <li>キャリアサポートが継続して実施されているようで何よりだと思います。小・中学校の引き継ぎを確実にお願いしたい。</li> </ul>
	<p>【4. 幼児教育との連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>保育料制度は適性に、適切に運用されているものと解しました。周知の方法も様々な対応がなされ、貸付対応者の審査、返済に関する相談対応等も適切に行われていることに感謝します。</li> <li>前年度も指摘がされているが、「協議会」の開催回数、開催時期、構成方針等の記載があると実績資料としての評価も残し易い物となるであろう。</li> <li>「小1プロブレム」対応は、町教委として小学校への円滑な接続を推進するため本協議会で十分な議論や連携を引き続き重視ください。</li> </ul>	<p>【4. 幼児教育との連携の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>就学前にすべての子供たちの状況を把握し、適切な教育環境を整えることはとても大切なことです。安心して学校運営や学習指導を行う基礎となることは、保育園、幼稚園をつぶさに協議会の開催だけではなく、町内はもちろん近隣の関係保育園、保育所、幼稚園をつぶさに訪問し状況を把握していることは素晴らしいと思います。</li> </ul>

施 策 名	学識経験者	学識経験者
【5. 特別支援教育の充実】	<p>・全小学校に特別支援学級が設置され受け入れ体制が整っている。また、就学奨励費制度も適切に運用がされており、保護者の負担が軽減されている。今後も支援のニーズが高まる予測もあることから適切な環境整備等の実現について懸念などしているようです。教育行政に限った状況ではないと思いますので、関係部署との適切な調整を進め、利用する保護者の負担とならない方法をでべきだけ早期に確立してください。</p>	<p>【5. 特別支援教育の充実】</p> <p>・クラスに1割程度の発達障害の児童生徒が在籍しているといわれているが、医学の発展等により今後ますます増えることが予想される。保護者はただでさえ自身の狭い思いををしていると思うので国の補助と共に町の支援も引き続き充実させていきたいものだと思う。</p>
【6. 不登校児童生徒への支援】	<p>・適切な人員の配置がなされそれとの役割を果たすよう丁寧かつ適切に対応が進められていることを解しました。</p> <p>・小中学校間の連携を図る生徒指導・相談室等の会議を年間複数回開催し諸課題への対策や協議が行われています。</p> <p>・伊奈中学校内に設置された教育支援センターは振興計画の第2期の大きな事業でもあります。成果を上げているものだと思います。評価表にも具体的な記載がなされています。今後、設置後の活用実績や効果を検証し、残り2つの中学校への設置に向けた準備を確実に進めてください。</p> <p>・家庭内事情への介入の困難さ、児童虐待やヤングケニアーノなど現状の厳しさを感じました。福祉行政関係との連携を十分に図り課題解決に努けてください。</p>	<p>【6. 不登校児童生徒への支援】</p> <p>・伊奈町は田舎独自でスクールソーシャルワーカーを配置し、また教育指導員も複数人雇用して、入的にはども充実していると思う。特に軽い日勤務をしているところである。</p> <p>・中学校に設置した校内教育支援センターがどれくらい機能しているのか知りたいところである。</p>
第3章	<p>【1. 豊かな心の育成】</p> <p>・豊かな心の育成が前年値と比較して大きく低下しており、回答方法の変更による低下が要因となっているようですが、何らかの方法で実態の把握し資料として貢献する必要はあるものだと思います。施策の概要になっています。次年度以降にも継続となる検証であるとともに、今後の目標値設定にも関わるので、指標として使えるような数値の獲得は必須のものであると捉えます。</p> <p>・発達の段階に即した様々な体験活動を取り入れ、豊かな心の育成に取り組んでいたくことを願うものです。事前準備等負担も多いことは思いますが、やり繕りの上で今後も継続していくことに感謝します。</p> <p>・学習指導課の全面実施から複数年が経過しており、年間を通して教育活動全体で適應性を育む取組が着実に進んでいるようです。一方で「道徳性」の目標に基づいた授業展開が多くなってきている記述や苦手教員の研修や学びの機会の確保が課題という記述にはやや消極であるように感じます。教員のさらなる指導力向上に期待します。</p>	<p>【1. 豊かな心の育成】</p> <p>・指標（1）の目標達成率が7割程度で、前年と比べて2割近く落ちているが原因は何なのかと思う。</p> <p>・「道徳的行為に関する体験的な学習」とはどういう学習なのか興味がわいた。また、伊奈町は道徳教育推進委員会ではこの体験的な学習をもとに授業研究会を行なっていると思う。</p> <p>・各校にどう広げていくかが課題になります。</p> <p>・各クラスの道徳年間授業時数は足りているのだろうか。</p> <p>【2. いじめの防止対策の推進】</p> <p>・各学校による取組に留まるところなく、教育指導相談員、教育センター指導員、スクールソーシャルワーカー、さわやか相談員等、必要な人員も関わながら各校の対応を適切に支障されている実態があること、体制がでできていることを解しました。</p> <p>・各校の取組でも小さな子ども見逃さない、積極的な認知、迅速かつ丁寧な対応。未然防止、早期発見、早期対応、再発防止などが適切に進められています。いじめ問題対策連絡会議の開催、関係機関との連携も含め、今後の体制維持についてもお願いします。</p>

施 策 名	学識経験者	学識経験者	
【3. 生徒指導の充実】	<p>・生徒指導の第一歩は児童生徒に「分かる授業」を提供すること。さわやか相談員、いきいき先生、特別支援教育支層員等の必要な人材の配置などによって、児童生徒の健康全育成、きめ細かい支援、児童生徒の自立を自立指向した教育を適切に維持することができます。そのことにより結果的には教員による対応等の負担軽減にもつながることができます。</p> <p>・指標には、県学調の「規律ある態度」が示されており、今年度は大きく数値を下げていることがあるのではないかと考えます。一人一人に寄り添った指導の実践につなげることができると思います。</p>	<p>【3. 生徒指導の充実】</p> <p>・現在の学校教育には、情報教育、消費者教育、食育、ガン教育、SDGsなど様々なものが取り込まれていて、先生方のやることが多すぎるのではないかと思う。教育・生徒指導の基本である子供と教師がしっかりと向き合う時間が確保されているのか不安になる。しっかりと向き合うことができるようになることが肝心だと思います。</p>	
【4. 人権を尊重した教育の推進】	<p>・「特別の教科道徳」の指導を通して、様々な人権課題に対応できる児童生徒の育成を図る。しかしながら授業だけでは指導が完結する事ではなく、あくまでも授業は人権感覚を磨くための土壤づくりにすぎません。人権感覚の育成を図るための工夫改善を通じて、実践的な指導と日常の生活場面でのきめ細かな支援が継続されると願います。</p> <p>・指標によれば、事業実績等が昨年度と比較しても大きく増額されています。施策あるいは事業に何か大きな変更点があるのでしょうか。事業実績等は昨年度と同様の内容が継続して行われていると読み取りましたが、</p>	<p>【4. 人権を尊重した教育の推進】</p> <p>・子供たちにとって学校で最も人権が尊重されない事案ははじめだと思います。いじめに対する細やかな取り組みが行われることに感謝したいと思う。</p> <p>・以前には夏休みの研修で、どの学校も人権研修が1コマはやつていたと思うが、休みが短縮され、ワークライフルラボンスが叫ばれている現在、教員の人権研修はどうなっているのかと思う。</p>	<p>【5. 児童生徒の健康の保持・増進】</p> <p>・児童生徒の健康は、学校経営の基礎になる。各種健康診断における医師会等との調整実施、頭が下がる思いである。最近は様々なアレルギーの子供が増えているという報告があり、少々心配している。</p>
第3章	第4節 賞の高い学校 教育を推進する ための環境の 充実	<p>【6. 体力の向上と学校体育活動の推進】</p> <p>・法定の健診が適切に実施され、児童生徒及び教職員の健康増進につながったと解しました。</p> <p>・日常的に潜む危険、感染症の蔓延やアレルギー疾患への対応など、日頃からの予防対策についても担当課から十分な情報の発信をお願いするものです。</p> <p>・児童生徒の心身の健康状態、メンタルヘルス等についてはその発生要因は複雑となり、本施策のみならずあゆる事業目でも深く関わるものと見えます。早期発見、予防の観点からも、保護者への啓発、保護者との協力、十分な連携を図りながら進めてください。また同様に教職員のメンタルヘルス対策についても十分な対応を願うものです。</p> <p>・本町ではスマホ等通信機器の使い過ぎによる健康障害などの実態把握はされていますでしょうか。</p>	<p>【6. 体力の向上と学校体育活動の推進】</p> <p>・小学校の「新体力テストの県平均を上回っている項目の割合」が前年度と比べて大幅にアップしていく目標直に近づいています。目標直に近づいて評価できると思う。</p> <p>・つい先日、新聞に働き方改革を行なつて教員の多忙化がどうなったか、どう改善結果が記事が載っていましたが、目に見えない仕事が教員にはあり、すぐには改善されていない、その中で中学校の部活動地移行はその多忙化を解消する性の一つになっていたので、指導者の確保等大変だが努力してほしい。</p>

施 策 名	学識経験者	学識経験者
<p>【2. 子どもたちの安心・安全の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域活動を含め適正な教育環境の維持に尽力(ただいて)いることに感謝します。車中心社会となりることに感謝します。車下校時の交通安全等を考慮しての見守り活動は、もはや不可欠のものです。スクールバスをドリーダー、登下校路、登下校時の交通事故等を考慮しての見守り活動は、担当教員等、行政サイドが充分な調整を行つてください。子どもたちが安心安全な学校生活を送ることができるよう、地域環境整備の一層の推進を願ううございます。</li> </ul>	<p>【2. 子どもたちの安心・安全の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールガードリーダーは地域の中心的な役割を担つておられる方が引き受けられ、組織的に運営されていると思います。地域の方々が朝にタマに子供たちの安全を念頭に活動されていることは地域の一本れています。地域の素晴らしいことだと思います。</li> <li>・親や愛着も生まれるまでもういいかず、知り合いの方が学校に踏み込んで子供たちがパンニックになつたことがあります。学校ごとの話し合いつきが、対応が難しいと思つた。保護者たとて言われば学校に入れないわにはいかず、校長・教頭が一日中見回りをするわけにもいかず、難しい。</li> </ul>	<p>【3. 学習環境の整備・充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習環境の整備充実に向け、施設設備・ICT環境等、様々な改修や更新が計画的に進められているところが、地域に近づけることでより、適切に各事業が進行中であるものと解しました。今後の推移を丁寧に捉えながら学習環境の分析やデータ等が確実に蓄積されるよう適切な対応を願うものです。</li> </ul> <p>【3. 学習環境の整備・充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・算確保、予算執行の状況にありながらも、見通しをもつた計画、予算確保等も老朽化が細かく見えており、児童生徒数の減少にも注視し、国や県での学力学習状況調査の開催方法がCBT化に移行していることからも、必要なICT環境整備を進め結果の分析等が確実に蓄積されるよう適切な対応を願うものです。</li> </ul> <p>【4. 学校給食の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食の安全に対する対応は最高位で扱われるものです。何よりも優先して進められているべきもののです。給食施設整備は必須項目です。適切な環境の維持と施設老朽化を乗り越えています。</li> <li>・各校での施設等も老朽化が細かく見えており、児童生徒数の減少とともに、予算計画をしっかり行い早期かつ確実な執行を願うものです。</li> <li>・学校給食の提供は郷土を愛するもつとも身近にある出発点です。また、これからは消費者としての視点を育む大切なポイントでもあります。地産地消の取組を丁寧に取り扱う必要性を感じています。様々な記事からも丁寧にかつ着実な実績として進められているものと解しました。</li> <li>・生命の危機にも及ぶ可能性のある食物アレルギー対策には引き続き万全を期した対応をお願いします。</li> </ul> <p>【4. 学校給食の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる食品価格が高騰している中、限られた給食費で給食を提供するのは至難の業だと思ふ。栄養士はじめ関係者の工夫もあることで乗り切つているのだと思つたが引き続き努力してほしい。</li> <li>・給食費未納者の対応が学校としてはとても難しい。国の動きもあると思うが是非公会計化に向かって頑張ってほしい。</li> </ul> <p>【4. 学校給食の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる食品価格が高騰している中、限られた給食費で給食を提供するのは至難の業だと思ふ。栄養士はじめ関係者の工夫もあることで乗り切つているのだと思つたが引き続き努力してほしい。</li> <li>・給食費未納者の対応が学校としてはとても難しい。国の動きもあると思うが是非公会計化に向かって頑張ってほしい。</li> </ul>
<p>【1. 家庭教育支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学級の開設を丁寧に行ってくださいました。PTA組織のスリム化に伴い、運営方法や開催の形そのものも検討が必要な時期にきています。今後、社会の変化の流れに応うごとなく、参加者目線での開催について充分な協議を重ね方針性を示してください。</li> </ul>	<p>【1. 家庭教育支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAが存在しない学校も増え、親の意識も多様化し、PTAの運営が難しくなっています。本来、学校や行政から独立した組織だけに綿密な連携が必要なのだと思う。</li> </ul>	<p>【1. 家庭教育支援体制の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・PTAが存在しない学校も増え、親の意識も多様化し、PTAの運営が難しくなっています。本来、学校や行政から独立した組織だけに綿密な連携が必要なのだと思う。</li> </ul> <p>【2. 地域の教育力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力向上、指導の目標値超えの実績に運営する側の苦労は想像が難くありません。事後の検証からも開催形式等の課題も浮上している様子です。参加者目標での重複が懸念されますよう願うものです。児童会委員会を運営している方々、ここに賛同する方々に深く感謝します。</li> <li>・社会教育4回体への補助金交付についても団体実績・規範を勘案し、適正な処理を進めていると解しました。活動実績や入員の減少等運営上の課題も少なくないようです。地域活動のさらなる充実、規模拡大に期待します。</li> </ul> <p>【2. 地域の教育力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力向上、指導の目標値超えの実績に運営する側の苦労は想像が難くありません。事後の検証からも開催形式等の課題も浮上している様子です。参加者目標での重複が懸念されますよう願うものです。児童会委員会を運営している方々、ここに賛同する方々に深く感謝します。</li> <li>・社会教育4回体への補助金交付についても団体実績・規範を勘案し、適正な処理を進めていると解しました。活動実績や入員の減少等運営上の課題も少なくないようです。地域活動のさらなる充実、規模拡大に期待します。</li> </ul> <p>【3. 学校・家庭・地域が一体となった教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域人材活用 放課後子供教室」「Wakuくま体験教室」等の事業が円滑に推進されているものと解しました。かなりの回数を土曜日に実施しているが、子供たちにとて土曜日を過ごす選択肢の一つになつていると思う。</li> <li>・放課後子供教室は、12回で164名の参加だと、1回14名程度の参加者で、また学期に1回のみの実施で、需要がないのだろうか。他市では年間120回も実施している。</li> </ul>

施 策 名	学識経験者
第3章 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興	<p>【4. コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置及び推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町教委が開拓ながら、適切な運営、確実な実施が継続されていることにより、すべての小中学校で充実した活動が展開されています。大げさな成果を挙げているものと解しました。</li> <li>・生涯の「強み」や「魅力」を活かし、それぞれの学校・地域の持ち味を出した活動に期待します。更に隣接地域との連携なども必要になります。上手くコミュニケーションで強調し、より強固なコミュニケーションで成長するものと考えます。上手くコーディネートしていくください。</li> </ul>
第3章 第7節 スポーツ及びクリエーション活動の推進	<p>【1. 学び合いの生涯学習の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4事業が展開され、それから高いニーズがあることが実績記録、参加者数からも分かります。「学校開放講座」満足度90%超え、懸念もさることながら内容の充実度も同えます。「パソコン寺子屋」の開催回数が大きく低下した背景には、単なる数値の変動ではなく、利用者のニーズも明らかになるものと想います。</li> <li>・「図書館事業」では非接触型の電子図書館の利用促進うまく機能するど苦者世代の利用者増にもつなげられます。全世代に向けた広報を通じて貸出冊数の増加に活かされる良いと思います。</li> <li>・公民館では地域に密着した丁寧な講座設定がなされています。申込み状況に合わせて定期を増やすなど弹性的な対応ができるのも地域密着ならではのことであります。講師の方にはご苦労をおかけしましたが柔軟な対応でよかったです。</li> <li>・各施設の老朽化対策は適切な補修、メンテナンスを事業計画どおりに進めてください。</li> </ul> <p>【2. 文化芸術の振興と伝統文化の継承】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の観点からも、優れた文化芸術に触れる機会の提供は非常に意義のある事業であると捉えています。伊奈町総合文化祭、伊奈町美術展覧会が50回を数える歴史あるが重宝がなされたことは高い評価に直します。模擬店再開も若い子育て世代にもうれしい、幼い子供を連れて参加しやすい雰囲気へとつながります。様々な調整も必要となります。今後は運営を頼むものです。</li> <li>・地域文化活動の伝承は世代間の接続を丁寧につないでいくことが大切です。各団体の構成員の高齢化と会員数減少、次代の若者参加と後継者育成、いずれも本事業に関わるには柱となる大きな課題であります。</li> </ul> <p>【3. 文化財及び町史資料の保護・保存・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・時を止めるなどなく常に新しいもののへの取り組みが成されているものと解しました。新規の町指定文化財指定・発掘調査等、記録されており具体的でいい。発掘の際地図明会にも多くの参加者が訪れ興味の高さを感じ、他市との交流協定に基づく調査が進められています。担当課の努力に感謝するどともに、今後も関連事業推進に励んでください。</li> <li>・課題として収集資料や出土遺物の増加に応じた保存場所や展示場所の不足が指摘されており、さらに期限切れの公文書についても歴史公文書としての収集・保存が決まっている様子。今後適切な保存方法についても方確実につないでください。</li> </ul>
第3章 第7節 スポーツ及びクリエーション活動の推進	<p>【1. スポーツを通じた元気なまちづくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ施設の維持管理を進める施設・事業であると捉えています。グランド整備、施設修繕、除草、清掃作業など限られた予算の中でもしっかりと実施しているものと解しました。緊急的な破損が増えていている状況は配です。見回り強化を実施していくのも寂しい話です。時間的にも無駄が生じます。利用する方たちの良識ある振る舞いを願うものです。</li> <li>・各種スポーツ施設の利用状況が年度によつてはらつきがでています。このことに関してはどのような分析をされているでしょうか。</li> <li>・施設評価から27万人超えの利用があることから利用率向上に向けた検証を行った上で次期施策に活かしてください。</li> </ul>





# 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。				
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)				
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成	C	施策を検討したが効果が上がらない。未実施。(進捗率0~30%)				
施策名	施策1_学力の向上						
目指す姿	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていきます。						
施策の内容	<p>子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていきます。</p> <p>○児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かかな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</p> <p>○今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するために教職員の資質・能力向上を図る研修に取り組みます。</p> <p>○英検受検補助事業を推進し、受検・取得の支援を行うとともに、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力の向上を図ります。</p> <p>○ICTリテラシーを育む教育を推進するために計画的に環境整備を進めます。</p> <p>○中学生が多様な職種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</p>						
今後に向けた課題・方向性							
指標名	目標(令和6年度)						
(1)	埼玉県学力・学習状況調査学力(国語、算数・数学)を1ランク以上伸ばした児童生徒の割合	72.2%					
(2)	中学校卒業段階で英検3級相当以上の生徒の割合	50.0%					
(3)							
(4)							
成績指標の推移	令和2年度実績 (1) (2) (3) (4)	令和3年度実績 74.5% 62.4%    	令和4年度実績 70.5% 64.4%    	令和5年度実績 69.2% 69.4%    	令和6年度実績 56.2% 60.8%    	決算額 (単位:千円)	
行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源	
	2,646	2,168	552	0	0	1,616	

## 第2節 確かなる学力と自立する力の育成

## ① 1. 学力の向上 [事務事業の評価・課題]

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
英語検定促進事業 【学校教育課】	<p>社会の様々な場面で広く認められる英語検定について、その受検を促進することにより、更なる英語教育の充実を目指すもの。</p> <p>文部科学省の「生徒の英語力向上推進プラン」には、「中学校卒業段階で英語検定3級相当以上50%」の目標が示されており、その達成に向けて、目標の達成を目指す機会を設定するとも、伊奈町の英語教育を充実させた。</p>	<p>令和6年度英語検定促進事業補助金申請状況</p> <p>申請者数：111人 申請率：8.4%（昨年度比 +0.6%） ※中学生1年生～3年生の申請率14.0%（昨年度比+0.3%）</p> <p>町立中学校3年生の英検3級以上取扱状況</p> <p>3級以上取扱者 179人 3級以上取扱得率 34.1%（昨年度比 +8.7%） ※中学校卒業段階で英検3級相当以上のお住（文部科学省実施調査）の割合は69.3%（昨年度比+8.5%）となり、目標値を超えており、「効果指標の推移」にある実施割合は英検3級以上の取扱者ののみの割合としている。）</p> <p>555</p>	893	
【学識経験者の意見等】 ・英語力のさらなる向上に大きく期待するものです。事業推進の大きな成果として数値にあらわれています。・成績指標は文部科学省の目標でも増加をしています。更なる数値の上昇を目指し、継続した事業の推進をお願いしたい。小学校から英語教育にも取り組んでいることから中学校を卒業1～2年生の段階でも興味を示してくれるようになると私もしく感じます。更なる英語教育の充実を図るためにも、中学生3年生の卒業に留まることが多いです。・事業の成果が如実に表れている印象だ。周囲の生徒が受けれる人が多いと、自然と自分も・・・という雰囲気になって受験するかも知れない。これからグローバルな時代に英語の基礎を身につけることはとても重要だと思う。	<p>【学識経験者の意見等】 ・児童生徒の積極的な取り組みを支援するもの。伊奈町の実績を上げた各校の実績を、伊奈町スタイル、伊奈町スタンダードとして他校でも活用できるよう広げていってほしいと思います。私が現役時代は出張で様々な知識や技能を手に入れて授業に生かすようにしてきました。やはり教員は授業で勝負するものだと思つた。各校の研究を支援していくことが必要である。</p> <p>1</p>	<p>令和6年度は、南小学校が「豊かないきをもち、自他共によりよく生きようとする研究」、南中学校が「主体的に自分の学びを高める研究」、小鈴中学校が「主体的に発信する自己表現力の育成」へ他者との関りを通じて、自己効力感を高める学びに取り組む。小鈴中学校が「主体的・対話的で深い学び」をテーマに研究成績の発表を実施した。</p> <p>541</p>	492	
【学識経験者の意見等】 ・研究課題を設定して学校教育目標の具現化のための自主的、自立的な各学校での研究を支援するもの。自校の課題を明確にした課題解決のための計画的・組織的な研究に対して支援するとともに、必要に応じて、具体的な学習指導法の工夫改善、教科指導力の向上等に関して助言を行った。研究期間は2年間であり、2年目は研究の成果を発表する。	<p>教育研究・研修事業 【学校教育課】</p> <p>2</p>	<p>研究課題を設定して学校教育目標の具現化のための自主的、自立的な各学校での研究を支援するもの。自校の課題を明確にした課題解決のための計画的・組織的な研究に対して支援するとともに、必要に応じて、具体的な学習指導法の工夫改善が図られ、学習形態の工夫、教材・教員、掲示物等が充実した。</p> <p>541</p>	492	

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 1. 学力の向上 ①

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
学校理科教材整備事業 【学校教育課】 3	理科教育設備整備費等補助事業（補助率：国1/2）を活用して、老朽化した理科備品を計画的に更新する・継続的に整備していく。 令和6年度は各中学校のニーズに基づき、老朽化した理科備品及び新学習指導要領対応の理科備品を3校合計で5個購入した。	令和6年度に購入した理科備品は、中学校の授業で有効に活用されている。令和7年度は小学校の理科備品の整備を行っていく。 理科備品は単価が高額なものが多いため、各学校のニーズ等を的確に把握して、長期的な見通しをもつて計画的に整備を進めていくことが課題である。	1,212	1,121

#### 【学識経験者の意見等】

- ・今年度設けられた新規の事業であると解します。理科教育振興に向け、各校の備品の管理、所有状況を適切に把握していただき、各中学校のニーズに応じ計画的に備品購入、整備を進めてください。
- ・次年度以降には小学校にも枠組みが広がる様です。各校のニーズを把握し学習指導要領に沿った未整備備品の購入を計画的に進めたいただくことを求めます。
- ・教科書が変わるとたびに新たに備品を購入しなければならないことがあります。各校のニーズを把握し、教育効果を高めるものなので購入を進めてほしいと思う。



## 令和6年度 行政評価表

担当課	教育総務課		
年度	A	B	C
章名	第3章_人を育てはじける笑顔輝くまち	施策の見直し、改善等の検討余地がある。	(進歩率31~70%)
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。	(進歩率0~30%)
施策名	施策1_学力の向上	・就学援助費制度により、公立の小学校又は中学校に在学する児童生徒で、経済的に支援が必要な保護者等に対し、就学のため必要な経費の一部を支給することにより、経済的負担の軽減を図り、就学を支援した。	
目標	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていけるための基礎となる力が育まれています。		
施策の内容	児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。 今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するため教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。 ●英検補助事業を推進し、受検・取得の支援を行うとともに、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力の向上を図ります。 ●ICTリテラシーを育心教育を推進するために計画的に進めます。 ●中学生が多様な職種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。	今後に向けた課題・方向性	
施策達成度	施策に対する理由 (令和6年度の実績及び効果)	認定者の割合は、近年、7%前後で推移し、増加傾向となっており、制度の必要性が高まっている。 ・町内の児童生徒数は減少傾向にある。 ・ひとり親世帯の家庭から毎年一定数の申請がある。また、家庭状況の変化により、経済状況が急変することもある。 ・全児童生徒、保護者に対して就学援助費制度の案内を配布することで、経済的援助を必要とする世帯に周知を行い、適切に支援をすることができた。 ・学校と連携し、周知、申請事務等円滑に行なうことができた。 ・経済的に援助が必要となる理由や世帯状況が、各家庭によりさまざま、かつ複雑になつていて、また、経済状況が急変した場合、適切な支援が必要となることから、各学校や子育て支援課等との情報連携が重要となつている。	施策実現のための課題 住民ニーズの変化について
まちづくり目標の推移	まちづくり目標名 (1) (2) (3) (4)	指標名 目標(令和6年度) まちづくり目標の見直しや支給項目追加を検討する。	次年度以降における施策の具体的な方向性 ・保護者が、安心して児童生徒を就学させることができるように、適切な支援を参考に、必要に応じて支給金額の見直しや支給項目追加を検討する。
行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額 決算合計 3,775	決算額 (単位:千円) 国・県補助 28,484 地方債 94 その他特定財源 0 一般財源 0 28,390	決算額 (単位:千円) 第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況 ・情報発信の推進の観点から、在校生や新入学生の全保護者に学校を通じて周知したほか、ホームページや広報紙に掲載して町全体への周知を行った。

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

【事務事業の評価・課題】		1. 学力の向上 ②			
	事業名	事業内容・実施状況・実績等		評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)
4	小学校児童援助奨励事業 【教育総務課】	経済的に支援が必要な保護者等に対し、就学のために必要な経費の一部を支給するもの。 支給認定者数（令和7年3月末時点） ・要保護 6名 ・準要保護 158名 ・新入学準備金 12名	就学のために必要な経費の一部を支給することにより、経済的な不安を少しでも払拭し、児童及び保護者が安心して学業に専念できる環境を作った。 全児童数に対する就学援助の準要保護認定者の割合は、前年度6.7%であったが、令和6年度は6.8%と増加傾向にある。町内の児童数は減少傾向にあるが、認定者の割合について今後の動向を注視する必要がある。	18,557	16,277 (15,017) ※下段は当該事業決算額
5	【学識経験者の意見等】 ・事業が事業として、適切に機能していることに感謝します。支給認定者数も若干の増加傾向にあることから、その充分な把握と手続き不備などが無いよう、しっかりと支援いただくことを願い ます。安心して学業に専念できることを強く求めます。 ・文科省の調査を見るところ、令和5年度の小学校の就学援助率は13%余りであり、伊奈町は国の割程度であるので、比較的に経済困難家庭は少ないとみることができると思う。それでも支援が必要な家庭は必ずあると思われるので、落ちのないように工夫していただきたいと思う。	経済的に支援が必要な保護者等に対し、就学のために必要な経費の一部を支給するもの。 支給認定者数（令和7年3月末時点） ・要保護 4名 ・準要保護 114名	就学のために必要な経費の一部を支給することにより、経済的な不安を少しでも払拭し、生徒及び保護者が安心して学業に専念できる環境を作った。 全生徒数に対する就学援助の準要保護認定者の割合は、前年度7.9%であったが、令和6年度は8.4%と増加している。町内の生徒数は減少傾向にあるが、認定者の割合について今後の動向を注視する必要がある。	16,658	14,227 (13,467) ※下段は当該事業決算額

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成
施策名	施策2_新しい時代に対応した教育の推進

目標	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていくための基礎となる力が育まれています。
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</li> <li>今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するため教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。</li> <li>英検受検補助事業を推進し、受検取得の支援を行うとともに、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力の向上を図ります。</li> <li>ICTリテラシーを育む教育を推進するために計画的に環境整備を進めます。</li> <li>中学生が多様な学種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</li> </ul>

指標名	目標(令和6年度)
(1) 埼玉県学力・学習状況調査学力(国語、算数・数学)を1ランク以上伸ばした児童生徒の割合	72.2%
(2) 中学校卒業段階で英検3級相当以上の生徒の割合	50.0%
(3)	
(4)	

指標名	目標(令和6年度)
(1) 埼玉県学力・学習状況調査学力(国語、算数・数学)を1ランク以上伸ばした児童生徒の割合	72.2%
(2) 中学校卒業段階で英検3級相当以上の生徒の割合	50.0%
(3)	
(4)	

行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算額 (単位:千円)
合計	26,704	21,054

今年度の施策達成度	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行った。最善に近い。(進捗率71~100%)
施策の理由 (施策に対する実績及び効果)	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
	C	施策を検討したが効果が上がらない。未実施。(進捗率0~30%)
		<ul style="list-style-type: none"> <li>ALT(英語指導助手)活用事業を実施し、外國語の授業ができない小学校1・2年生でも、英語に触れる機会を作った。また、小学校3~6年生、中学校全学年の授業では、ALTによる生の英会話を活用した英語指導導を展開した。</li> <li>・ALTを曜日ごとに小中学校に派遣することで、授業以外の時間にも関わることができ、英語でのコミュニケーションを活用することができる。</li> <li>・從来のALTとの対面の授業に加え、一部の小中学校においては、試験的にオンライン(グループ)ALTを活用した授業を実施し、一人ひとりが英語を話す時間を確保した。</li> <li>・教師用デジタル教科書、ICT環境が充実し、その活用を図ることで、効果的な学習を行うことができた。</li> </ul>
施策実現のための課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTリテラシー(ICTを正しく適切に利用、活用できる力)を育む教育が求められ、今後の授業にも大きく影響すると思われる。</li> <li>・令和2年度から小学校5・6年生で、外國語が正式な教科となつたため、より充実した授業を展開することが求められている。</li> <li>・英語については、急速なグローバル化の進展に伴い、益々国際理解教育を推進する必要があり、保護者にとってもALTの継続は大きな期待である。</li> <li>・ICTを活用しやすい環境を整備し、授業においても効果的な活用が求められている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人との交流や生の英会話を授業に取り入れることで、ネイティブ英語リッシュに触れる機会にできた。また、小学校低学年には、外國語や外国文化に興味・関心を持たせ、小学校中・高学年や中学生には、有効なALTの活用ができた。</li> <li>・ALTとともに学校生活を送ることで、国際理解教育の充実にもつながった。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・国・県の補助制度が見込まれず、ICT環境を整備する上で、どの市町村も財政的に大きな負担となる。ALTについては、中学校3校で2名となつたため、各学校各クラス、週に1時間の授業のみのALT活用となり、コミュニケーションの機会が少なくなっている。</li> <li>・急速なグローバル化の進展やICTの発展に伴い、変化の激しい社会の中で、時代や社会の変化に対応した教育を推進していく。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語指導助手活用事業については、試験的に実施したオンラインによるALTとの会話の機会を増加し、生の英語に触れる機会を一層充実させていく。</li> <li>・各学校の実態に応じて、ICTの効果的な活用を進めている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTリテラシーを育む教育を推進するために計画的に進めている。</li> <li>・各学校の実態に応じて、ICTの効果的な活用を進めている。</li> </ul>

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 2. 新しい時代に対応した教育の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
英語指導助手活用事業 【学校教育課】	<p>小中学校における国際理解教育の推進と英語によるコミュニケーション能力の向上を図るために、ALT（英語指導助手）の派遣契約を締結し、各小中学校に派遣するもの。</p> <p>授業におけるALTとのティームティーチングを通して、小中学生一人一人が異文化に触れ、英語を進んで学習しようとする意欲や態度の育成を行つた。</p> <p>令和6年度は小学校に4名、中学校に2名派遣した。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度と同数6名の配置がなされており、ALTの十分な活用が図られていました。</li> <li>・小学校段階での早期の活用が目を引きます。検証段階では、ネイティブな英会話により、英語学習への意欲の向上が見られ、着実な成果へとつながっている実状にあることがよく分かりました。</li> <li>・ALTを英検受験の事前学習に講師とするなど有効に活用している姿を見てきたので、素晴らしいと思う。やはりネイティブな英語に接する機会は重要だと思うので、予算はかかるが継続してほしい。</li> </ul>	<p>ALTを活用した授業は、国際理解教育の推進と英語によるコミュニケーション能力の育成のためには効果的であった。小学校の学習指導要領に外国語活動が位置付けられ、専任のALTを引き続き配置するなども、有能な人材を確保することなどが重要である。令和5年度から検証しているオンラインによるALTと会話をする直接対話の授業では、児童生徒が必ずALTと会話をすることにより、英語学習への意欲の向上が見られた。今後もALTのネイティブな英会話を有効活用することで、充実した外国語・英語活動を実践していく。</p>	26,704	21,054

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成
施策名	施策3_進路指導・キャリア教育の充実

目標	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていける 基礎となる力が育まれています。
施策の内容	<p>●児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</p> <p>●今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するために教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。</p> <p>●英検受検補助事業の支援を進めます。</p> <p>●英語力の向上を図ります。</p> <p>●ICTリテラシーを育む教育を推進するために計画的に環境整備を進めます。</p> <p>●中学生が多様な学種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</p> <p>今後に向けた課題・方向性</p>

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行ったに近い。(進捗率71~100%) B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%) C 施策を検討したが効果が上がらない。運れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由 (施策に対する金額及び効果)	令和6年度から導入されたキャリア・パスポートを令和5年度も継続して実施し、児童生徒が小学1年生から中学3年生までの9年間を通じて、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりすることができます。	<p>●情報通信技術が急速に進展する中、オンライン活動やバーチャル体験が多くなっている。リアル体験が減少している中で、実際に離場体験することは意義があり、成長の途上にいる中学生にとっては、体験活動は必要なことと考えられる。</p> <p>●児童生徒が自らの学習状況やキャリア形成を見通したりして自己評価を行うとともに、主体的に学ぶ力を育み、自己実現を図っていくことが必要である。</p> <p>●多くの町内事業所が社会体験チャレンジ事業の趣旨に理解を示し、中学生の体験活動に対して協力的である。中学生が地域の中で社会体験を行うことにより、中学生と事業所の方々との心の交流が促進される。中学生自身も体験活動の達成感や充実感を味わうことができ、保護者や地域の方々もこの事業を楽しみにしている。その一方で、男女別や高齢者に開わる事業所では、感染へのリスク管理を最重要視しており、受け入れに対して引き続き慎重な事業所もある。</p> <p>●小学校から、発達の段階に応じたキャリア教育を行うことは、社会的に自立するための資質や能力を養う上で有効である。中学生の社会体験チャレンジ事業を通して、働くことの充実感や達成感、そして働く方々や地域で暮らす方々への感謝の気持ちも生まれ、自立と共生をめざして引き続き社会の実現のために有益だといえる。</p>

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

行政評価表(事業評価一覧)		当初予算額	決算額	決算額 (単位:千円)		
成 果	指標の推移	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
(1)	(1)	22,970	22,561	0	0	22,561
(2)	(2)					
(3)	(3)					
(4)	(4)					

・町内の事業所の理解と協力により、「中学生社会体験チャレンジ事業」を着実に実施し、進路指導・キャリア教育の充実を推進していく。

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 3. 進路指導・キャリア教育の充実 ①

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算)	決算額
教育指導事業 【学校教育課】	<p>児童生徒が自らの力で人生を切り拓き、社会の一員として生き抜いていく自立の力を育成するもの。</p> <p>中学生社会体験チャレンジ事業は、すべての学校で実施した。中学生社会体験チャレンジ事業を通じて、目的意識を持つて主体的に進路選択ができるよう、発達の段階に応じたキャリア教育の充実を図っている。</p> <p>小学生社会体験チャレンジ事業は、すべての学校で実施した。小学生社会体験チャレンジ事業を通じて、目的意識を持つて主体的に進路選択ができるよう、発達の段階に応じて学級活動等を通して行動する、個人目標や個人目標の達成度を育んでいく。</p> <p>中学校では、当番活動や係活動等を通して、集団の一員としての役割を理解し、発達の段階に応じて学級活動等を育んでいく。また、実行、評価をするこにより、主体的に生活する態度を育んでいく。</p> <p>小学校では、当番活動や係活動等を通して、集団の一員としての役割を理解し、発達の段階に応じて学級目標や個人目標の達成度を育んでいく。</p> <p>中学校では、例年社会体験チャレンジ事業を実施し、職業の世界に直接触れるとともに、事業者や地域の方々との人間的な触れ合いを通して、自己を見つめる良い機会としている。愛入事業所を数を増やし、大規模な学校で実施するなどして各校で実施された。「上級学校を知る」「進路決定の仕方」など学級活動を中心として各校で計画的・継続的に実施されており、一人一人の自己実現を支える資質や能力の育成に努めている。体験的な学習は実感を伴った有意義な学習になることから、事業所や保護者、地域の理解と協力を得て引き続きすべての学校で社会体験チャレンジ事業を実施していきたい。</p>		22,970	22,561 (21) ※下段は当該事業決算額

【学識経験者の意見等】  
 •中学生のチャレンジ事業がすべての学校で実施できたことを評価します。今後も受け入れ事業所数を増やし、事業所の負担を軽減しながらもより多くの社会体験の機会が設定されていくことを願うものです。  
 •小学校では集団での活動を通じて、発達段階に応じた指導が展開されていることに安心しました。引き続き十分な活動機会を設けていただきたい。  
 •小針中が生徒数ピークを過ぎたとはいえ、町内の事務所だけの協力だと不足が生じると思われる。学校も新たな事業所の開発に努力していることは思うが、引き続き協力事業所の確保に努めたいと思う。  
 •地域の方が中学生を引き受け受けることで地域の学校としての意識も生徒に芽生えるのではないかと思う。

## 令和6年度 行政評価表

担当課	教育総務課
章名	第3章_人を育てはじける笑顔輝くまち
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成
施策名	施策3_進路指導・キャリア教育の充実

目標	子どもたちが確かな学力を身につけ、社会で自立して生きていけるための基礎となる力が育まれています。
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</li> <li>今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するため教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。</li> <li>●英検受検補助事業を推進し、受検・取得の支援を行うとともに、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力の向上を図ります。</li> <li>●ICTリテラシーを育心教育を推進するために計画的に計画的にできるよう、中学生社会体験チャンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</li> </ul> <p>今後に向けた課題・方向性</p>

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行った最善に近い。（進歩率71～100%）
	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進歩率31～70%）
	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進歩率0～30%）
施策達成度の理由（施策に対する令和6年度の実績及び効果）		<p>・高校または大学・専修学校への進学を希望する生徒の保護者ぐる、経済的理由で進学が困難な方を対象に、奨学資金貸付制度により入学準備金の無利子貸付を行い、学習意欲を持つ生徒を支援した。</p> <p>令和6年度実績：専修学校1件、私立高校2件(貸付金額80万円)</p>
施策実現のための課題	<p>施設を取り巻く環境について</p> <p>住民ニーズの変化について</p> <p>施設実現のため展開した事業は適切であったか</p>	<p>・現在、保護者の収入格差が子どもの教育格差に繋がっていることが社会問題となつており、進学に必要な経費を支援し、経済的負担を軽減し、教育の均等につながる事業は必要性が増している。</p> <p>・「伊奈町奨学資金貸付条例施行規則」により申請期間が毎年12月と定められているが、私立学校では平までに合格発表が行われている事例も増えているため、保護者のニーズに合わせ、柔軟な対応が求められている。</p> <p>・中学校3年生全員にお知らせを学校からメールし、ホームページ、SNSで広く周知した。また、貸付対象者の審査、返済に関する相談対応等適切に処理を行った。</p> <p>・社会情勢の変化や入学試験制度の多様化に対し、常に注視し、柔軟に対応できるよう事業内容の見直しや検討が必要である。</p>
次年度以降における施策の具体的な方向性		<p>次年度以降における施策を達成するうえでの障害について</p> <p>保護者のニーズの要件として、「県内に住所を有し1年以上居住している者であること」と、定められているが、近隣市町村の状況を確認し、要件の緩和を検討する。併せて、高校・大学の入学準備金が増額傾向にあるので、貸付金額の増額を検討する。</p> <p>・「伊奈町奨学資金貸付条例」で貸付対象者は保護者と定めているが、成人年齢(18歳)の、取り扱いや解釈について、自治体の動向など注視する必要がある。</p>
指標名	目標(令和6年度)	
(1)		
(2)		
(3)		
(4)		

成果指標の推移	決算額 (単位:千円)			
	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源
合計	2,000	800	0	617
				183

・情報発信の推進の観点から、中学校を通じ、対象となる中学生の生徒を持つ家庭に情報を配布したほか、ホームページやSNS、広報いなに記事を掲載して町民全体への周知を行った。

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 3. 進路指導・キャリア教育の充実 ②

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題		当初予算額 (補正後予算額)	決算額
		評価	課題		
奨学資金貸付事業 【教育総務課】 8	<p>高校または大学・専修学校への進学を希望する学生と保護者を対象に、入学準備金の無利子貸付を行う。</p> <p>令和6年度貸付件数（令和5年度実績）</p> <p>専修学校1件（0件） 国立大学0件（1件） 私立大学0件（2件） 私立高校2件（0件） 公立高校0件（1件）</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <p>・実状を踏まえた事業と捉えています。適切に運用が図られていることに感謝します。制度周知が十分に図られた上の数値であることを願います。</p> <p>・適切に運用が図らなければ、どこまで運用自体が可能であるのか。引き続きしっかりと制度の設計、更には変化や多様化にも対応しうる見直しが図られることを願うものです。</p> <p>・素晴らしい取り組みだと思いますが、全体で4件と少ないのではないか。必要とする家庭が少ないのか、それとも周知が足りないのか、せっかくの制度なので予算額くらいまで増えるといふと思う。</p>		金銭的・経済的理由により進学が困難な方に対しての進学支援の一助などになっている。 令和6年度は、貸付に及ばないケースもあり、貸付件数3件、貸付金額80万円などができた。今後は、異なる制度の周知に支障を行なうことがでてきた。社会情勢の多様化に対し、柔軟に対応ができるよう事業内容の見直しの検討が必要となる。	2,000	800

## 令和6年度 行政評価表

担当課		学校教育課			
年度	施策	A	B	C	D
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち				
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成				
施策名	施策4_幼児教育との連携の推進				
目標	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていくための基礎となる力が育まれています。				
施策の内容	<p>●児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</p> <p>●今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するために教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。</p> <p>●英検受検補助事業を推進し、受検取得の支援を行います。</p> <p>●ICTリテラシーを育む教育を推進するためには、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力を向上を図ります。</p> <p>●中学生が多様な学種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</p>				
今後に向けた課題・方向性					

今年度の施策達成度	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行った。最善に近い。(進捗率71~100%)
施策の理由	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
施策に対する金額と6年度の実績及び効果	C	施策を検討したが効果が上がらない。運営している。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度		・幼児教育振興協議会を開催し、幼稚園、保育園、保育所と小学校との情報共有を図ることがで きた。 ・来年度の新入学児童についての情報交換の機会を設定し、小1プロブレム(保育園や幼稚園を卒園した後に、子どもたちが小学校での生活や雰囲気になかなか馴染めず、落ち着かない状態が数か月続く状態)解消への取組を行うことができた。
施策実現のための課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小1プロブレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育園、保育所と小学校との連携を一層強化し、子どもたちの学びの連続性を確保することが重要である。</li> <li>・子どもたちに関わる問題が多様化してきており、関係機関が連携して対応していく必要がある。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「小1プロブレム」等の課題に対する保護者の関心は高くなっています。保護者の考え方も多様化しており、一人一人のニーズへの対応が求められる。</li> <li>・幼稚園、保育園、保育所と小学校の連携については、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を推進するうえで、不可欠な事業である。お互いが顔を合わせて協議をすることで、幼児教育に対する共通理解につながった。</li> <li>・関係機関が数多くあるため、協議会との日程調整が困難である。</li> </ul>
次年度以降における実施策の具体的な方向性		<p>施策を達成するうえでの障害について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、幼稚園、保育園、保育所と小学校の連携を図り、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を推進していく。</li> <li>・「小1プロブレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育園、保育所と小学校との連携を一層強化し、子どもたちの学びの連続性を確保できるようとしている。</li> <li>・「小1プロブレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育園、保育所と小学校との情報共有を図り、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を推進していく。</li> </ul>

指標名	目標(令和6年度)	実績(令和5年度)			
(1)					
(2)					
(3)					
(4)					
成 果	令和2年度実績	令和3年度実績			
指標の推移	令和4年度実績	令和5年度実績			
目標	令和6年度実績				
目標の達成度					
決算額 (単位:千円)	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
行政評価表(事業評価一覧)合計	0	0	0	0	0

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 4. 幼児教育との連携の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
幼児教育振興協議会運営事業 【学校教育課】	幼児教育振興協議会を開催する。 次年度の新入学児童についての情報交換の機会を設定し、小1 プロフレム（保育園や幼稚園を卒園した後に、子どもたちが小学校での生活や労用気氛に不確かなか馴染めず、落ち着かない状態が数か月続く状態）解消への取組を行うことができた。	「小1プロフレム」等の課題を踏まえ、幼稚園、保育園、保育所と小学校との連携を一層強化し、子供たちの学びの連続性を確保するにこだわる。 引き続き、幼稚園、保育園、保育所と小学校の連携を図り、幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を推進していく。 なし	なし	なし
9 【学識経験者の意見等】 ・継続した支援が行われている事業。児童の抱える課題が複雑かつニーズの多様化が進む中、幼・保・小・各機関における充分な情報共有を図ることは不可欠である。根幹をなす幼児教育協議会の継続的な開催をお願いしたい。 ・担当者のマンパワーに負うところが大きいのだと思うが、小学校への適切な情報提供に努めたい。最近、外国籍の子供が増え、就学していない子供も相当数いるという報道もあつたが、日本語を頼るからはずつと学習障壁診断にも来ないことがかつてあった。学校も所在不明など家庭訪問を実施するなど、状況の把握に努めたい。				

## 令和6年度 行政評価表

担当課	教育総務課		
章名	第3章_人を育てはじける笑顔輝くまち		
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成		
施策名	施策5_特別支援教育の充実		
目標	子どもたちが確かな学力を身につけ、社会で自立して生きいくための基礎となる力が育まれています。		
施策の内容	<p>●児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</p> <p>●今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するため教職員の資質・能力向上を図る研修に取組みます。</p> <p>●英検補助事業を推進し、受検・取得の支援を行うとともに、小・中学校の英語教育の充実を一層図り、英語能力の向上を図ります。</p> <p>●ICTリテラシーを育心教育を推進するために計画的に実施します。</p> <p>●中学生が多様な職種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</p> <p>今後に向けた課題・方向性</p>		
施策達成度	<p><b>A</b> 施策が既に完了した。見直しや改善を行ったときに近い。（進歩率71～100%）</p> <p><b>B</b> 施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進歩率31～70%）</p> <p><b>C</b> 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進歩率0～30%）</p> <p>・特別支援教育就学奨励費制度により、町立小中学校の特別支援学級に在籍する児童生徒の保護者に対し、就学のために必要な経費の一部を支給することにより、経済的負担の軽減を行った。</p>		
指標名	目標(令和6年度)	次年度以降における施策の具体的な方向性	
成績指標の推移	(1)	第6次行政改革大綱に基づく、取組の進捗状況	
決算額	当初予算額	決算額 (単位:千円)	
合計	3,440	2,021	1,009 0 0 1,012
その他特定財源	国・県補助	地方債	一般財源

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

【事務事業の評価・課題】		5. 特別支援教育の充実			
	事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
10	小学校児童援助奨励事業 【教育総務課】	特別支援教育就学奨励費制度により、町立小学校の特別支援学級に在籍する児童の保護者に対し、就学に係る経費の一部を奨励費として支給するもの。 支給認定者数（令和7年3月末時点） 40名	特別支援学級に通う在籍する児童の保護者に対し、就学に係る経費の一部を補助することで、経済的負担の軽減を行った。 学用品の購入方法の多様化によって、領収書等の提出が困難となる場合があり、保護者の負担につながるため、支給額の計算方法について、検討が必要である。	18,557	16,277 (1,261) ※下段は当該事業決算額
11	中学校生徒援助奨励事業 【教育総務課】	特別支援教育就学奨励費制度により、町立中学校の特別支援学級に在籍する生徒の保護者に対し、就学に係る経費の一部を奨励費として支給するもの。 支給認定者数（令和7年3月末時点） 17名	特別支援学級に通う在籍する生徒の保護者に対し、就学に係る経費の一部を補助することで、経済的負担の軽減を行った。 学用品の購入方法の多様化によって、領収書等の提出が困難となる場合があり、保護者の負担につながるため、支給額の計算方法について、検討が必要である。	16,658	14,227 (760) ※下段は当該事業決算額
	【学識経験者の意見等】	・早期支援に結び付ける体制が整いつつある事は高く評価します。在籍児童生徒の増加に対しても適切に進めてください。多様化する実情にも柔軟に対応ができるよう体制を整えていくことを願うものです。 ・一人一人にあたさきの細かな教育を実施しようとすると、様々な教材を使用したり、また体験活動にも経費がかかりますので、保護者としては助かると思う。	【学識経験者の意見等】	・小学校同様、早期支援に結び付ける体制が町内で整いつつある事は高く評価します。在籍児童生徒の増加に対しても適切な支援が継続して行われる体制づくりを今後も適切に進めてください。 ・一人当たり5万円程度で小学校よりやや多くなるが、こちらも保護者は大いに助かると思う。	

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第2節_確かな学力と自立する力の育成
施策名	施策6_不登校児童生徒への支援

目標	子どもたちが確かな学力を身に付け、社会で自立して生きていくための基礎となる力が育まれています。
施策の内容	<p>●児童生徒の学習状況を把握し、きめ細かな指導をより一層推進することにより、一人ひとりの学力を伸ばします。</p> <p>●今後の時代を見据えた教育課程の改訂(英語、道徳、情報プログラミング等)に対応するために教職員の資質・能力向上を図る研修に取り組みます。</p> <p>●英検受検補助事業の充実を一層図ります。</p> <p>●ICTリテラシーを育む教育を推進するために計画的に環境整備を進めます。</p> <p>●中学生が多様な学種を体験することができるよう、中学生社会体験チャレンジ事業の協力事業所の新規開拓に努めます。</p> <p>今後に向けた課題・方向性</p>

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行った結果に近い。(進捗率71%~100%)
	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31%~70%)
	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0%~30%)
施策達成度の理由 (施策に対する金額と6年後の実績及び効果)		<p>・教育指導事務員、教育センター指導員、スクールカウンセラー、児童生徒への対応をきめ細かに行うことができる。また、教育指導教室を実施する。未実施。(進捗率31%~70%)</p> <p>・直接面談、電話、メールでの相談を行い、相談を行ったことと、増加している不登校児童生徒へ対応することができた。</p> <p>・さわやか相談員を中学校に配置、教育センター指導員を小学校に配置し、児童生徒及び保護者の相談に対応したことと、登校不安への相談に早期に対応することができた。</p> <p>・年間4回、町内小中学校生徒指導会を開催し、町内の生徒指導上の課題における対策について協議したほか、年間3回、相談室等連絡会議を開催し、町内の教育相談上の課題における対策について協議することことができた。</p>
施策実現のための課題		<p>・小・中・高等学校の不登校の児童生徒が急増し全国で約34万人となっている。不登校についでは、多様な要因、背景により、結果として不登校状態になっている。また、生活スタイルの多様化等により、家庭環境及び児童生徒を取り巻く環境もあり、児童生徒を取り巻く環境も複雑化している。これらのことから、専門的で複数に関わる機関との連携など、子どもたち一人一人に寄り添った、丁寧な対応が重要となる。</p> <p>・地域の第三者者が家庭内事情にまで介入することが難しい事情であり、地域で問題を解決する力が低下し、学校が助言・指導等介入する場面も多い状況である。また、生活スタイルの多様化等により、家庭環境及び児童生徒を取り巻く環境も複雑で深刻となり、多岐にわたっている。子どもが置かれている環境は様々であり、児童虐待やヤングケニアーナなど問題を抱えている子どもやその保護者を含めた家庭への支援も求められる。</p> <p>・多岐にわたる相談に応じ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった専門的な資質向上を図ること、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといた専門的な人材を活用していくことが必要である。また、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、関係各課、関係機関との連携を図ることで、有事の際は対応もスムーズになると捉えている。</p> <p>・相談者個々への対応に専門的な知識・技術を要するため、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの人的発展が重要である。また、きめ細かな対応をするために施設を達成するうえでの障害について</p>
次年度以降における施策の具体的な方向性		<p>・町立伊奈中学校に設置した校内教育支援センターを小針中、南中学校にも設置し、不登校生徒への支援を図る。</p> <p>・町費スクールソーシャルワーカーの勤務日数や、小学校へ派遣している教育センター指導員の勤務日数を増やすなどして、いじめ、不登校、児童虐待など様々な問題を抱える児童生徒に対し、よりきめ細やかな支援に取り組んでいく。</p> <p>・安心・安全な学校生活が送れるよう、不登校の未然予防、不登校児童生徒への早期対応および継続した支援に取り組んでいく。</p>
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況		

指標名	決算額 (単位:千円)			
	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債
成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績
指標の推移	(1)	(2)	(3)	(4)
目標値				
目標(令和6年度)				

行政評価表(事業評価一覧)合計	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	23,367	23,820	2,730	0	21,090

## 第2節 確かかな学力と自立する力の育成

## 【事務事業の評価・課題】 6. 不登校児童生徒への支援

## 第2節 確かな学力と自立する力の育成

### 【事務事業の評価・課題】 6. 不登校児童生徒への支援

	事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
13	いじめ問題対策事業 【学校教育課】	町内小・中学校生徒指導主任会議を年4回開催し、町内のいじめ問題における対策を議論するもの。 伊奈町いじめ問題対策連絡協議会を開催し、伊奈町において関係機関との連携を図るもの。 いじめ問題対策事業の取組として、小さな予兆も見逃さないように積極的に認知し、迅速かつ丁寧に対応した。また、いじめ問題対策連絡協議会(令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催)を開催し、関係機関との連携を図った。 年間4回、町内小中学校生徒指導主任会を開催し、町内のいじめ問題における対策を協議することができた。 ネットバトロールを実施し、いじめの未然防止に寄与した。	町内小・中学校生徒指導主任会議の開催において、町内におけるいじめ問題の現状を情報共有、解決に向けた協議をすることができた。 また、伊奈町いじめ問題対策連絡協議会では、いじめ防止等について、関係する機関及び団体（上尾警察・埼玉県中央児童相談所・PTA連合会・伊奈町人権擁護委員・小・中学校校長、役場内関係課）と連携することで、伊奈町の子供たちのいじめ問題の現状を把握し、意見交換を行うことができた。 これらの取組により、いじめの未然防止・早期発見・早期対応のさらなる充実を図る。また、町内小中学校生徒指導主任会にスクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラーを活用した研修を取り入れ、生徒指導力のさらなる向上を図る。	349	170
14	【学識経験者の意見等】 ・事業1.2と目的を共有したことなく積極的な認知が進められていることにより、いじめ問題対策が町単位としてしっかり共有され適切に対応が進められました。関係機関との連携により、現状の把握、意見交換、次の指導につなげる有用な会合などなっています。 ・かづて伊奈町は、積極的にいじめ事案を把握し、埼玉県内でも最もいじめ事案の多い市町村の一つであったと思うが、最近はどうなっているのだろうと思う。 ・生徒指導主任会にスクールカウンセラーを活用するのはどうもよいと思う。身近な事例で実践で実践に即した研修が行える。	小中学校及び関係機関との連携推進事業 【学校教育課】	各中学校にさわやか相談員を配置、また伊奈中学校内に「校内教育支援センター」を設置・支援員を配置し、不登校生徒への支援を行った。	9,664	10,229



## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	施策1_豊かな心の育成
目標	<p>子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整そらわれています。</p>
施策の内容	<p>● 豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</p> <p>● いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向けた組織的な取組を一層推進します。</p> <p>● 子どもたちの見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするためには、教職員だけの対応ではなく、各種支援員・保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</p> <p>● 今後の共生社会の実現に向けて、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。</p> <p>● 子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあると言われていることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組みます。</p> <p>● 児童生徒の健康の保持・増進では、心の健康対策の充実を図ります。</p>
今後に向けた課題・方向性	今後に向けた課題・方向性

今年度の 施策達成度	A B C	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行ひ最善に近い。(進捗率71~100%)	
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)	C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
・学校フームや体験学習、読書活動の充実等、工夫してできるることを摸索し、発達の段階に応じた様々な体験活動を通し、児童生徒の豊かな心の育成を図った。	A		
・伊奈町道徳教育推進委員会による授業研究会を実施し、その成果を推進委員を通じて、各校へ広めることで道徳教育を推進し、特別の教科道徳の授業の充実を図った。			

<p>施策を取り巻く環境の変化について</p>	<p>・改訂学習指導要領の全面実施が小学校は5年目、中学校は4年目となり、「道徳教育推進教師」が校内の中心となり、年間を通して学校の教育活動全般で道徳性を育んでいる。 ・「道徳科」の授業については、問題解決的な学習や道徳的行為に関する体験的な学習を取り入れ、「道徳科」の目標に基づいた授業展開が多くなってきている。 ・経験年数の少ない若手の教員へに対する研修や学びの機会の創設が課題となっている。</p>	<p>住民ニーズについて</p>	<p>・児童生徒が将来、様々な問題に出会った際に、その状況に応じて自己の生き方を考え、主体的な判断に基づいて道徳的実践を行うことができるように、「道徳的価値」の意義や大切さについて「考え方議論する」道徳教育の推進・充実が望まれている。</p>
<p>施策実現のための課題</p>	<p>・生命を大切にする心、他人を思いやる心、善悪の判断、規範意識等の道徳性を養うには、様々な体験を積み重ねることが重要である。花いっぱい運動や伊奈町道徳教育推進委員会の授業研究会等、適切に事業展開することができた。</p>	<p>・道徳の授業における「考え方議論する」道徳の展開等、教職員の資質向上をより一層図っていく必要がある。</p>	<p>・対話的に学び合い、「考え方を深め、「考え方議論する」道徳の授業を推進していくべき児童生徒が、教材を通じて、自分との闇りで道徳的価値を捉えることで、主体的に学び考え、多面的・多角的に道徳的価値を捉える。</p>
<p>次年度以降における施策の具体的な方向性</p>	<p>・道徳教育充実のための教材購入、花いっぱい運動などの体験的な学習の充実、道徳教育推進委員会における研修の実修など、道徳教育の推進が図られている。</p>		

ま ち づ く り	指標名	目標(令和6年度)
	(1) 風が吹き止む「規律ある態度」(各学年2項目)のうち、小学4年生～中学3年生の8割以上が身に付いている項目の割合(小学校3～6年)	93.3%
	(2) 風が吹き止む「規律ある態度」(各学年2項目)のうち、小学4年生～中学3年生の8割以上が身に付いている項目の割合(中学校3～6年)	91.7%
	(3)	
	(4)	

成 果 指 標 の 挿 移	令和2年度実績 (1)	令和3年度実績 (2)	令和4年度実績 (3)	令和5年度実績 (4)	令和6年度実績 (5)
成 果 指 標 の 挿 移	77.8%	63.9%	66.7%	83.2%	66.7%
成 果 指 標 の 挿 移	86.1%	83.3%	86.1%	87.9%	80.6%
成 果 指 標 の 挿 移					
成 果 指 標 の 挿 移					
成 果 指 標 の 挿 移					

行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額	決算額			(単位:千円)
		決算合計	国・県補助	地方債	
	22,970	22,561	0	0	22,561

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

## 【事務事業の評価・課題】1. 豊かな心の育成

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
【学校教育推進課】 教育指導事業	<p>「規律ある態度」の結果（各学年12項目のうち、8割以上が身につけている項目の割合）は、令和6年度は小学校66.7%、中学校80.6%であった。今後も児童生徒が主体性をもって取り組んでいくよう引き続き指導を行っていく。</p> <p>学校アーモや読書活動等、発達の段階に応じた様々な体験活動を通して、思いやりや豊かな心の育成を図った。また、道徳教育推進委員会を開催し、道徳教材や指導用資料を購入する等、道徳授業の充実を図った。</p> <p>【学校教育課】 道徳教育を学校全体として推進し、思いやりのある豊かな心と健やかな体の育成を図った。</p>	<p>「規律ある態度」の結果（各学年12項目のうち、8割以上が身につけている項目の割合）は、令和6年度は小学校66.7%、中学校80.6%である。今後も児童生徒が主体性をもって取り組んでいくよう引き続き指導を行つていく。</p> <p>学校アーモや読書活動等、発達の段階に応じた様々な体験活動を通して、思いやりや豊かな心の育成を図った。また、道徳教育推進委員会を開催し、道徳教材や指導用資料を購入する等、道徳授業の充実を図った。</p> <p>【学校教育課】 道徳教育を学校全体として推進し、思いやりのある豊かな心と健やかな体の育成を図った。</p>	22,970	22,561 (118) ※下段は当該事業決算額

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	施策2_いじめの防止対策の推進

施策の内容	<p>●子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。</p> <p>●豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</p> <p>●いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を一層推進します。</p> <p>●児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするために、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・保護者、相談員、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</p> <p>●子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組みます。</p> <p>●児童生徒の健やかな体の保育・増進では、心の健康対策の充実を図ります。</p>
今後への課題・方向性	

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行ったために新しい最善に近い。(進捗率71%~100%)
施策を実現する理由 (施策に対する金額と効果)	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31%~70%)
施策を実現する理由 (施策に対する金額と効果)	C	教育指導専門員、教育セントー指導員、スクールソーシャルワーカーを配置し、教育センターにおいて学習指導教室を実施するなどもに、教育相談では、直接面談、電話やメールでの相談を行い、相談員(児童・生徒、保護者・教員)に対応した。また、さわやか相談員を中学校に配置、教員セントー指導員を小学校に配置し、児童生徒及び保護者組を相談に応じた。また、いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を組みこなすことができた。また、いじめ問題対策連絡協議会を開催し、関係機関との連携を図った。
施策実現のための課題		<p>●社会全体として、生命の尊さや思いやりの心、そしていじめやその重大事態について、高い関心がある。ケースもあり、児童生徒を取り巻く環境も複雑で深刻になっている。また、SNS等における誹謗中傷やなりすまし等、ネット上のいじめも増加している。</p> <p>●地域の第三者者が家庭内事情にまで介入する事が難しい世情であり、地域で問題を解決する力が低下し、学校が助言・指導等介入する場面も多様化等により、家庭環境及び児童生徒を取り巻く環境も複雑で深刻となり、多岐にわたっている。子どもが置かれている環境は様々であり、児童虐待やヤングケーラーなど問題を抱えている子どもやその保護者を含めた家庭への支援も求められる。</p> <p>●いじめ問題対策連絡協議会を開催し、関係各課、関係機関との連携を図ることで、有事の際は対応もスムーズになると捉えている。また、ネットバトロールを実施することで、いじめを未然に防止することができます。</p> <p>●関係機関と連携し、「非行防止教室」を各小・中学校で開催した。児童生徒の規範意識の醸成や人への思いやりなどの豊かな心の育成により、非行問題行動等の予防・根絶を図り、薬物の乱用、非語中傷・ネット炎上・自撮り被害等のインターネットに関するトラブルの未然防止に努めた。</p> <p>●相談者個々への対応に専門的な知識・技術を要するため、相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの人的労働が重要である。また、きめ細かな対応をするためには、時間も要するため、人員確保が必須である。</p>
次年度以降における施策の具体的な方向性		<p>●定期的に学校生活アンケートを各小中学校で実施し、早期発見・早期対応に努める。</p> <p>●いじめ防止対策推進法第23条にあるとおり、各町立小・中学校が町教育委員会等と緊密な連携の下、いじめに 対応できるよう、毎月10日までに、前月に認知したいじめについて各学校より報告を受け、必要に応じて、各学校との情報共有を図り、迅速な対応をとる。</p> <p>●安心・安全な学校生活が送れるよう、いじめの未然防止、早期発見、早期対応および継続した支援に取り組んでいく。</p>
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況		

指標名	目標(令和6年度)
(1) 県が設定した「規律ある態度(各学年12項目)」のうち、小学3年生～中学3年生が身に付けている率の割合(小学3年～6年)	93.3%
(2) 県が設定した「規律ある態度(各学年12項目)」のうち、小学4年生～中学3年生が身に付けている率の割合(中学校1～3年)	91.7%
(3)	
(4)	

指標の推移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
(1)	77.8%	63.9%	66.7%	83.2%	66.7%
(2)	86.1%	83.3%	86.1%	87.9%	80.6%
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	13,703	13,591	0	0	0	13,591

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 2. いじめの防止対策の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額	
教育センター運営事業 【学校教育課】 16	教育指導専門員（1名）、指導員（7名）、スクールカウンセラー（1名）を配置した。教育センターにおける教育相談件数（直接、電話、メール）は、令和6年度、295件である。希望者対象の補充学習指導を10日間実施し、延べ153名の児童生徒が参加した。	教育センターにおいては、教育指導専門員、教育センター指導員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを配置し、児童生徒への対応をきめ細かに行うことができた。 教育相談では、直接の面談、電話、メール等で相談者（児童・生徒・保護者・教員）とが相談員とすることで、不登校児童生徒が抱える問題に迅速に対応することができた。	13,421	13,354	
【学園経験者の意見等】 ・事業1・2の人的配置の重要性です。・本事業では「いじめ問題」に対応する具体的な記載になっていますが、包涵的な内容の記載に比べて多ください。・希望者対象の補充学習は、5つの学生で各2日実施したと思うが、そうすると実質1学年7～8名程度となる。例年の規模からいうと少々少なかったと思つ。卒業生が先生として参加した。	教育相談及び学習指導を充実させ、不登校児童生徒の減少、学力の向上を図るもの。	教育センターにおいては、中学校に配置したことで、児童生徒及び保護者の相談に迅速に対応し、各校からの状況に応じ、スクールカウンセラーを配置し、児童生徒がどこにどこで、一人ひとりの状況に応じてきめ細かい支援を行うことができる。各校へ配慮した上で、各校へ向けての実施の実施など、増加傾向があり、相談内容も多様化、複雑化しているため、相談者個々へ必要な専門的な知識・技術を有するスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーや指導員の教育センターへの配置、充実が必須である。小学校における不登校児童は各校へ派遣されている教育センター指導員が不在の場合、登校が難しくなってしまう現状があることから、教育センター指導員の勤務日数の増加も必要である。	13,354	13,421	
【学園経験者の意見等】 ・事業1・2の目的を共有した事業と解しました。事業1・2と目的を共有した事業と同様であると考えますが、いじめに関しては学校教員からいじめ問題を現状を情報共有、解決に向けた協議をすることがあります。また、伊奈町いじめ問題対策連絡協議会では、いじめ問題を明確化することで、具体的な支援の方法も見えます。検討してみてください。	町内小・中学校生徒指導主任会議を年4回開催し、町内におけるいじめ問題を現状を情報共有、解決に向けた協議をすることがあります。また、伊奈町いじめ問題対策連絡協議会では、いじめ問題を明確化することで、具体的な支援の方法も見えます。検討してみてください。	町内小・中学校生徒指導主任会議を年4回開催し、伊奈町において関係機関との連携を図るもの。いじめ問題対策連絡協議会（令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催）を開催し、関係機関との連携を図った。	349	170	
【学園経験者の意見等】 ・事業1・4との目的を共有した事業であり、同一歩調で連携ください。小さな予兆も見逃すことなく積極的な認知が進められていることにより、いじめ問題対策が町単位としてしっかりと共有され適切に対応が進められています。関係機関との連携により、現状の把握、意見交換、次の指導につなげる有用な会とつなげています。単なる情報交換ではなく、校内での支援・指導にも適切に反映されることを願います。・報道ではいじめに関する調査の第三者委員会の設置が報道されているが、伊奈町ではその設置の話を聞いていないので良かったのだと思うので、頭が下がる思いである。	いじめ問題対策事業 【学校教育課】 17	町内小・中学校生徒指導主任会議を年4回開催し、伊奈町において関係機関との連携を図るもの。いじめ問題対策連絡協議会（令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催）を開催し、関係機関との連携を図った。	町内小・中学校生徒指導主任会議を年4回開催し、伊奈町において関係機関との連携を図るもの。いじめ問題対策連絡協議会（令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面開催）を開催し、関係機関との連携を図った。	349	170

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	施策3_生徒指導の充実

目標	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</li> <li>いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を一層推進します。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かい対応をするために、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・保護者、相談員、保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>今後の共生社会の実現に向けて、引き続き人権教育の充実推進が求められます。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあります。学校において体力向上の運動の習慣づくりに取組みます。</li> <li>児童生徒の健やかな体の育成のための健康対策の充実を図ります。</li> </ul> <p>今後面向けた課題・方向性</p>

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行った結果に近い。(進捗率71~100%)
施策の理由	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
施策の理由	C	中学校にさわやか相談員を配置して、担任の先生と連携して指導・支援を行った。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度		<p>・中学校にさわやか相談員を配置して、担任の先生と連携して指導・支援員を、日本語で話せない児童生徒には日本語支援員を配置している。こうした人員を各小中学校に配置することことで、児童生徒の健全育成を図ることもしくは、きめ細かい支援、児童生徒の自立を目指した教育を行ふことができた。</p> <p>・正しい生活習慣の確立に向け、「規律ある態度」達成状況調査を実施し、実態の把握を行い、一人一人に寄り添った指導を行ふことができた。</p>
施策実現のための課題		<p>・児童生徒の複雑かつ多様な状況に応じたきめ細かい支援が、今後さらに求められる。</p> <p>・生活スタイルの多様化等により、以前と比べ家庭環境も複雑化しており、児童生徒を取り巻く環境で深刻となり、多岐にわたります。また、SNS等における詐欺中傷やなりすまし等、ネット上のいじめも増加している。</p> <p>・教育相談、特別支援教育、日本語支援員等、引き続き児童生徒一人一人に寄り添った、きめ細かな対応ができるよう支援が求められる。</p> <p>・学校は、安心・安全に教員や友達とつながることができます。そのための教員的な役割も求められている。</p> <p>・児童生徒一人一人に寄り添い、きめ細かいに対応するため、円滑な教育活動の実施のためにも、各種支援員・補助員の配置が必要である。また、問題が生じた際は、その解決のために、学校のみならず、各種関係機関等と連携を図る必要がある。</p> <p>・教員、支援員、相談員の指導力・資質・能力の向上のため、継続して研修等への参加を促すことが必要である。また、児童生徒一人一人の特性を活かすため、担任と教育補助員が連携して一人一人に寄り添った対応をしていく必要がある。</p>
まちづくり目標	指標名	目標(令和6年度)
まちづくり目標	(1) 県が設定した「規律ある態度」(各学年12項目)のうち、小学3年生～中学3年生が身に付いている率の割合(小学3年～12年)	93.3%
まちづくり目標	(2) 県が設定した「規律ある態度」(各学年12項目)のうち、小学4年生～中学3年生が身に付いている率の割合(中学校1～3年)	91.7%
まちづくり目標	(3)	
まちづくり目標	(4)	
まちづくり目標		次年度以降における施策の具体的な方向性
まちづくり目標		・児童生徒の多様な状況に応じ、引き続き、いきいき先生や介助員、学校図書館支援員、小学校に特別支援教育支援員や理科教員、中学校にさわやか相談員、必要に応じて、日本語支援員等、担任の先生と連携して指導・援助を行い、一人一人に寄り添つた、きめ細かな支援をめでていく。また、資質・能力向上の為、引き続き研修参加を促す。さらに、地域を含め、各種関係機関との連携を強化していく必要がある。
まちづくり目標		・安心・安全なまちづくりのため、家庭と地域が一体となり、非行・問題行動の防止や有害環境から児童・生徒を守る取組を継続して行く。
まちづくり目標		第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況

行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
	69,929	66,499	3,369	0	0	63,130

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 3. 生徒指導の充実

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
【学校教育課】 教育補助員等配置事業 【生きる力】	<p>「生きる力」の知の側面である確かな学力の向上を図ることも「生きる力」の習熟度に応じた指導を充実させるもの。また、学校図書館教育、小学校の理科教、特別支援学級の児童生徒一人一人に、きめ細やかな対応ができるよう充実させるもの。</p> <p>各小中学校に教育補助員（いきいき先生）の配置を行った。（小中学校8名）。</p> <p>特別な配慮を要する小学校児童に応じたため特別支援教育支援員の配置を行った。（小学校5名）。（小中学校7名）、理科支援員（小学校2名）の配置を行った。</p> <p>特別支援学級介助員（小中学校21名）の配置を行った。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <p>・教員の業務量の負担軽減にもつながる。引き続き予算配当を充実させることも、多様な人材、人員の配置が適切に行われることを願います。</p> <p>・増加傾向にある不登校支援は、児童生徒の実情に即したサポート体制の一層の充実を目指したい。</p> <p>・今は様々な児童生徒に対して、一人一人にあつたきめ細やかな支援をするのは担任一人ではなくても手厚いと思う。予算が大変だが、是非、引き続き配置をするようお願いしたい。</p>	<p>各小中学校とも、自校の実態を踏まえ、教育活動の充実のために支援員等を効果的に配置し、学習の個別対応の充実、学校生活の向上に係る指導・支援の充実が図られた。児童生徒の学力向上等を図ることで、また、年々増加している不登校児童生徒への対応度に応じた指導を充実させているなど、より一層の教育活動充実を図るために必要な準備（配置時間、配置日数、配置人数等）が大きな課題である。</p>	69,929	66,499

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	施策4_人権を尊重した教育の推進
目標	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</li> <li>いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を一層推進します。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするためには、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・相談員、保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>学校において体力向上の保持・増進では、心の健康対策の充実を図ります。</li> <li>児童生徒の健やかな体を育む教育及び知・徳・体の調和がとれた資質・能力の育成が重要となっています。</li> <li>児童生徒の心と健やかな体を育む教育を通じて、心の健やかな心と健やかな体を育む教育を通じて、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするためには、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・相談員、保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>学校において体力向上の保持・増進では、心の健康対策の充実を図ります。</li> </ul>
今後に向けた課題・方向性	今後は、児童生徒の健やかな心と健やかな体を育む教育を通じて、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%） B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%） C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）									
施策達成度の理由 (施策に対する金額と6年度の実績及び効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学校で、人権教育に係る講話等を行い、人権感覚の育成を図るために、「特別の教科道徳」の授業の充実を行った。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止については、個々の状況や気持ちを共感的に行うこと</li> <li>人一人に寄り添った、きめ細やかな支援を行った。</li> </ul> <p>※特別の教科道徳…2015年に学習指導要領が一部改訂され、各教科や特別活動のようないくつかの教科が「道徳」から「道徳・倫理」と改められ、教科として位置づけられた。</p>										
施策実現のための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人権課題があり、新たなる人権課題も顕在化してきている。特に、子どもに対する虐待相談は増加傾向にある。また、SNSによる人権侵害やLGBTQの人権問題など、人権を取り巻く環境の変化について</li> <li>・子どもたち一人一人の豊かな心と健やかな体を育む教育及び知・徳・体の調和がとれた資質・能力の育成が重要となっています。また、子どもたちの社会性や人間性を育む上で、人権侵害やLGBTQの新たな人権課題への対応が求められている。</li> <li>・児童生徒の人権感覚を育成するために、主体的に人権問題について考えることができる授業を実施するとともに、指導内容や方法の工夫・改善を継続していく。</li> <li>・日常において、人権意識を高めるための啓発を実施していく。</li> </ul>										
次年度以降における施策の具体的な方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な人権課題に対応するため、引き続き、児童生徒に指導を行う教職員のための研修会の実施等が重要となる。</li> </ul>										
まちづくり目標の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>目標(令和6年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標名	目標(令和6年度)	(1)		(2)		(3)		(4)	
指標名	目標(令和6年度)										
(1)											
(2)											
(3)											
(4)											

行政評価表(事業評価一覧)		当初予算額	決算額	(単位:千円)		
成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績	一般財源
(1)						
(2)						
(3)						
(4)						

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 4. 人権を尊重した教育の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
教育指導事業 【学校教育課】 19	<p>児童生徒の豊かな心を育成し、様々な人権課題に対応できる児童生徒を育むため、道徳の授業の充実を図るもの。</p> <p>町内全小・中学校で体験活動の充実を図り、豊かな人間性や社会性を育む取組の一環として行っている花いっぱい運動をはじめ、様々な教育活動を通して、児童・生徒の豊かな心の育成を図った。人権教育推進委員会を開催し、町立小・中学校における人権教育の推進について協議を行った。人権教育に関する研修等、人権教育の育成に対する取り組みを行った。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な体験活動を通じて心の醸成、豊かな心の育成を継続してください。指導する側の指導力の向上、また様々な視点からの人材の活用なども、児童生徒の実態に応じた計画設定・運用を図ってください。特に人権課題に配慮した指導内容の精選も願うものであります。</li> <li>・当初予算が前年に比べて4倍ほどになっています。具体的な事業内容の説明はないですが何が大きな変更がなされたのでしょうか。</li> <li>・小学校はほぼ全ての教科を担任が讀け負つていて、どの教科も大切で大変だと思いますが、人間が人となって、他人に対する思いやりを身につけたり、自分の行動を律するようになるための教科として道徳は極めて大切だと思う。年間授業時数程度の授業時間は実施したいものだと思う。</li> </ul>	<p>「特別の教科「道徳」の時間を要として、伊奈町道徳教育推進委員会による授業研究会の実施など、道徳教育の充実を図ることができた。今後も道徳教育充実のため、道徳教育推進委員会での指導方法の工夫改善に努めしていく。また、体験活動のさらなる充実や、様々な人権課題に対する取り組みに、SDGsとの関連を図りながら、児童・生徒への指導内容の工夫改善に努めしていく。</p>	22,970	22,561 (56) ※下段は当該事業決算額

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課				
年 代	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち				
章名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成				
節名	施策5_児童生徒の健康の保持・増進				
施 策 名	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。				
目 指 す 姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</li> <li>いいめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を一層推進します。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするために、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・保護者、相談員、保健師、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>今後の共生社会の実現に向けて、引き継ぎ人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組みます。</li> <li>児童生徒の健やかな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。</li> </ul>	今後への指向性	今後への指向性	今後への指向性	今後への指向性
施 策 の 内 容					
指 標 名	(1)	目標(令和6年度)			
指 標 値	(2)				
指 標 値	(3)				
指 標 値	(4)				
成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
指 標	(1)				
指 標	(2)				
指 標	(3)				
指 標	(4)				
決 算 額	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源
行政評価表(事業評価一覧)合計	23,318	21,251	0	0	0
					21,251

今年度の施策達成度	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行ったに近い。(進捗率71~100%)
	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅延している。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由(施策に対する金額と実績及び効果)		<p>・学校保健安全法等に定められた児童生徒及び教職員の健康診断等、学校保健関連の事業について、学校医、学校歯科医、学校薬剤師と綿密に連携を図りながら適切に実施し、健康増進を図った。</p> <p>・個々の状況に応じてできるよう、感染症や食物アレルギー等、児童生徒の健康状態について、学校・関係機関・関係課所と情報共有を図った。</p>
施策実現のための課題		<p>・近年の社会環境や生活環境の急激な変化により、新型コロナウイルス感染症、麻疹・風疹などの感染症、ぜん息、食物アレルギーなどのアレルギー疾患、生活習慣病の乱れ等による心身の不調などのメンタルヘルスに関する問題などが見られ、子どもたちの心身の健康に大きな影響を与えている。また、学校現場における働き方改革に伴い、教職員のメンタルヘルス対策の推進が求められている。</p> <p>・学校保健の最近の課題として、体の面においては、発育・発達、アレルギー疾患、生活習慣病、感染症などが挙げられ、心の面では、発達障害や心の成長等に係る課題が挙げられる。</p> <p>・児童生徒の心身の健康状態の変化について、早期発見、予防が必要であることから、保護者等の関心は極めて高くなっている。</p> <p>・本施策である学校保健や学校安全については、日常的に問題がないことが当然であり、子どもたちの生活の場である学校の生活環境を安全で安心できるものにすることが全ての学校教育活動の基盤であり、不可欠である。</p>
施策実現のための課題		<p>・学校現場における教職員のメンタルヘルス対策については、法的位置づけや予算からの優先順位から網羅できていないところがある。</p>
方 向 性		<p>・引き続き、児童生徒及び教職員の健康の保持増進を図り、学校における教育活動が安全な環境において実施されるよう学校保健管理と学校安全管理を円滑に実施し、学校の生活環境を安全で安心できるものにする。</p> <p>・近年、本町教職員が心身ともに疲弊し、病休者が増加傾向であることが大きな問題であり、教職員一人一人の健康状態の確認、改善が必要である。今後、学校現場における教職員のメンタルヘルス対策(ストレッサーク)、健康管理等を効果的に行うためには、全校に産業医を設置し推進していく必要がある。</p>
方 向 性		<p>・社会環境や生活環境の急激な変化は、感染症、アレルギー疾患、心身の不調など様々な健康課題を生じさせ、子どもたちに大きな影響を与えている。引き続き、地域の医療機関、児童生徒の保護者、地域の住民等と連携を図り、学校の生活環境を安全で安心できるものにしていく。</p>

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 5. 児童生徒の健康の保持・増進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
学校保健関連事業 【学校教育課】 20	<p>学校保健安全法等に定められた児童生徒の健康診断、各種検査、教職員健診等、検診器具管理等、学校保健関係の事業を適切に実施するもの。</p> <p>児童生徒の健康診断、各種検査、教職員健診を実施した。 検診器具管理も随時行つた。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <p>・実施と併せて、健診後の結果・管理についてもしつかりとお願いします。記述のあるメンタルヘルスの問題については、適切な予算の確保・執行を年計画での実施を願うものです。 ・教員の精神疾患による休職者が7,000人以上という数字が公表されたが、10年前くらいから一向に減っていない。やうなければならない学習指導や生徒指導、保護者への対応など精神的な負担が大きいのだろう。教員が休みてしまえば学校運営上の損失は計り知れない。教員の精神疾患は、早期発見、早期対応、なおかつ医療機関との連携などに引き続き努めてほしい。</p>	<p>教職員のメンタルヘルス問題は、個人だけでなく、学校運営や児童生徒の学習環境にも大きな影響を及ぼす。今後、学校運営における教職員のメンタルヘルス対策（ストレッサー管理等）を効果的に行うためには、全校にチエック）、健康管理制度を設置し推進していく必要がある。また、学校環境検査に使用している検査器具について、経年の劣化により更新の検討が必要である。</p>	23,318	21,251

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第3節_豊かな心と健やかな体の育成
施策名	施策6_体力の向上と学校体育活動の推進

目標	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心と健やかな体を育む基盤となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</li> <li>はじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向かた組織的な取組を一層推進します。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするためには、教職員たとの対応ではなく、各種支援員・保護者、相談員、保健師、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>今後の共生社会の実現に向けて、引き継ぎ人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組みます。</li> <li>児童生徒の健やかな体を育むための健康対策の充実を図ります。</li> </ul> <p>今後も向かた課題・方向性</p>

今年度の施策達成度	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行ったために新しい最善に近い。(進捗率71~100%)
		B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
施策達成度の理由 (施策に対する金額と効果)	C	施策を検討したが効果が上がらない。運れている。未実施。(進捗率0~30%)
		<p>・体力向上推進委員会においては、児童生徒の体力について、各校の課題における体力向上の取組、授業において工夫した取組等について情報共有を行い、体力維持に向けた指導に活かすことができた。</p> <p>・運動好きの児童生徒の育成のため、各校が児童生徒の実態に応じて、指導内容の創意工夫を行うことができた。</p> <p>・中学校運動部活動の外部指導員・外部指導員の積極的な活用により、子どもたちに豊かな経験をさせ、体力の向上や健康の増進を図った。また、生徒が主ととなつた部活動運営を導くことができた。</p> <p>・町と連携協力に関する基、本協定を締結している、プロバスケットボールのさいたまブロンコスの選手が中学校で技術指導を行つた。</p>

施策実現のための課題	施策を取り巻く環境の変化について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商業施設や住宅などの環境開発など、暮らしや生活環境が便利になったことによって、運動する機会が減りました。</li> <li>・少子化や放課後の習い事の多様化により、運動や外で遊ぶために必要な時間や友達が減少した。</li> <li>・部活動に係る教員の負担軽減が求められている。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・知・徳・体の調和を図り、確かな学力と思いやりの心、そして健やかな体を育成することが期待されている。</li> <li>・学校の休み時間や、家庭における放課後の時間の過ごし方の多様化により、運動の習慣作りが困難な状況にある。</li> </ul>
施策実現のための課題	児童生徒は今後とも継続することが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校では、限られた時間の中で運動の時間を確保した。</li> <li>・中学校では、部活動の外部指導者・部活動指導員を活用し、部活動を適切に行い、体力向上や健康増進を今後とも継続することが必要である。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校での休み時間や、家庭における放課後や休日における過ごし方の多様化により、運動量の減少や運動する子どもとそうでない子どもが見受けられる。</li> <li>・体力向上のためには、日頃の体育授業での運動量の確保、休み時間における外遊びの奨励等、各学校の実態に合わせた特色のある取組を行なうことが必要である。</li> <li>・専門的知識や技術を指導する外部指導者・部活動指導員の入材確保を継続的に行なうことが必要である。</li> </ul>
次年度以降における施策の具体的な方向性	施設を達成するうえでの障害について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育の授業においては、学習規律を確立させ、力いっぱい運動し、思いっきり汗をかく楽しい授業を実践する。</li> <li>・運動好きな子どもを育成する。そのためには、校外の運動会、講習会等に積極的に参加し、その内容を校内に伝達する。</li> <li>・体育の授業時間のみならず、休み時間等を活用した、さらなる体力づくりの取組みが必要である。</li> <li>・学校の働き方改革も考慮した部活動改革の推進を目指し、部活動がイデランで示された「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策について、関係課を調整し、進めしていく。</li> <li>・令和7年度に行なう部活動の実現方策について、関係課を調整し、進めしていく。</li> <li>・中学校の部活動の地域移行については、地域の理解・協力をいただきながら、取り組んでいく。</li> <li>・部活動指導者や部活動指導員の専門的な指導の下、生徒自身が、自主的に活動することができる部活動を実践する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の働き方改革も考慮した部活動改革の推進を目指し、部活動がイデランで示された「学校と地域が協働・融合」した部活動の具体的な実現方策について、関係課を調整し、進めしていく。</li> <li>・令和7年度に行なう部活動の実現方策について、関係課を調整し、進めしていく。</li> <li>・中学校の部活動の地域移行については、地域の理解・協力をいただきながら、取り組んでいく。</li> <li>・部活動指導者や部活動指導員の専門的な指導の下、生徒自身が、自主的に活動することができる部活動を実践する。</li> </ul>
指標名	目標(令和6年度)	目標(令和6年度)
(1) 新体力テストの県平均値を上回っている項目の割合(小学生)	70.0%	70.0%
(2) 新体力テストの県平均値を上回っている項目の割合(中学生)	70.0%	70.0%
(3)		
(4)		

指標名	目標(令和6年度)
(1) 新体力テストの県平均値を上回っている項目の割合(小学生)	70.0%
(2) 新体力テストの県平均値を上回っている項目の割合(中学生)	70.0%
(3)	
(4)	

指標名	目標(令和6年度)
(1) 実施なし	28.1%
(2) 実施なし	35.2%
(3)	
(4) 推移	

指標名	目標(令和6年度)	決算額 (単位:千円)
初予算額	決算合計	93,646 89,622 3,369 0 0 86,253

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 6. 体力の向上と学校体育活動の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
教育補助員等配置事業 【学校教育課】 21	<p>中学校部活動の外部指導者・部活動指導員の積極的な活用により、生徒たちに豊かな経験をさせたり、体力の向上や健康の増進を図るもの。</p> <p>体力向上のための小学校連合体育大会開催に向けた会議に参加し、「支援・助言等を行った。また、体力向上推進委員会を設置し、「体力」達成目標の向上を行った。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <p>・会議内容を受け各校での実践につなげることや推進委員会において適切に町としての取組が推進されているものと解します。</p> <p>・また、児童生徒の体力向上への取組、体育授業時の運動量の確保や休み時間における外遊びの推奨など基礎体力向上に向けた取り組みを期待します。</p> <p>・部活動の地域移行に関するることは、人物の確保が一番の課題となるだろうと思うが、おそらくどの市町村もこれで苦労していることと思う。ただ、学習指導と生徒指導といつ教師本来の責務が中心となるよう努力してほしいと思う。教師が中心となる部活動という日本独自の制度は諸外国にはほとんどないのだから。</p>	<p>体力向上推進委員会においては、児童生徒の体力について、各校の課題や体力向上の取組、授業において工夫した取組等について情報共有を行い、体力維持に向けた指導に活かすことができた。</p> <p>中学校の部活動に豊かな経験をさせ、体力の向上や健康により、子供たちに豊かな経験をさせ、体力の向上や健康の増進を図った。また、学校部活動が主本体となる連携や地域連携を進めることが課題である。</p> <p>今後も日頃の体育の授業時ににおける運動量の確保、休み時間における外遊びの奨励等、児童生徒の体力向上への取組を支援していく必要がある。</p>	69,929	66,499 (1,175) ※下段は当該事業決算額

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行なったに近い。（進歩率71～100%）
章名	第3章 人を育てはじける笑顔輝くまち	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進歩率31～70%）
節名	第3節 豊かな心と健やかな体の育成	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進歩率0～30%）
施策名	施策6.体力の向上と学校体育活動の推進		・伊奈町立中学校の部活動地域移行検討委員会を4回会議を開催した。 ・ハミントンと月例の実証事業を行つた。 ・専門的知識や経験を有する指導者による練習ができるところや町内の生徒を1か所に集約して練習を行うことができたことなどが挙げられる。
目標	子どもたち一人ひとりの豊かな心と健やかな体を育むために必要な環境が整えられています。		
施策の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな心と健やかな体を育む基礎となる、基本的な生活習慣の一層の確立を図ります。</li> <li>いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止に向けた組織的な取組を一層推進します。</li> <li>児童生徒の見守り、問題行動の防止にきめ細かに対応をするために、教職員だけではなく、各種支援員・保護者、地域を含めた関係機関との連携体制を構築します。</li> <li>今後の共生社会の実現に向けて、引き続き人権教育の充実推進に取組みます。</li> <li>子どもの日常的な身体活動が減少傾向にあることから、引き続き小・中学校において体力向上のための運動の習慣づくりに取組みます。</li> <li>児童生徒の健康の保持・増進では、心の健康対策の充実を図ります。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」が示され、学校において教員が顧問を務めて、地域の実情に合わせて段階的に移行していく方針が示された。</li> <li>生徒が活動する機会が損なわれないかの心配がある一方、学校における教員の勤務状況に対する理解が進んでいる。</li> </ul>
今後に向けた課題・方向性			
指標名	目標(令和6年度)		
(1)			・これまで教員が担ってきたことを地域で行うため、指導者の確保や指導者への報酬として予算の確保が必要となる。
(2)			・指導者の人數と質、練習場所の確保が必要となる。
(3)			・指導者への研修や出欠管理など、運営していくための知識やノウハウが必要となる。
(4)			・参加者への費用負担について検討していく必要がある。
次年度以降における施策の具体的な方向性			<ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度までを活動環境整備期間とし、実証事業を行い活動環境の整備を進めていく。</li> <li>令和8年度から10年度までを目途に実証事業を行ながら、地域クラブ活動を段階的に拡大し、定着を図っていく。</li> </ul>
行政評価表(事業評価一覧)合計	令和2年度実績 （1） （2） （3） （4）	令和3年度実績 （1） （2） （3） （4）	決算額 （単位：千円） 決算合計 国・県補助 地方債 その他特記事項 一般財源 0 0 47 0
成果指標の推移			第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況

### 第3節 豊かな心と健やかな体の育成

#### 【事務事業の評価・課題】 6. 体力の向上と学校体育活動の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
地域部活動検討推進事業 【生涯学習課】	<p>令和4年12月に「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に關する総合的なガイドライン」が示され、学校において教員が顧問と務めている学校部活動について、地域の方に指導者を務めてもらう地域クラブ活動へ移行することとなった。</p> <p>「伊奈町立中学校の部活動地域移行検討委員会」を4回会議を開催した。</p> <p>実証事業として、バドミントンと剣道を実施し、参加人数はバドミントン17名、剣道4名であった。</p> <p>実証事業の実施により得られた成果と課題から今後の地域クラブ活動の方向性について検討を行った。</p>	<p>県内の先進地である白岡市や戸田市、隣接市である上尾市の状況について情報収集するとともに、3中学校長や教員の代表から学校現況の意見を聞くとともに、民間団体の代表からも意見を聞き進めることができた。</p> <p>これまで教員が担ってきたことを地域で行うため、指導者の確保や指導者への報酬として予算の確保が必要となる。</p> <p>また、指導者への研修や参加者の募集・集計・出欠管理など、事務量が非常に増加する。</p>	769	428

#### 【学識経験者の意見等】

・中学校部活動の在り方にについて移行期間にあります。先進地や近隣地域の状況を参考に様々な検証を重ねながら、町としての形を適切なタイミングで策りしていくことができればよいと考えます。  
 ・検討委員会での検討を重ね、適切な予算、人員確保や配置、事務量の煩雑さを解消する工夫等、諸課題の解決に向け準備が進んでいるものと解します。引き続き目指すべき地域クラブ活動の在り方について検討いただき早期解決を願うものです。  
 ・明治以来の学校の制度を変えるようといふのだから大変な作業になることは思う。実証事業も立ち上げが、確実に前進していることは評価に値する。教員自身も「部活動は生徒指導に役立つものだ」という認識を改めたほうが良いのではないか。

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔・輝くまち
節名	質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	施策1_学校の組織運営の改善

施策の内容 今後に向けた課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営の改善をより一層推進するために、学校運営協議会設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</li> <li>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。</li> <li>●子どもたち自身が身の回りの危険に気づき、適切な対応がとれるよう、引き続き安全管理に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域施設の老人化が進んでも、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</li> <li>●今後必要性が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制づくりに努めます。</li> <li>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、引き続き計画的な更新・修繕が必要となっています。また、設備の更新にあたっては、小学生が減少傾向にあることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</li> <li>●学校給食の地場産物の調達については、年間を通じて安定的な調達が必要であり、JAやアグリ推進課とともに連携していく必要があります。</li> </ul>
指標名	(1)
指標名	(2)
指標名	(3)
指標名	(4)

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
(1)					
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)
	11,707	11,684 2,940 0 0 8,744

今年度の施策達成度	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行った最善に近い。(進捗率71~100%)
	B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
	C 施策を検討したが効果が上がらない。運れしている。未実施。(進捗率0~30%)

施策達成度の理由 (施策に対する実績と効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクール・サポート・スタッフを全町立小中学校に配置することにより、学校における業務が分担され、教師が学ぶ時間を確保し、自らの授業を磨くことなどを通じて、学校教育活動の充実を図ることができた。</li> <li>●教職員の負担軽減を図ることを目的として、令和3年度から本格運用されたことにより、データ連携による業務時間の短縮・正確な集計作業、全職員での児童生徒情報の共有、各種資料の共有など、効率的な校務処理が実現し、業務時間の削減につながり教育活動の質の向上が図れた。</li> </ul>
施策実現のための課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>●在校等時間の超過勤務の削減、教職員の働き方にに関する意識の向上、部活動の適切な運営など、持続可能な学校教育の改善、充実が求められている。</li> <li>●学校を取り巻く環境が複雑化・多様化し、学校に求められる役割が拡大する中、学習指導要領による「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善やGIGAスクール構想の実現に向けた教育実践など学校教育の更なる充実が求められている。</li> <li>●スクール・サポート・スタッフの配置により、子どもと向き合う時間を確保し、「学習指導」生徒指導」「自己研鑽」など質の高い授業づくりをはじめ、教育活動の充実につながった。</li> </ul>
施策実現のための課題について	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクール時間等は未だに、県の目標には達していない。スクール・サポート・スタッフの勤務日数や時間に限りがあるため、業務が途中で終わってしまうこともある。教育活動の一層の充実のためには、日数や時間の増加が必要である。</li> <li>●スクール・サポート・スタッフの重要性が認識され、様々な場面で活用が進んでいるが、在校時間等には未だに、県の目標には達していない。スクール・サポート・スタッフの勤務日数や時間に限りがあるため、業務が途中で終わってしまうこともある。教育活動の一層の充実のためには、日数や時間の増加が必要である。</li> </ul>

次年度以降における施策の具体的な方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>●スクール・サポート・スタッフ事業については、今後も継続していき、教員が子どもたちと一緒に向き合う時間を確保して、教育の質の向上を図っていく。そのためには、時間増を図る。そのためには、日数や時間の増加が必要である。</li> </ul>
第6次行政改革大綱 に基づく取組の進捗状況	●効果的かつ効率的な組織体制を目指すため、「学校における教職員の働き方改革」をさらに推進し、教員が本来の業務に専念できるよう、教職員の多忙化解消・負担軽減を実現め、教育の質の向上を図る。

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 1. 学校の組織運営の改善 ①

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
【学校教育課】 学校現場における業務改善加速事業	<p>教職員の業務改善に係る意識改革のために、平成29年度から令和元年度まで取り組んだ民衆のコラボレーションを全校で行った。現場の実態に即した業務改善を行うための力丸会議を全校で行った。現場の実態により、教職員の業務改善を行うことによって、教職員の達成感の醸成が図られ、地域との連携が図られ、地域とともにある学校づくりを進めることができた。</p> <p>さらに、勤務時間、県の学力・学習状況調査の分析を行った。令和6年度の在校等時間の超過勤務が月45時間を超える教職員の割合が25.9%、年360時間を超える教職員の割合が55.9%となった。また、令和6年度の年次休暇取得日数が平均で15.2日となつた。</p> <p>学校における働き方改革は喫緊の課題であるため、今後も教職員が本来の業務に専念できるよう、「伊奈町学校の長時間化を解消し、授業や受業準備等に集中したり、子供と向き合う時間を見保していくこと」で教育の質を高める環境の構築を継続して推進していく。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の業務改善は、必ずしも満足等時間を短縮することばかりではありません。その根本にあるのは業務内容の精査・精選であると考えます。単に時間短縮のために削減あります。本当に時間短縮のために削減あります。</li> <li>教職員の皆さんが心身ともに健康で、更に教育の質を高め保護者にも理解され、児童生徒との距離感も適切なものとなることを期待します。</li> <li>教員にも勤務時間があるのだ、というような当たり前のことが当たり前にあります。</li> <li>教員の働き方改革の認識が大きいが、土日は出勤していないのだ、というのではありません。</li> <li>業務量が増大する学期末は仕方ないとして、年間超過勤務時間が360時間を超える職員の割合が50%を超えるのは多すぎのではないか。</li> </ul>	<p>これまでの成果と課題を踏まえ、意識改革、業務改善、業務アシスタンント（SSS）の活用等で、教員が子供と向き合う時間と児童生徒の児童生徒の実現に結び付け、学校の教育力の向上が図られているかの検証を行つた。</p> <p>また、各町立小・中学校でコミュニケーション・スクールと地域学校協働活動の一体的推進が図られたことで、地域住民や保護者との連携が深まり、結果として業務改善につながっている。</p> <p>各データの分析からは、在校等時間の超過勤務が月45時間を超える教職員の割合は年々減少している。</p> <p>在校等時間の超過勤務が年360時間を超える教職員の割合が55.9%と昨年度より3.6%低くなっているが、未だ高水準であるため、今後も、各校で継続して業務改善に取り組むための体制整備を行うことが必要である。</p>	なし	なし

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

## 〔事務事業の評価：課題〕

卷之三

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
スクール・サポート・スタッフ配置事業 【学校教育課】 24	<p>全町立小・中学校にスクール・サポート・スタッフを配置する</p> <p>ことで、教員の業務支援を図るもの。</p> <p>教員が児童生徒への指導や教材研究に注力できる体制を整備するなどができた。各学校で業務改善することを進めていく。内容が構造化され、役割分担を明確にすることで、業務負担軽減につながり、スクール・サポート・スタッフを効果的に活用していく。今後も、役割分担を明確にするとともに、教員の業務負担軽減につなげ、教育の質の維持・向上を推進していく。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員が児童生徒への指導や教材研究に注力できる体制づくりに向け、適切な人員の配置がなされています。今後、長期的展望の下に計画されるなどを期待します。</li> <li>・スクールサポートスタッフの配置が教員の勤務時間超過の削減につながるなどと思ふし、子供と向き合う時間の確保につながるものと思う。</li> </ul>	<p>全町立小・中学校にスクール・サポート・スタッフを配置し、教職員の業務負担軽減を図ることができる。教職員の業務内容を明確にし、さらなる有効な活用を図ることもできる。今後もスクール・サポート・スタッフの配置を継続できるよう予算を確保していく必要がある。</p>	5,916	5,893
統合型校務支援システム運営事業 【学校教育課】 25	<p>教職員の負担軽減を図ることを目的として、令和3年度に導入を行った統合型校務支援システムが、令和4年度から本格運用され、データ連携による業務時間の短縮、正確な集計作業、全職員での児童生徒情報の共有、各種資料の共有など、効率的な校務処理が実現し、業務時間の削減につながり教育活動の質の向上が図られた。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善に向けた取組。具体的な統合型校務支援システム運用から3年目を経過しています。校務支援システム活用が浸透し教職員が負担を感じることなく、学校の実務も効率よく処理がなされています。今後も適切な運用が継続されることは願います。</li> <li>・統合型校務支援システムといふものがどうものかが経験していないのでわからないが、スクールサポートスタッフ等の人的配置をして、コンピュータを使用して業務時間の削減を図っているといふことで、あとはどれだけ活用するかということになるのではないか。</li> </ul>	<p>業者と教育委員会が連携し、統合型校務支援システムを業者が活用しやすい環境を作りやサポートをしてきた。今後も連携していきたい。</p>	5,791	5,791



## 令和6年度 行政評価表

担当課	教育総務課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち
節名	第4節_質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	施策1_学校の組織運営の改善
目指す姿	<p>学校施設の整備、改修が進み、また、保護者や地域との連携が一層進み、児童生徒の安心・安全な教育環境となっています。</p>
施策の内容	<p>●学校運営の改善をより一層推進するために、学校運営協議会設置を促進する条件整備を行つていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p> <p>●子どもたち自身が身の回りの危険に気づき、適切な対応がとれるよう、引き続き安全教育に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域ぐるみでの安全対策に取組みます。</p> <p>●学校施設の老朽化が進んでおり、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</p> <p>●今後必要性が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制づくりに努めます。</p> <p>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、引き続き計画的な更新・修繕が必要となっています。</p> <p>また、設備の更新にあたっては、小学生が減少傾向にあることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</p> <p>●学校給食の地場産物の調達については、年間を通して安定的な調達が必要であり、JAやアグリ推進課とさらに連携していく必要があります。</p>

指標名	目標金額(6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)		
		決算合計	国・県補助	地方債
	138,159	126,622	0	0
			0	0
			0	126,622

今年度の 施策達成度	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。（進捗率71～100%）
	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。（進捗率31～70%）
	C	施策を検討したが効果上がらない。遅れている。未実施。（進捗率0～30%）
施策達成度 の理由		・町立小中学校の学校運営や施設修繕及び樹木剪定等による環境整備にかかる連携を緊密にし、各学校の施設の状況や緊急性を考慮した対応に努めたことで、適切な教育環境の確保に貢献した。

施 策 実 現 の た め の 講 題	施 策 を 取 り 巻 く 環 境 の 变 化 に つ い て	住 民 ニ ー ズ の 变 化 に つ い て	施 設 の 老 朽 化 や 近 年 の 异 常 気 象 に 対 し て 、 教 職 員 自 ら 簡 易 的 な 標 準 補 修 や 工 天 を 行 う な ど 、 教 育 活 動 へ の 負 担 や 維 持 管 理 費 等 は 年々 増 加 傾 向 に あ る 。 ま た 、 教 育 指 導 内 容 の 変 更 や I C T 教 育 の 推 進 、 少 人 数 級 制 度 等 へ の 対 応 も 今 後 も 必 要 と な つ く 。	・ 学 校 施 設 の 老 朽 化 や 近 年 の 异 常 気 象 に 対 し て 、 教 職 員 自 ら 簡 易 的 な 標 準 補 修 や 工 天 を 行 う な ど 、 教 育 活 動 へ の 負 担 や 維 持 管 理 費 等 は 年々 増 加 傾 向 に あ る 。 ま た 、 教 育 指 導 内 容 の 変 更 や I C T 教 育 の 推 進 、 少 人 数 級 制 度 等 へ の 対 応 も 今 後 も 必 要 と な つ く 。
			・ 学 校 は 周 う な い 生 活 が 一 日 の 大 半 を 溶 こ す 学 習 の 場 、 生 活 の 場 で あ り 、 安 心 安 全 な 教 育 施 設 ・ 環 境 の 充 実 が 望 ま れ て い る 。 周 う な い 生 活 が 一 日 の 大 半 を 溶 こ す 学 習 の 場 、 生 活 の 場 で あ り 、 安 心 安 全 な 教 育 施 設 ・ 環 境 の 充 実 が 望 ま れ て い る 。 周 う な い 生 活 が 一 日 の 大 半 を 溶 こ す 学 習 の 場 、 生 活 の 場 で あ り 、 安 心 安 全 な 教 育 施 設 ・ 環 境 の 充 実 が 望 ま れ て い る 。	
			・ 消 費 品 の 購 入 や 学 校 施 設 の 管 理 、 設 備 の 点 檢 等 、 各 校 ど も 計 画 的 に 予 算 執 行 し た こ と で 支 損 な く 学 校 運 営 を 行 う こ と が で き た 。	
			・ 各 校 の 学 校 運 営 を 円 滑 に 行 う に は 、 施 設 や 設 備 が 老 朽 化 し て お り 、 さ ら に 年々 施 設 等 の 傷 み が 激 し く な つ て お り 、 早 期 改 修 が 必 要 で あ る 。 ま た 、 近 年 の 光 热 水 費 や 燃 料 費 、 物 品 、 人 件 費 等 の 高 横 は 考 慮 し た 予 算 编 成 や 事 業 計 画 が 必 要 で あ る 。	

- ・学校は児童生徒が一日の大半を過ごす学習の場、生活の場であり、併せて町民のスポーツ活動や災害時の避難所としての機能も有している。また、地域コミュニティの拠点としても重要な役割を担っている。今後も引き続き、施設の適正な維持管理に努め、学校現場の声に寄り添いながら、児童生徒が安心して学習・生活できる環境整備を図っていく。

- ・第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況
- ・今後の児童生徒数は減少傾向にあるものの、学校施設・設備等の老朽化対策は不可欠であり、バランスをとりながら事業を進める。

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 1. 学校の組織運営の改善 ③

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
26 小学校運営事業 (小室川、小針川、南川、小針北川) 【教育総務課】	各小学校において、必要な経費である会計年度任用職員(学校事務の報酬、文具、消耗品、光熱水費等)を出し良好に学校運営を行った。	学校規模など異なる町立小学校において、教育の均等化を考慮した予算配分を行うとともに、学校行事・授業を中心とする学校運営が円滑に行えるよう調整した。	80,617 (81,378)	73,778
27 中学校運営事業 (伊奈川、小針川、南川) 【教育総務課】	各中学校において、必要な経費である会計年度任用職員(学校事務の報酬、文具、消耗品、光熱水費等)を出し良好に学校運営を行った。	学校規模など異なる町立中学校において、教育の均等化を考慮した予算配分を行うとともに、学校行事・授業を中心とする学校運営が円滑に行えるよう調整した。	57,542 (58,034)	52,844

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち
節名	質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	施策2_子どもたちの安心・安全の確保

目標	学校施設の整備、改修が進み、また、保護者や地域との連携が一層進み、児童生徒の安心・安全な教育環境となっています。
----	--

施策の内容	<p>●学校運営の改善をより一層推進するために、学校運営協議会設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。</p> <p>●子どもたち自身が身の回りの危険に気づき適切な対応がとれるよう、引き続き安全管理に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域ぐるみでの安全対策を組みます。</p> <p>●学校施設の老朽化が進んでおり、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</p> <p>●今後必要性が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制づくりに努めます。</p> <p>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</p> <p>●学校給食の地場産物の調達については、年間を通じて安定的な調達が必要であり、JAやアグリ推進課どさうに連携していく必要があります。</p>
-------	---

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

今年度の施策達成度	A
	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率71%~100%)
	C
	避難訓練等を含めた防災教育や、交通安全教室等を行い、安心・安全な学校生活を送ることができた。 ・スクールガード・リーダー(地域学校安全指導員)や学校応援団等、地域の協力による登下校時に取り組んだ。

施策達成度の理由 (施策に対する金額と実績及び効果)	<p>●登下校時を含めた子どもたちを取り巻く環境は、交通量の増加や不審者等、様々な場面での安全確保のための見守りが必要であり、地域との連携が必要である。未実施。(進捗率0%~30%)</p> <p>●保護者の十分な協力が得られない状況もあり、地域で見守る必要性が高まっている。</p> <p>●登下校時を含めた子どもたちを取り巻く環境は、不審者等も多く、地域の見守り活動等、安全確保が求められている。 ・子どもたちは地域の宝であり、地域住民の安全への意識も高い。</p> <p>●日常の様々な危険に気付き、安全な行動ができるような実践的な態度・能力を育むため、子どもたちが安全についての知識・技能を習得することは必要である。 ・地域の協力を得ながら、子どもたちの安全確保に取り組むことができた。</p> <p>●子どもたち自身の安全意識を高める必要がある。 ・スクールガードリーダーや学校応援団等、地域ボランティアの協力がさらに必要である。</p>
施策実現のための課題	<p>●登下校時を含めた子どもたちを取り巻く環境は、不審者等も多く、地域の見守り活動等、安全確保が求められている。 ・子どもたちは地域の宝であり、地域住民の安全への意識も高い。</p> <p>●日常の様々な危険に気付き、安全な行動ができるような実践的な態度・能力を育むため、子どもたちが安全についての知識・技能を習得することは必要である。 ・地域の協力を得ながら、子どもたちの安全確保に取り組むことができた。</p> <p>●子どもたち自身の安全意識を高める必要がある。 ・スクールガードリーダーや学校応援団等、地域ボランティアの協力がさらに必要である。</p>
次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>●各学校の安全教育では、形式的なものにとどまらず、子どもたち自身の安全意識を高めていく指導を大切にしていく。 ・スクールガード・リーダー研修会を充実させ、地域の声にも耳を傾けながら、協力して子どもたちの安全を守つていけるようにする。</p>
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	<p>●安心・安全に学校生活を送ることができますよう、安全教育を進めている。 協働で、子どもたちの安全対策に努めている。</p>

行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算額	(単位:千円)
合計	819	649	47
成 果	(1)		
指 標	(2)		
の 推 移	(3)		
(4)			

成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
指 標	決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源	一般財源
の 推 移	(1)				
(2)					
(3)					
(4)					

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 2. 子供たちの安心・安全の確保

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
コミュニティスクール推進事業 【学校教育課】 28	<p>スクール・ガードリーダーや学校応援団等、地域の協力による緊急避難登下校時の見守り活動、「こども110番の家」による緊急避難所の確保等、子供たちの安心・安全対策を図るもの。</p> <p>年間を通して、避難訓練等を含めた防災教育や、交通安全教室等を開催した。については、関係各課・関係機関と連携を図りながら、通学路や環境整備に努めている。また、学校においては、学校運営協議会の議題として取り上げるなど、家庭・地域と連携して安全対策を推進している。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験型を含めた交通安全教室は計画的に実施できているでしょうか。時間の確保が中々難しい状況にもあるとは思いますが児童生徒をとり巻く社会、道路事情の変化等を充分に考慮いただき実行性のある予防的教育を願うものです。</li> <li>・登下校時の事故発生件数が〇件。児童生徒への指導の徹底はもちろんのことですが、そのことだけで成立するわけではなく、地域で見守り活動を続けていただけでもあります。感謝いたします。引き続きの協力をお願いします。</li> <li>・学校管理下の事故がなかったようで何よりだった。昨年、学校管理下外ではあるが、私の家の近所で小3年生の事故があった。当該学校はもちろん、市町村全体が暗い雰囲気になってしまった。引き続き事故のないようにお願いしたい。</li> </ul>	<p>令和6年度の登下校時の事故件数は〇件であった。放課後や長期休業中の事故は4件であった。</p> <p>日常の様々な危険に気付き、安全な行動ができるようなくして、児童生徒が安全に過ごすことをめざして、引き続き、交通安全の知識・技能を習得することに努めた。引き続き、交通事故〇件によるよう交通安全の指導を徹底していく。</p> <p>学校のみならず、地域と連携して子供たちの安全確保を図った。</p>	819	649 (99) ※下段は当該事業決算額

## 令和6年度 行政評価表

担当課	教育総務課	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行ったことで、児童生徒の安心安全が確保された。
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率71~100%)
節名	第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策名	施策3 学習環境の整備・充実		・南中学校の校舎トイレ等の改修工事を行ったことで、学校衛生環境の向上を図ることができた。
目標	学校施設の整備、改修が進み、また、保護者や地域との連携が一層進み、児童生徒の安心・安全な教育環境どなっています。		<p>●学校運営の改善をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p> <p>●子どもたち自身が身の回りの危険に気づき、適切な対応ができるよう、引き継ぎ安全教育に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域ぐるみでの安全対策に取組みます。</p> <p>●学校施設の老朽化が進んでおり、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</p> <p>●今後必要性が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制づくりに努めます。</p> <p>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、引き継ぎ計画的な更新・修繕が必要となっています。</p> <p>●また、設備の更新にあたっては、小学生が減少傾向にあることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</p> <p>●学校給食の地場農産物の調達については、年間を通じて安定的な調達が必要あります。</p> <p>●JAやアグリ推進課とさらに連携していく必要があります。</p>
施策の内容	今後に向けた課題・方向性		<p>今後に向けた課題・方向性</p> <p>・施設の維持管理により一層推進するための環境の整備を促進する条件整備を実現するための課題</p>
指標	学校施設の老朽化改修率	目標(令和6年度)	57.0%
指標の推移	(1) 21.0%	令和2年度実績	28.0%
	(2)	令和3年度実績	30.0%
	(3)	令和4年度実績	42.0%
	(4)	令和5年度実績	44.0%
行政評価表(事業評価一覧)合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)	
	372,173	342,018	23,566 142,900 8,615 166,937
その他の特定財源	一般財源		
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況			・安心安全なまちづくりを目指すために、校舎及び体育館の修繕等を適切に進め、長寿化を図ることで、将来的な財政負担の軽減にも貢献している。

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

【事務事業の評価・課題】 3. 学習環境の整備・充実 ①					
	事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
29	【教育総務課】 小学校整備事業	<p>安心安全かつ快適な教育環境の整備を推進するため、町立4小学校の老朽化施設対策や質的向上等の工事を計画的に実施するとともに、突発的な施設修繕に随時対応するもの。</p> <p>令和6年度実施の主要な工事・修繕：南小学校1階理科教室雨漏り改修工事、小室小学校花壇及び小金小学校体育館昇降機修繕他。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の工事として3点（南小、小室小、小金小）が明記されており、事業内容が良く分かります。現況調査により予算を立案して適正に執行されていると了解しました。</li> <li>・施設設備等の老朽化に対しては小学校施設長期修繕・改修計画に基づき、今後計画的に進めください。</li> <li>・3小学校はかなり古いので、修繕が追いついていないところが懸念される。</li> </ul>	<p>南小学校1階理科教室雨漏り改修工事を実施したことでの適正な教育環境を確保することができた。また、小室小学校花壇、小金小学校体育館昇降機修繕を行つたことで、良好な景観の維持及び施設の安全確保に努めた。</p> <p>小金北小学校以外の3小学校については、学校施設・設備の老朽化が進行している。小学校施設長期修繕・改修計画に基づき、計画的に大規模改修を行つ必要がある。また、蛍光灯の製造中止により照明のLED化を早期に進める必要がある。</p>	12,660	12,061
30	【教育総務課】 中学校整備事業	<p>安心安全かつ快適な教育環境の整備を推進するため、町立3中学校の老朽化施設対策や質的向上等の工事を計画的に実施するとともに、突発的な施設修繕に随時対応するもの。</p> <p>令和6年度実施の主要な工事・修繕：南中学校校舎トイレ等改修工事、伊奈中学校2階相談室空調機交換工事及び小針中学校フル循環浄化装置制御盤交換修繕他。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の工事として3点（南中、伊奈中、小針中）が明記されており、事業内容が良く分かります。現況調査により予算を立案して適正に執行されていると了解しました。</li> <li>・施設設備等の老朽化に対しては中学校施設長期修繕・改修計画に基づき、今後計画的に進めください。</li> <li>・予算額、決算額を見ると中学校を中心としたことがうがえる。快適な学習環境が整いつつあるのではないか。</li> </ul>	<p>南中学校校舎トイレを洋式化しリニューアルしたことでの学校衛生環境の向上を図ることができた。また、伊奈中学校2階相談室空調機交換工事及び小針中学校フル循環浄化装置制御盤交換修繕を行つたことで、適正な教育環境を確保することができた。</p> <p>中学校施設長期修繕・改修計画に基づき、計画的な大規模改修の実施が必要である。また、防水機能の劣化により、改修の実施が発生しているため、早期の改修が必要である。さらに、蛍光灯製造中止により照明のLED化の実施も必要である。</p>	214,525 (187,846)	187,163

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 3. 学習環境の整備・充実 (2)

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正予算額)	決算額
31 小学校内管理事業 【教育総務課】	<p>円滑な学校運営を図るため、町立4小学校に用務員派遣等を行うもの。</p> <p>学校給食の運搬及び片付け、校舎内の清掃作業、校庭の清掃・除草作業・植木の手入れなど用務員の派遣を行った。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・教諭が学習に専念できる環境を維持するため、多くの方の手により諸作業も適正に行われていると解しました。</li> <li>・適正な労務単価の中での効務が不可欠です。</li> <li>・業務内容の精査・見直し無くしては考えられないと思います。</li> <li>・業務の優先度を明確にしながら事業を進めてください。</li> <li>・給食の牛乳の搬入などはかなり早い時間に行われる。また、給食センターから配達された給食を各階に移送するなど用務員は不可欠であると想うので引き続きの配置に努めたい。</li> </ul>	<p>町立小学校の給食配膳準備や環境美化を派遣用務員が行うことで児童・教諭が学習に専念できる環境づくりが図れた。</p> <p>学校現場にとつて不可欠な事業であるが、近年の労務単価の上昇により、これまで通りの予算確保が困難な状況どなつている。学校現場と業務の優先度等を調整し、内容の見直しを検討する。</p>	12,546	11,987
32 中学校内管理事業 【教育総務課】	<p>円滑な学校運営を図るため、町立3中学校に用務員派遣等を行うもの。</p> <p>学校給食の運搬及び片付け、校舎内の清掃作業、校庭の清掃・除草作業・植木の手入れなど用務員の派遣を行った。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒・教諭が学習に専念できる環境を維持するため、多くの方の手により諸作業も適正に行われていると解しました。</li> <li>・業務内容の精査・見直し無くしては考えられないと思います。</li> <li>・業務の優先度を明確にしながら事業を進めてください。</li> <li>・小学校と同じで配置は不可欠と想われるのに、引き続きの配置に努めたい。</li> </ul>	<p>町立中学校の給食配膳準備や環境美化を派遣用務員が行うことで生徒・教諭が学習に専念できる環境づくりが図れた。</p> <p>学校現場にとつて不可欠な事業であるが、近年の労務単価の上昇により、これまで通りの予算確保が困難な状況どなつている。学校現場と業務の優先度等を調整し、内容の見直しを検討する。</p>	6,999	6,619

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

【事務事業の評価・課題】 3. 学習環境の整備・充実 ③					
	事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額(補正後予算額)	決算額
33	小学校施設維持管理事業 【教育総務課】	町立4小学校施設設備の各種保守業務を行い、設備が適正に稼動できるよう法定点検の実施や維持管理を行つもの。 安心安全な学校運営を行えるよう警備業務、受水槽、電気設備、防火設備、給水設備、道具保守点検等を実施した。また、トイレ・窓ガラスクリーニングの実施や空調設備を適切に運用し、衛生管理や児童の学習面・健康面での充実を図った。	町立4小学校施設設備において、各種保守業務や法定点検等を実施し、適正な施設管理を行つことができた。 老朽化している設備が多いため、毎年のメンテナンスが欠かせない状況である。そのため設備にかかる修繕料の継続的な予算確保が必要である。	34,914	34,704
34	中学校施設維持管理事業 【教育総務課】	町立3中学校施設設備の各種保守業務を行い、設備が適正に稼動できるよう法定点検の実施や維持管理を行つもの。 安心安全な学校運営を行えるよう警備業務、受水槽、電気設備、防火設備、給水設備、道具保守点検等を実施した。また、トイレ・窓ガラスクリーニングの実施や空調設備を適切に運用し、衛生管理や生徒の学習面・健康面での充実を図った。	町立3中学校施設設備において、各種保守業務や法定点検等を実施し、適正な施設管理を行つことができた。 老朽化している設備が多いため、毎年のメンテナンスが欠かせない状況である。そのため設備にかかる修繕料の継続的な予算確保が必要である。	28,394	28,252
35	小学校教科備品等購入事業 【教育総務課】	【学識経験者の意見等】 ・昨年印刷機を一括更新した以上に、本年の予算執行がなされているが、何か特別な対応、事業内容が発生しているのでしょうか。単に老朽化によるメンテナンス費用であるなら順次交換も視野に計画をもって行ってください。 ・各種保守業務や法定点検は必要経費なので、教職員が安心して教育活動に励めるよう引き続き予算の確保をお願いしたい。	各校の実情に合わせた教材の購入を行い、教育環境の充実を図るもの。 各小学校購入図書冊数：小室小249冊、小針小255冊、南北243冊、小針北小375冊 *予算：小針北小は713千円、それ以外の3校は513千円。	4,483	4,441
	【学識経験者の意見等】 ・各校の特色・実情に応じた備品等整備購入が進んでいることに感謝します。文科省の基準冊数を満たしていない現況は早急に改善されることを願っています。記載の図書購入予算では当初の予算の半額程(2,252千円)だが、今後の整備完了の見通しはどうか。 ・本は毎年購入して増やしていくが、必ず廃棄するものも出てくる。ボランティア等によって補修してもなかなかかからない状況ではないかと思う。図書館の積極的な利用を児童生徒に促すとともに、本を丁寧に扱う指導も必要だと思う。本は、心の栄養、間接体験、言語の習得など効果も大きいので予算の確保をお願いしたい。	町立小学校において、文部科学省など上位機関の指導や各学校の特色・実情に応じて教材整備を図るほか、学校図書室の内容充実に努めた。なお、学校図書もあたため、限られた予算の中で計画的に実施購入していく必要がある。			

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 3. 学習環境の整備・充実 ④

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
中学校教科備品等購入事業 【教育総務課】 36	各校の実情に合わせた教材の購入を行い、教育環境の充実を図るもの。 各中学校購入図書冊数：伊奈中308冊、小針中539冊、南中224冊 *予算：小針中は871千円、それ以外の2校は505千円。	町立中学校において、文部科学省など上位機関の指導や各学校の特色・実情に応じた教材整備を図るほか、学校図書室の内容充実に努めに。なお、学校図書もあるため、限られた予算の中で計画的に実施購入していく必要がある。	4,259	4,253
65 37	【学識経験者の意見等】 ・各校の特色・実情に応じた備品等整備購入が進んでいます。記載の図書購入予算では当初の予算の基準冊数を満たしていない現況は早急に改善されることを願っています。 ・前年と比較すると大きく予算の増額がなされています。 お問い合わせしてしまった。 ・生徒一人当たりの貸し出し冊数など各校で統計は出ているのだろうと思うが、費用対効果も把握したほうが良いのではないのではなかうか。			
65 38	教育委員会事務局事務費 【教育総務課】 37	教育委員会事務にかかる事務費、文書集配に係る労働者派遣料及び就学援助等管理システムの保守管理等を行う。	9,412	9,559
	【学識経験者の意見等】 ・昨年の行政評価に挙がっていない事業です。事務局の運営が円滑となるよう適切に執行されることを望みます。 ・教育委員会の事務執行の必要経費だと思うが、確実に執行して各学校や町民のための教育行政に資するようにしたいものだと思う。	消耗品の購入や公用車の点検、就学援助システムの運営を行うこと等ができた。		
	GIGAスクール構想に基づく学校のICTを活用した授業環境の高度化の推進を図るもの。 町立小中学校ICT教育環境維持管理事業 【教育総務課】 38	校内LAN設備等の保守管理を適正に行なったことで、ICT教育環境の安定的運用を確保することができた。 今後は学力調査等のICT化に対する通信速度の確保や、常に変化するICT教育における現場のニーズに合わせた整備を行い、個別最適な学びの実現に向けて教育環境の充実化を図っていく必要がある。 また、校内LAN環境の保守や通信料等、ランニングコストの継続的な予算確保が不可欠である。	43,981	43,979
	【学識経験者の意見等】 ・前年度は校務用機器の一括更新がなされており、ある程度整備が進んだものと解するところですが、本年度はそれよりも予算・決算額とも大きく増額しています。実績・評価はなされていますが、今後の課題も大きくクローズアップされており、今年度の事業の進捗が今一つ理解が追いつかないところがあります。 ・ICT教育のためのネットワーク通信環境、機器整備や保守管理等についての具体的(どこにどの程度のボリュームで振り分けている等)の記載があると本事業への理解が進むものだと思います。計画的な事業運営を願うもののです。 ・A1や生成A1といったものの活用状況で、日本の学校は先進国中フランスに次いで下から2番目という報道があった。これから一層教育界にもA1や生成A1が広がっていくと思うので、準備が必要かと思う。			



## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔_輝くまち
節名	第3節_質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	施策3_学習環境の整備充実

施策の内容	今後に向けた課題・方向性
	<ul style="list-style-type: none"> <li>●学校運営の改善をより一層推進するために、学校運営協議会設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</li> <li>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図っていく必要があります。</li> <li>●子どもたち自身が身の回りの危険に気づき適切な対応がとれるよう、引き続き安全管理に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域ぐるみでの安全対策を組みます。</li> <li>●学校施設の老朽化が進んでおり、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</li> <li>●今後必要性が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制づくりに努めます。</li> <li>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、引き続き計画的な更新・修繕が必要となっています。また、設備の更新にあたっては、小学生が減少傾向にあることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</li> <li>●学校給食の地場産物の調達については、年間を通じて安定的な調達が必要であり、JAやアグリ推進課どさうに連携していく必要があります。</li> </ul>

指標名	目標(令和6年度)
(1)	
(2)	
(3)	
(4)	

成 果	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
(1)					
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算額 (単位:千円)
合計	52,318	51,903

今年度の施策達成度	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行ったときに近い。(進捗率71~100%)
	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
施策達成度の理由 (施策に対する金額及び効果)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒1人/台端末の活用に向け、アカウントの整備や各種設定、活用に関する情報提供、授業支援ソフトの導入等、ICT教育の推進を支援することができた。</li> <li>・自作教材・教具展を開催し、教員の資質能力の向上、教材環境の充実を図ることができた。</li> </ul>
施策実現の実績について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習者用デジタル教科書を紙の教科書を主とする教材として使用しながら、必要に応じて学習者用デジタル教科書を併用することができることになった。次期教科書改訂を視野に入れ、学習者用デジタル教科書の実証実験も行われている。</li> <li>・確かな学力と自立する力の育成のためにも、学習環境の整備・充実が求められている。</li> <li>・1人/台端末の整備が完了したことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、ICTの効果的な活用が求められている。</li> </ul>
施策実現の課題について		<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的・対話的で深い学びの実現に向けた指導方法の工夫・改善が求められており、1人/台端末の活用に向け、アカウントの整備や各種設定、活用に関する情報提供、授業支援ソフトの導入等、ICT教育の推進を支援した。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を図るために、ICTの効果的な活用が必要なことから、ICTを活用した教材・教具の工夫も必要となる。</li> <li>・ICTの活用が進む一方で、家庭において学習用端末を活用する際に、インターネット上の有害サイトにつながってしまうといった弊害が懸念される。</li> </ul>
次年度以降における施策の具体的な方向性		<ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い学校教育を推進するため、ICTを効果的に活用し、教育効果のさらなる向上に努める。</li> <li>・学習者用デジタル教科書の実証実験など国の動向を注視していく必要がある。</li> <li>・安心・安全で質の高い学校教育の環境整備に、計画的に取り組んでいく。</li> </ul>

第6次行政改革大綱  
に基づく取組の進捗  
状況

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 3. 学習環境の整備・充実 ⑤

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
教育指導事業 【学校教育課】 39	小学校の教科書改訂に合わせた教師用指導書、指導者用デジタル教科書、児童生徒の副読本の購入により、指導の充実を図るもの。 各小・中学校で自作教材・教具展を開催し、自作教材・教具の作成・活用、校内及び町内での共有を図るもの。	授業目的公衆送信補償金制度により、授業でのICTの活用を図ることができ、オンラインで学習を行うことができた。 小学校の教科書改訂があつたため、教師用指導書を購入した。令和7年度に中学校の教科書改訂があるため教師用指導書を購入する必要がある。また、令和7年度が小学校社会科副読本(3学年、4学年、約750円×約900部×3年間)を購入する年度となるため、計画的に行う必要がある。 各小・中学校で自作教材・教具展を開催し、教育委員会による審査を行い、質の向上を図った。その上で、自作教材・教具の活用、校内及び町内での共有を図った。	22,970	22,561 (19,470) ※下段は当該事業決算額
学校ICT環境整備事業 【学校教育課】 40	【学識経験者の意見等】 ・昨年度よりも5倍以上の予算額が計上されており、デジタル化推進により必要な機材の購入や指導書の購入にも、多額な予算が割かれています。各校においても予算に見合う充分な活用が図られることを願います。 ・働き方改革の取り組みが進み自由に使える時間も限られた中、自作教材・教具の開発などで広く共有していくべきです。 ・授業づくりの実践に努めていたくことを願うものです。 ・教科書改訂のたびに指導書購入となるが、できるだけ教師一人一人に一冊が与えられるよう配慮してほしいと思う。また、デジタル教科書の活用状況が気になるところである。 ・小学校の社会科副読本の作成は、この任務を町内教員が請け負うと、取材から編集まで大変な作業になる。安価な価格で業者委託できるのなら担当教員の負担軽減になるので継続してほしい。	現在使用している授業支援システムを更新し、引き続き児童生徒の基礎・基本の学力向上、学習意欲の向上を図るもの。	29,348	29,342

【学識経験者の意見等】  
・昨年の行政評議会に挙がっている事業です。多くの予算が割かれ導入・活用へとつながっています。基礎・基本の学力向上、学習意欲の向上など充分な成果へとつながったと思う。  
・かなりの予算がかかっているので「学習意欲の向上などで大変よかったです。基礎・基本の学力向上、学習意欲の向上など充分な成果へとつながることを求めるものです。

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校給食センター
章名	第3章_人を育てはじける笑顔輝こまち
節名	第4節_質の高い学校教育を推進するための環境の充実
施策名	施策4.学校給食の充実
目指す姿	<p>●学校施設の整備、改修が進み、また、保護者や地域との連携が一層進み、児童生徒の安心・安全な教育環境となっています。</p>
施策の内容	<p>●学校運営の改善をより一層推進するために、学校運営協議会設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を行つてていく必要があります。</p> <p>●子どものために自身が身の回りの危険に気づき、適切な対応がとれるよう、引き続き安全教育に取組むとともに、地域の協力を得つつ、地域ぐるみでの安全対策に取組みます。</p> <p>●学校施設の老朽化が進んでおり、改修・修繕には多大な費用がかかるため、計画的に老朽化対策を進めます。</p> <p>●今後必要が高まるICT教育やプログラミング教育を充実するための体制つくりに努めます。</p> <p>●学校給食センターの設備について、計画的に更新・修繕を進めていますが、半数以上の設備が老朽化していることから、引き続き計画的な更新・修繕が必要となります。また、設備の更新にあたっては、小学校が減少傾向にあることから、今後の供給量への適切な対応を検討します。</p> <p>●学校給食の地場産物の調達については、年間を通じて安定的な調達が必要あります。</p> <p>●アグリ推進課どさらに連携していく必要があります。</p> <p>今後に向けた方向性</p> <p>会議で議題、方向性</p>

今年度の施策達成度	A	B	C	A 施策が既に完了した。県直しや改善を行った最善に近い。(進捗率71~100%)	B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)	C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
の理由 (施策に対する金額16年度の実績及び効果)	<p>●天候不順や夏の猛暑により、まちづくり目標値には到達しなかつたが、JA直売所と連携し、可能な範囲で地場産物を使用した。</p> <p>●衛生基準を意識した管理を行い、安心安全な給食を提供することができた。</p> <p>●下処理室内外のグレーチング枠を全部修繕したことで、作業環境の改善を図ることができた。</p> <p>●調理機器の故障などに適切に対応し、予定した給食を提供することことができた。</p> <p>●毎日の提供内容を町公式ホームページで写真を添えて紹介し、販売や食材に関わる情報発信を行った。</p>	<p>●天候不順や夏の猛暑により、まちづくり目標値には到達しなかつたが、JA直売所と連携し、可能な範囲で地場産物を使用した。</p> <p>●調理機器の故障などに適切に対応し、予定した給食を提供することことができた。</p> <p>●毎日の提供内容を町公式ホームページで写真を添えて紹介し、販売や食材に関わる情報発信を行った。</p>				

指標名	目標(令和6年度)		
	まちづくり指標	学校給食における地場産物使用割合	22.0%
(1)			
(2)			
(3)			
(4)			

指標名	決算額(単位:千円)		
	当初予算額	決算合計	地方債
行政評価表(事業評価一覧) 合計	122,798	120,652	0 0 0 120,652

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

【事務事業の評価・課題】 4. 学校給食の充実 ①		事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
41	給食センター管理事務費 【給食センター】	給食調理業務に伴う事務用機器等の管理や会計年度任用職員(16名)の人事費にかかるものの。 職員の安全衛生意識の普及・定着を目的とした勉強会を実施した。	正規調理員の複数退職に伴い、新たに会計年度任用職員(調理員)を複数任用したため、知識や技術の習得が急務となっている。 また、正規調理員が複数欠勤したことににより、今後の給食センター正規調理員に係る方針を検討していく必要が生じている。	31,681 (34,218)	33,723
42	【学識経験者の意見等】 ・人的配置にかかる事業です。事故はなくして当たり前の、単純かつ初步的なヒューマンエラーにつながることの無い、作業の正確さが必要です。適正に執行してください。 ・人員の交代もやむを得ない背景にマニュアルの厳格化など複数の目で確認しながら予測される防止対応にて万全を期してください。 ・職員が代わるのは長い目を見て避けられないことなので、新しい職員への伝達を確実にして、子供たちへの安心安全な給食の提供に努めていただきたい。そういう意味では、職員の勉強会を実施したいというのには評価すべき点だと思う。	職場内の環境改善を図るとともに、調理場及び洗浄室の点検調整、修繕及び調理場の衛生管理を図るもの。 令和6年度実施の主要な工事・修繕：下処理室グレーチング枠修繕、地下蒸気配管、マイコンスライサー・コンベヤー(送り・押さえ)、交換。	機器の状態を良好に保つよう職員による日常の点検整備・確認を徹底し、大きなトラブルもなく全日程を稼働できた。 可能な限りの職員対応により修繕を実施しているが、老朽化が原因の部品交換を伴う故障も頻発している。 補修用部品保有期限を過ぎているものも複数あるため、計画通りの更新が必要となっている。	14,759	14,576

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 4. 学校給食の充実 ②

	事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
43	給食センター運営事業 【給食センター】	安心・安全を提供するために必要な光熱水費や給食を各校へ配達するための委託料。 また、給食運営に必要な消耗品（衛生用品・調理用消耗品など）を購入した。 延べ給食供給数 712, 226食 1日平均給食供給数 3, 729食	衛生管理を徹底し、予定した給食を提供することができます。 正規調理員が複数人退職したことにより、作業効率の向上を目指し、連絡ノートを作成するなど情報共有の方法について一層の改善を図った。	72,911	67,976
44	【学識経験者の意見等】 ・引き続き衛生管理の徹底を防ぐためにも必要な情報共有の方法、マニュアル化と活用の徹底、一層の改善を図ってください。 ・10年前と比べると一日の給食供給数はだいぶ減っていると思うが、それでもこれだけの供給数があり、限られた時間の中で用意するのは大変だと思う。おかげで温かい給食を食することができるのだが、配達中の事故などには十分気を付けていただきたい。	衛生管理及び気候変動等に対応した施設設備の改修及び増設等を行っているもの。 【給食センター】	フードミキサー及び二槽シンクの更新を行い、衛生環境の改善及び作業効率の改善を図った。 老朽化している機器はまだ多く残っています。設備等の更新費用は高額なものが多い、予算確保が課題である。	3,447	3,410

## 第4節 質の高い学校教育を推進するための環境の充実

### 【事務事業の評価・課題】 4. 学校給食の充実 ②

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題		当初予算額 (補正後予算額)	決算額
		評価	課題		
45 価格高騰対策学校給食食材費支援事業 【給食センター】	町立小中学校の給食について、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けたが、小中学生の保護者の負担を増やすことをなく質・量を維持するため、精米購入価格高等相当分を補償したものの、 令和7年2・3月に購入した精米のうち、児童・生徒約3,680人分を対象として、価格上昇分を補助し、家庭の負担を増やすことなく給食の質・量を維持することができた。 食料品等の価格上昇は懸念と予想されるため、今後の価格の推移を見守る必要がある。	45	令和7年2・3月に購入した精米のうち、児童・生徒約3,680人分を対象として、価格上昇分を補助し、家庭の負担を増やすことなく給食の質・量を維持することができた。 食料品等の価格上昇は懸念と予想されるため、今後の価格の推移を見守る必要がある。	0 (1,042)	967

#### 【学識経験者の意見等】

- ・給食の質と量を低下させることなく、常に良いものを最適な状態で提供していただけている。その背景には様々な苦労があろうかと推察します。感謝します。
- ・補正予算での対応は今後も頼むものと予測されます。価格推移の見守り、適正な予算立てと執行を行なうものです。
- ・近隣の市の給食費を鑑みながら給食費を決めていると思うが、一気に何千種類に及ぶ食品の値上げなどがあり、どこも厳しい給食費の運営を強いられているのだと思う。貧弱に見える給食がテレビで話題になつたが、見た目にもよく、おいしい給食が提供できただことは評価したい。

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A		A 施策が既に完了した。見直しや改善を行ったが、効果が上がらない。 B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。 C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。 (進歩率31~70%)
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち			
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上			
施策名	施策1_家庭教育学級を実施する			
目標	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。			
施策の内容	<p>●家庭教育の講座については、各校のPTAに委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。</p> <p>●生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となつており、継続的な活動に支障をきたしていることから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取組みます。</p> <p>●今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。</p> <p>●学校運営の改善をより一層推進するために、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p>			
施策達成度の理由 (施策に対する実績及び効果)	<p>・町立中学校2校と町PTA連合会の3団体が家庭教育学級を実施し、計14回開催した。</p> <p>・就学時健診時併せて実施していた「親の学習子育て講座」は、令和5年度より健診実施方法の変更(保護者比率)に伴い、対象保護者へ子育てに関する資料の配付をした。</p>			
施策実現のための課題	<p>施設を取り巻く環境について</p> <p>施設実現のための課題</p>		<p>・南部および中部地区は少子化は落ち着いているが高齢化が進んでいる。北部地区は子育て世代の転入が落ち着き、年々児童・生徒数が大幅に減少している。</p> <p>・各校PTAにおいて組織の改善(スマリ化)を積極的に行うことで運営の効率化が図られる。</p> <p>・講座の数も昨年と同数であり、ヨガの講座等内容も工夫され、受講者にとつて参加しやすい環境を提供できた。</p> <p>・共働きの家庭については、平日の参加が難しい。</p> <p>・一部のPTA担当者に仕事が集中する傾向にある。</p>	
まちづくり目標の推移	<p>(1) 家庭教育学級の実施回数 10回</p> <p>(2)</p> <p>(3)</p> <p>(4)</p>		<p>次年度以降における施策の具体的な方向性</p> <p>多くの方が参加しやすい事業展開を目指し、土日や夜間の開催等、開催方法を検討していく。</p>	
行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算額 (単位:千円)	決算合計	令和2年度実績 令和3年度実績 令和4年度実績 令和5年度実績 令和6年度実績 (1) 2回 12回 11回 13回 14回 (2) (3) (4)
合計	507	248	0	0 0 0 0 248
				第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況 ・各小中学校PTAが家庭教育学級を町PTA連合会に委託し、事業の効率化が進んだ。

## 第5節 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

### 【事務事業の評価・課題】 1. 家庭教育支援体制の充実

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
社会教育振興事業 【生涯学習課】	<p>PTA家庭教育学級の委託、親の学習子育て講座を開催する。</p> <p>町立中学校2校と町PTA連合会の3団体が、家庭教育学級を、合計14回開催した。</p> <p>就学時健診時に併せた「親の学習子育て講座」を開催できなかつたが、対象保護者へ子育てに関する資料を配付した。</p>	<p>食育講座や人権講座などを開催。</p> <p>日本薬科大学を会場に行つた、3中学校の吹奏楽部・合唱部の合同演奏会では、300名程度が参加し、学校で音楽に取り組む生徒たちとの交流と保護者や地域住民に對しての発表の場となり大変有意義であった。</p>	507	248
46				

#### 【学識経験者の意見等】

・PTA組織自体が変化している近年、事業内容そのものの見直しも必要な時期なのかと推察します。一方で前年度と比較しても、家庭教育学級の開催数や合同演奏会への参加者が増加している現状もある。より強力な地域活動への移行の方針や開催方法自体の在り方が検討されることが多いのではないかと考えます。

・またま市PT連が日本PTA連合から脱退し、県内の市町村も埼玉県PT連から脱退が相次いでいて、また、PTA自体がない学校もできている現状なので、PTAに関しては過渡期にあるのだと思う。共働きの家庭も増えているし価値観の多様化もあるし、運営が難しいと思う。

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)
章名	第3章_人を育てはじける笑顔・輝くまち	B	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	C	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。(進捗率0~30%)
施策名	施策2_地域の教育力の向上			
目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の向上がまりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がまりがみられます。			
施策の内容	<p>●家庭教育の講座については、各校のPTAに委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。</p> <p>●生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となっており、継続的な活動に文書をきめ細かにすることでから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取り組みます。</p> <p>●今後の学校・家庭・地域の連携を深めるために、コミュニケーション・スクール(学校運営協議会)設置を促進するためには、コミュニケーションツールの充実が求められます。</p> <p>●学校運営の改善をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p>			
今後に向けた課題・方向性				
今後における課題・方向性				
成績指標の推移				
まちづくり目標	指標名	目標(令和6年度)		
(1)	成人式(伊奈町二十歳の集い)の出席率	75.5%		
(2)				
(3)				
(4)				
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況				
行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算合計	決算額 (単位:千円)	
合計	1,457	1,403	0	1,403

## 第5節 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

### 【事務事業の評価・課題】 2. 地域の教育力の向上

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額(補正後予算額)	決算額
二十歳の集い実施事業 【生涯学習課】 47	<p>二十歳の新しい門出を祝福するとともに、成人者自身が社会の一員としての権利・義務の責任ある行使と、独立した個人とする誇りを認識する機会とするため、二十歳の集いを開催する。</p> <p>令和6年度は、会場を1か所で2回に分けて挙行した。</p> <p>令和7年1月13日実施。 対象者582人 出席者459人 出席率78.9%</p>	<p>二十歳の新しい門出を祝す集いであることを解しました。この機会を通じて、多くの見守りによります。これからも意義深い良い形での運営が継続されていくことを願います。</p> <p>伊奈町も新成人参画の集いを実施していくと思うが、それが多くの参加者を得ている要因の一つになっているのではないか。</p>	334	331
【学識経験者の意見等】 ・8割近い出席率となり、担当課の準備・運営により、二十歳の門出を祝す集いであることは決して悪いと思います。この運営がなされたことには感謝的で嬉しいと思いません。これから社会参画にも積極的に関わって欲しいと感じます。 ・二十歳の集いに8割弱の参加者が集ったことは成功したとみてよいのではないかと思う。	<p>・二十歳の新しい門出を祝す集いであることは決して悪いと思います。この運営がなされたことには感謝的で嬉しいと思いません。これから社会参画にも積極的に関わって欲しいと感じます。</p> <p>伊奈町も新成人参画の集いを実施していくと思うが、それが多くの参加者を得ている要因の一つになっているのではないかと思う。</p>	<p>参加者にどうっても保護者にどうっても、多くの見守りによります。新型コロナウイルス感染症を招き記念事業を実施できることは、参加者に好評であった。</p>	1,072	1,123
青少年健全育成推進事業 【生涯学習課】 48	<p>社会教育関係4団体に活動費の補助金を交付する。</p> <p>各団体とも計画した事業を概ね開催してきた。</p> <p>各団体とも地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会において、広報部会では広報紙「かたらい」の発行およびそのテーマに基づいたアンケート調査を、町内小中学校の小学校5年生および中学2年生に行なった。環境浄化部会は朝のあいさつ運動および夕方のバトロールを行なった。</p>	<p>各団体とも屋内外活動を積極的に実施した。</p> <p>社会教育関係団体と連携し、各団体の会員数拡大及び後継者育成の支援を行なっていく必要があります。</p> <p>青少年健全育成推進協議会が青少年に関わる町地域のアンケートを、児童・生徒に実施した調査結果を町内に広報し、子供たちへの理解を深める一助とする。</p>	1,123	1,072
【学識経験者の意見等】 ・団体の活動を支える事業として大切な内容を含んでいると答えます。 ・町・地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会の活動について広報することには大変意義があることと捉えました。保護者にとって、自身の子供だけではなく地域全体の子どもたちのことを広く知ること、理解を深めることには必要な機会であると考えます。 ・子供が少くなる中、どの市町村も社会教育関係団体の活動が縮小していると思うが、伊奈町ではまだ盛んに活動が行なわれているほうではないかと思う。	<p>・団体の活動を支える事業として大切な内容を含んでいると答えます。</p> <p>・町・地域ぐるみ青少年健全育成推進協議会の活動について広報することには大変意義があることと捉えました。保護者にとって、自身の子供だけではなく地域全体の子どもたちのことを広く知ること、理解を深めることには必要な機会であると考えます。</p> <p>・子供が少くなる中、どの市町村も社会教育関係団体の活動が縮小していると思うが、伊奈町ではまだ盛んに活動が行なわれているほうではないかと思う。</p>			

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)																				
章名	第3章_人を育てはじける美郷・輝くまち	B	B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)																				
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上	C	C 施策を検討したが効果が上がらない。未実施。(進捗率0~30%)																				
施策名	施策3_学校・家庭・地域が一体となった教育の推進																						
目指す姿	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、地域の教育力の向上がまりがみられます。		<p>●家庭教育の講座については、各校のPTAに委託していますが、運営の担い手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。</p> <p>●生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となっており、継続的な活動に文書をきたいことから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取り組みます。</p> <p>●今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。</p> <p>●学校運営の改善をより一層推進するために、コミュニケーション・スクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行っていく必要があります。</p> <p>●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図つていく必要があります。</p>																				
施策の内容	今後に向けた課題・方向性																						
成績指標の推移		まちづくり目標	<p>まちづくり目標(令和6年度)</p> <table border="1"> <tr> <td>指標名</td> <td>Waku楽体験教室の参加人数</td> <td>目標(令和6年度)</td> <td>300人</td> </tr> <tr> <td>(1)</td> <td>74人</td> <td>令和3年度実績</td> <td>60人</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td></td> <td>令和4年度実績</td> <td>205人</td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td></td> <td>令和5年度実績</td> <td>283人</td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td></td> <td>令和6年度実績</td> <td>299人</td> </tr> </table> <p>次年度以降における施策の具体的な方向性</p> <p>・事業を要する事業・教室等を実施するためには、開催場所となる学校や講師となる地域の方々の理解と協力が不可欠である。</p> <p>・事業の後にいただいているアンケート結果を精査し、新規事業に採用していく。</p> <p>・SNSを活用して情報発信を行い、参加者の増加につなげる。</p> <p>第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況</p>	指標名	Waku楽体験教室の参加人数	目標(令和6年度)	300人	(1)	74人	令和3年度実績	60人	(2)		令和4年度実績	205人	(3)		令和5年度実績	283人	(4)		令和6年度実績	299人
指標名	Waku楽体験教室の参加人数	目標(令和6年度)	300人																				
(1)	74人	令和3年度実績	60人																				
(2)		令和4年度実績	205人																				
(3)		令和5年度実績	283人																				
(4)		令和6年度実績	299人																				
行政評価表(事業評価一覧)	当初予算額	決算合計	決算額 (単位:千円)																				
合計	507	248	0 0 0 248																				

## 第5節 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

### 【事務事業の評価・課題】 3. 学校・家庭・地域が一体となつた教育の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)		決算額
			当初予算額 (補正後予算額)	決算額	
社会教育振興事業 【生涯学習課】 49	<p>WaKu楽体験教室・放課後子供教室・子供防災教室の事業を行なう。</p> <p>WaKu楽体験教室は、21教室28回を開催し、延べ参加人数299人であった。 放課後子供教室は12教室開催し延べ参加人数は164人であった。 小学4～6年生を対象とした子供防災教室は14名が参加し、埼玉県防災学習センターを訪れ、地震体験などを通して防災意識の向上が図られた。</p> <p>【学識経験者の意見等】 ・担当課の努力により、着実に実数が増加していることに事業の定着が図られていることを感じます。アンケート結果からも参加者の満足度は高いように読み取れますが、他事業を参考に客観的な数値化した資料等の記録を残すことことで、より本事業の実績評価にちつながるものだと思います。 ・開催教室数や開催回数から言って、WaKu楽体験教室が事業の中心となつてしていることなど思う。1回あたり10人強の参加者があり、何かを体験するといふ活動にはちょうど良いと思われる。</p>		507	248	

## 令和6年度 行政評価表

担当課	学校教育課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔輝くまち
節名	第5節_学校・家庭・地域の連携と教育力の向上
施策名	施策4_コミュニケーションスクールの設置及び推進
目標	家庭教育に関する学習の機会を広く設けるなどして、家庭教育の高まりがみられます。また、様々な活動を通して地域の教育力の向上がみられます。
施策の内容	<p>●家庭教育の講座については、各校のPTAに委託していますが、運営の手や参加者の確保が難しい現状もあることから、講座の開催形態については検討します。</p> <p>●生涯学習の活動団体によっては会員の減少、後継者不足が課題となつており、継続的な活動に支障をきたしていることから、魅力ある事業の企画立案・具現化に努め、会員の確保・後継者育成に取組みます。</p> <p>●防災キャンプに関わるボランティアのあり方について検討します。</p> <p>●今後の学校・家庭・地域の連携を深める新たな取組について検討します。</p> <p>●●学校運営協議会</p> <p>●●学校運営の改善をより一層推進するためには、コミュニケーションスクール(学校運営協議会)設置を促進する条件整備を行ついく必要があります。</p> <p>●●学校における働き方改革をより一層推進するために、保護者や地域の方との連携を図ついく必要があります。</p>
今後に向けた課題・方向性	

今 年 度 の 施 策 達 成 度	施 策 由 因 の 理 由	施 策 達 成 度	施 策 達 成 度		
			実 習 程 度	評 価	評 価
A	A	A	施 策 が既に完了した。見直しや改善を行ったが、効果が上がらない。未実施。	進捗率71～100%	進捗率0～30%
B	B	B	施 策 の見直し、改善等の検討余地がある。	進捗率31～70%	
C	C	C	施 策 を検討したが効果が上がらない。遅れている。		
			「学校が、様々な諸課題を解決するために、今ある地域の「強み」や「魅力」を見つけて生かしていくよう、学校・家庭・地域が一体となって、目標とする目標とするべき子どもたちの姿に向けた具体的な取り組みをすること」ができた。		
			・研修会を通じて、コミュニケーションスクール（学校運営協議会）について、学校・家庭・地域が連携し、協力を取り組むべきことについて協議した。互いに「当事者」としての意識が醸成され、各校の取組に生かすことができた。		

<p>施設を取り巻く環境の変化について</p>	<p>・地域が学校と一定の責任を分かち合い、ともに行動する体制を構築するものであり、学校と、地域が目標や課題、情報等を共有し、学校と地域が相互に協働していくことが求められている。</p>
<p>住民ニーズについて</p>	<p>・学校を地域コミュニティの核として位置づけ、学校の教育活動を通して地域の活性化を図ることとともに、学校における働き方改革を一層推進するために、学校・家庭・地域が連携を図ることが求められている。</p>
<p>展開した事業は適切であったか</p>	<p>・各学校運営に保護者や地域住民が参画することを通じて、地域ならではの創意や工夫を生かした特色ある学校づくりを目指し、学校が抱える課題の解決を図り、子どもたちの教育活動等を一層充実させることが必要である。</p>
<p>の実現のための課題</p>	<p>・「コミュニティ・スクール（学校運営協議会）」については、学校・家庭・地域が連携し、協力して取り組むことが必要である。 ・学校・家庭・地域がコミュニケーションスクールに関わるという意識を醸成するとともに、学校運営協議会にかかる研修内容を充実し、学校運営協議会委員等の人材の確保や育成が課題である。</p>

- ・引き続き、コミュニティースクール（学校運営協議会）の活動等について地域に周知する  
とともに、学校・家庭・地域の連携を推進していくことが必要である。  
・子どもたちがどのような問題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でど  
のように子供たちを育てていくのか、何を実現するのかという目標・ビジョンを共有するため  
に「熱議（熱慮と議論）」における研修会を実施する。  
・地域学校協働活動と一体化させた取組を検討するため、教育委員会内の連携を進め  
る必要がある。

- ・学校における様々な諸課題に対して、学校・家庭・地域が連携・協働して解決していくために、さらなるコミュニケーションスクールの活性化を推進していく。各学校が目指す子どもたちの育成を目指し、学校運営協議会委員が学校の決断の後押しができるような具体的な実践を目指す。

指標名	目標(令和6年度)
(1) 学校運営協議会の設置	全校
(2)	
(3)	
(4)	

成 果 指 標 の 推 移	令和2年度実績	令和3年度実績	令和4年度実績	令和5年度実績	令和6年度実績
(1)	全7校	全7校	全7校	全7校	全7校
(2)					
(3)					
(4)					

行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)			
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源
	819	649	47	0	0
					602

## 第5節 学校・家庭・地域の連携と教育力の向上

4. コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置及び推進

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育て_はじける笑顔・輝くまち
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興
施策名	施策名 施策1_学び合いの生涯学習の推進

施策の内容 今後に向けた課題・方向性	●学校開放講座については、人気がある講座は継続的に行っていますが、参加者数が減少傾向にあることから町民ニーズに対応した満足度の高い多様な講座の開催を検討します。
	●本格的な高齢社会に向け、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組みます。
	●文化・芸術に関するイベントなどから、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組みます。
	●文化・芸術に開催するイベントについては、引き続き実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。
	●高齢化の影響もあることから、指導者の確保の確保に努めます。
施策の内容 今後に向けた課題・方向性	●町民の文化財に対する理解をより深めるとともに、町の魅力を多くの人に知つてもらえるよう、地域の文化財をしっかりと調査し、体験型イベント等の実施や広域圏での企画など、文化財を活用した取組を検討します。
	●伊奈氏屋敷跡を保存・継承した上で観光とタイアップしたさらなる活用を図ります。
	●将来の町史編さんのために、必要な行政文書は保管せず、歴史公文書として保存・活用に努めます。

今年度の 施策達成度 の理由 (施策に対する 金額と実績及び効果)	A	A 施策が既に完了した。昇直しや改善を行った最善に近い。(進捗率71~100%)
	B	B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進捗率31~70%)
	C	C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進捗率0~30%)
		・町内の教育機関と連携した学校開放講座は、15講座を実施し、延べ参加者数は468人であり、満足度は90.2%であった。定員を超える申込があつた講座もあり、魅力的な講座を開催することができた。 ・ソロコン・寺子屋については、パソコンを楽しく学ぶ場であり、疑問を安心して質問できる場であるだけでなく、住民同士の交流の場となっている。(19回開催、延べ参加者数154人) ・公民館では各世代に応じた講座を開催した。ストレッチ体操教室や、パッチワーク教室などの講座も好評であった。シニア教室 木屋学級は、定員の3倍の申し込みがあり、定員を増やすなどして対応した。 ・電子図書館においては、コンテンツを増やすことで利用者を増やすことができた。
		・スマートフォンやタブレットの普及により、パソコンを使用せずに手軽にインターネット環境にアクセスすることができるようになつたことで、講座などへの申込も、インターネットを利用したものが増えている。
		・高齢化によりサークル等団体の運営が難しくなつてきている。高齢者の社会参加・生きがいづくりとして、学習の場や学習成果を発表する場を充実させる必要がある。
		・公民館講座や学校開放講座のアンケートでは、高い満足度となっている。
		・サークルなどの団体に若年層も参加してもらえる仕組みづくりをする必要がある。 ・非接触型の電子図書館利用率を上げるために、広く周知する必要がある。 ・多様化・高度化するニーズを適切に把握し、事業の検討につなげる必要がある。
		・各種講座のアンケート結果や他市町村の事業事例を精査・研究し、事業内容や安全対策を実現するための課題題
		・各種講座の具体的な実現するため、広く周知する必要がある。 ・生涯学習課が中心となる私立学校、公立学校と協力し、講座や教室の運営や応募方法など、参加者応募者の利便性の向上について検討していく。 ・学・官が連携して生涯学習の場を提供できる体制の整備を行っていく。
		・ふれあい活動センター及び図書館は、施設の経年劣化に対する適切な補修やメンテナンスを事業計画通りに進めていく。 ・各種講座のアンケート結果や他市町村の事業事例を精査・研究し、事業内容や安全対策を実現するための課題題
		・次年度以降における施策の具体的な方向性
		・ふれあい活動センター及び図書館においては、民間のノウハウを活用しつつ利用者へのサービス向上と経費の節減等を目的に、指定管理者制度を引き続き運用していく。 ・各種講座や教室などは、広報しながらホームページ、LINEやFacebook、いなナビ、X(いなナビアカウント)などのSNSを活用して、積極的に情報発信を行う。
		・第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況

指標名	目標(令和6年度)	指標達成度			
		(1)	(2)	(3)	(4)
学校開放講座の参加者満足度数(理解度数)	65.0%				
人口一人当たりの貸出冊数	5.50冊				

指標名	目標(令和6年度)	指標達成度			
		(1)	(2)	(3)	(4)
令和2年度実績	85.1(75.3%)	89.6(60.3%)	80.6(60.0%)	94.5(63.2%)	90.2(70.8%)
令和3年度実績	3.35冊	3.88冊	3.95冊	3.98冊	
令和4年度実績					
令和5年度実績					
令和6年度実績					
決算額(千円)	147,042	146,642	0	0	146,642
決算合計	国・県補助	地方債	その他財源	一般財源	

行政評価表(事業評価一覧)  
合計

## 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

### 【事務事業の評価・課題】 1. 学び合いの生涯学習の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
生涯学習推進事業 【生涯学習課】 51	住民の学習活動を支援し、学習機会の確保に努め、生きがいづくりにつなげる。 関係機関との相互の調整・連携を行い、町内の小中学校及び高等学校、専門学校、大学等の施設及び教職員を活用し講座を実施した。 令和6年度 学校開放講座全15講座 受講者延べ人数468人	生涯学習に対する住民ニーズは多様化・高度化を強めて実現する。学習者のニーズを把握し講座内容の充実に努め、高い評価を得ている。 講座に対し、質の高いものを求める傾向にある。また、個人の学習でどどめてしまう傾向にあるので、指導者の育成やサークルの設立といった地域へ還元するような取組が必要。	1,429	1,086
【学識経験者の意見等】 ・地域が一体となり、様々な講座の開設、開校がなされている。全15講座。参加者の満足度も高い数値（成果指標）で推移しています。 ・新たな枠組への転換も視野に、担当課の負担増として抱えることなく今後の検討が進められることがあります。 ・伊奈町の住民の高い学習意欲が参加人数に表れていると思う。 ・懇意したほうが良いと思う。 ・学校開放というのは、場所と人材の開放だと思ってるので、これからも学校開放を続けて、地域の学校という位置を確立してほしい	【学識経験者の意見等】 多様化する住民のニーズに効果的に、効率的に対応するため、指定管理者制度を導入することとて民間の活力やノウハウを活用し、住民サービスの向上に努めている。	町民の健康増進や趣味、教養などの質を高めるための生涯学習の活動拠点として必要な運営により、利用者に好評を得てあり、指定管理者も増加している。 アフターコロナでは感染症対策を継続し状況に応じた施設の管理運営が求められる。	68,432	68,409
ふれあい活動センター運営管理事業 【生涯学習課】 52	【生涯学習の重要な活動拠点となっている。指定管理者制度を導入したことにより、適切な管理運営のお陰もあり利用者の増加につながっている実態が伺える。 ・生涯学習の重要な活動拠点として、継続的な衛生管理に努められていることも理解できました。 ・ふれあい活動センターが1年間休まずに稼働したとして、1日約100人の利用があったことになる。1日100人となると結構な数字だと思う。伊奈町の人口が約45,000人なので、年間一人1回で45,000人を目指して頑張ってほしい】			

## 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

### 【事務事業の評価・課題】 3. 文化財及び町史資料の保護・保存・活用

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
公民館運営事業 【生涯学習課】 53	住民の教養の向上、健康の増進、生活文化の振興を図り、社会福祉の普及に寄与し、さらには住民のコミュニティ作りを推進する。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため定員を減らした講座もあつたが、成人、女性等対象に各種学級、講座を開設した。令和6年度 受講者延人数834人	各種講座を開設し、高い評価を得ている。今後は、多様化・高度化する学習ニーズを把握し、さらに事業内容の充実を図るに自主活動への動機付けを行っていく必要がある。また、7年度以降もより魅力的な講座やイベントを実施できるよう開催方法について検討を要する。	5320 (5,728)	5,481
【学識経験者の意見等】 ・受講者延べ人數が前年を大きく上回っている。高い評価も得られていることから、受講のニーズを把握し、更なる事業内容の充実が図られることに期待します。 ・開設講座数、学級数等が具体的な数値で示されるなど、貢献としての機能があまりないという状況の中、各種講座で800人以上の参加者があつた。また、内容も高い評価をいただいています。 ・総合セミナーに設置された公民館など、貢献が上がっていると思う。	利用者の多様なニーズに対応するため、指定管理者により図書館の運営を行っており、民間のノウハウを活用し、住民サービスの向上に努めている。また、図書館事業として文化教養講座や子育て支援講座等各種講座を開催した。	多様なニーズに応えるため、レファレンスや資料の選定、並びに自主企画事業の充実に努めている。また、図書館事業として文化教養講座や子育て支援講座等各種講座を開催した。	71,831	71,666
図書館運営管理事業 【生涯学習課】 54	非来館型の電子図書館では、伊奈町立南中学校をモデル校に指定し、全校生徒が電子図書館にアクセスでき、体験できるよう機会をもうけた。移動図書館車を町内12箇所巡回 6年度 利用者人数706人、貸出冊数5,427冊 図書蔵書総数122,445冊	電子図書館については、今後も利用率の向上に向けて取り組みが必要である。モデル校については開始時やチラシ配布時にアクセスがあるが継続した利用にまでは至っていない。周知の推進があるが継続した利用にまでは至っていない。		
【学識経験者の意見等】 ・利用者数、貸出冊数も増加傾向にあり、適切な事業の展開、諸サービスの提供が継続されていることが理解できます。 ・指定管理者による文化教養講座や子育て支援講座等の自主企画への参加・利用状況等も実数を数値化していただけると、活用状況がより具体に伝わるものだと思います。 ・本の貸し出しのみでなく、教養講座や子育て支援講座も実施していることは素晴らしいと思う。 ・電子図書館のモデル校の取り組みが広がることを期待する。				



## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	年度	令和3年度	施策達成度	A	B	C	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進捗率71~100%)	施策が見直し、改善等の余余地がある。(進捗率31~70%)	施策を検討したが効果が上がらない。未実施。(進捗率0~30%)	
章名	第3章_人を育て「はじける笑顔」輝くまち										
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興										
施策名	施策2_文化芸術の振興と伝統文化の継承										
目指す姿	生涯にわたり学習を楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに生かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が深まっています。郷土愛が育まれ、自ら学び地域社会に貢献する人材が育っています。	年度	令和3年度	施策達成度の理由 (施策に対する実績及び効果)	・学習成果を発表する場として、伊奈町総合文化祭を11月9日・10日の2日間にわたり開催した。コロナ禍は自粛していた模擬店がお店を再開し、賑わいを見せた。 ・第50回伊奈町美術展覧会を10月22日から10月27日の6日間にわたり開催し、80名・105点の出品があり、観覧者は481人にのぼり、町の文化芸術の向上に寄与した。						

<p>●本格的な高齢社会に向けて、生涯学習は高齢者の社会参加・生きがい政策として重要な取組となることから、引き続き指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取組みます。</p> <p>●文化芸術に関するイベントについては、引き継ぎ事業実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。</p> <p>●高齢化の影響もあることから、指導者の確保の在り方に努めます。</p> <p>●町民の文化財に対する理解をより深めるとともに、町の魅力を多くの人に知つてもえよう、地域の文化財をしっかりと調査し、体験型イベント等の実施や広域圏での企画など、文化財を活用した取組を検討します。</p> <p>●伊丹氏歴史館を保存・継承した上で観光とタイアップしたさらなる活用を図ります。</p> <p>●将来に向けた方針</p>	<p>今後に向けた課題</p>	<p>施策の内容</p>	<p>施策実現のための課題</p>	<p>・伝統芸能を継承する若者が減少しており、団体の存続が危ぶまれている。</p>	<p>・施設を取り巻く環境の変化について</p>	<p>・健常増進・趣味・教養に関する講座や教室に対し、カルチャースクールのような質の高いもの求めめる傾向にある。</p>	<p>・住民ニーズの変化について</p>	<p>・総合文化祭では模擬店の出店を再開し、参加者及び来場者にとても喜ばれた。</p>	<p>・各団体構成員の高齢化と会員の減少が進んでおり、若者参加と後継者育成が課題であ</p>
---	-----------------	--------------	-------------------	---	--------------------------	--	----------------------	---	--

指標名	目標(令和6年度)
(1) 伊奈町美術展覧会観覧者数	500人
(2)	
(3)	
(4)	

行政評価表(事業評価一覧) 合計	当初予算額	決算額 (単位:千円)			
		決算合計	国・県補助	地方債	その他特定財源
	1,764	1,694	0	0	0

## 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

### 【事務事業の評価・課題】 2. 文化芸術の振興と伝統文化の継承

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正予算額)	決算額
総合文化祭実施事業 【生涯学習課】 55	総合センター等を会場に文化・芸術活動の成果を発表する場として、様々な作品の展示や発表を行う。また、文化・芸術に実際にふれることのできる機会や体験できる機会を設ける。 令和6年度 11月9日（土）・10日（日）2日間実施	来年度以降も安心・安全に事業が実施できるよう開催方法等検討を行う必要がある。	636	601
【学識経験者の意見等】 ・成果発表する場があることは、活動者にとっての大きな喜びや楽しみになると思います。参観者にとっても触れ合う機会となると考えます。有意義な事業ですので担当課を中心に、組織的に取組ください。 ・感染症の制限も外れ複数店等出店も再開、どのくらいの規模で開催されているのか。そのことに依りどの規模の安全対策等を講じる必要があるのか。開催方法の検討にもつながると思いますので客観的にデータを記載していただきご参考です。 ・舞台発表については発表団体の関係者のみが観賞してその舞台が終わるとみんな帰ってしまうことが多い。お互いの発表を見合うようにして観賞者が少しでも増えれるように工夫したりするところが肝心ではないか。 ・掲示発表についてはおそらく多くの住民が来場したのではないかと思う。				
文化芸術振興事業 【生涯学習課】 56	郷土芸能の保存、継承や様々な文化・芸術団体が地域に根ざした積極的な活動を行ううえで、必要な支援を行う。 6年度 郷土芸能団体 3団体 会員数73人 伊奈町文化協会 会員数274人	郷土に古くから伝承される芸能活動や文化団体を保護するため、補助金交付や活動を支援することにより保護後継者の育成が図られた。 積極的に事業やイベントを開催していく。ウイズコロナ・ポストコロナを念頭に置き、各団体が工夫をして発表会や展覧会を開催していく。	1,128	1,093
【学識経験者の意見等】 ・例年行なわれている文化芸術振興事業ではあると推察しますが、会員数の減少が憂慮される中、観覧者の増加が見られる、「世につながる事業としての継承を願うものです。」「保護など後継者の育成が図られた」は重要な視点であると捉えました。 ・郷土芸能団体の会員数が73人というのにはある程度の人数がいることになると思う。ただ、少子化が進んでおり後継者の育成は課題になると思ふので、引き続き支援が望まれる。				

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課
章名	第3章_人を育てはじける美郷・輝くまち
節名	第6節_生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興
施策名	施策名 施策3_文化財及び町史資料の保護・保存・活用

目指す姿	<p>生涯にわたり学習を楽しむ環境が整っており、学習成果はまちづくりや地域活動などに生かされています。町民の文化意識が向上する中、文化財への理解が深まっています。郷土愛が育まれ、自ら学び地域社会に貢献する人材が育っています。</p> <p>●学校開放講座については、人気がある講座は継続的に行っていますが、参加者数が減少傾向にありますから町民のニーズに対応した満足度の高い多様な講座の開催を検討します。</p> <p>●本格的な高齢社会に向けて、生涯学習は高齢者の社会参加・生きがい対策として重要な取組どんぐりから、引き続きイベントについて、指導者の育成や新規サークルの立ち上げに取り組みます。</p> <p>●文化・芸術に関するイベントについて、引き続き実施していくとともに、参加者や町民のニーズと観光との連携を含めた新規取組について検討します。</p> <p>●町民の文化財に対する理解をより深めることから、指導者の確保の充実に努めます。</p> <p>●地元の文化財の影響力もあることから、指導者の確保の充実に努めます。</p> <p>●地元の文化財に対する理解をより深めることから、指導者の確保の充実に努めます。</p> <p>●伊奈氏屋敷跡を保存・継承した上で観光とタイアップした新たな活用を図ります。</p> <p>●将来の町史編さんのために、必要な行政文書は廃棄せず、歴史公文書として保存・活用に努めます。</p>
施策の内容	今後に向けた課題・方向性

指標名	指定文化財の数	目標(令和6年度) 25件	達成度 100人	・伊奈氏屋敷跡の保存・整備・活用をより具体的に定める計画の策定を行なう。 ・過去の発掘調査で出土した遺物の再整理・報告書の刊行を行う。 ・町立郷土資料館の整理作業場所・保管場所を確保する。 ・文化財保存活用地域計画の策定を実施する。 ・保存年限の切れた公文書を歴史的資料として重要なものを歴史公文書として収集・保存する。
指標の推移	令和2年度実績 (1) 22件	令和3年度実績 (2) 未実施	令和4年度実績 (3) 120人	令和5年度実績 (4) 105人
	22件	22件	24件	25件
			75人	203人
第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況	決算合計 9,874	決算合額 10,647	国・県補助 1,500	地方債 0
				その他特定財源 891
				一般財源 8,256

## 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

### 【事務事業の評価・課題】 3. 文化財及び町史資料の保護・保存・活用

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額(補正後予算額)	決算額
57 【生涯学習課】 文化財保護事業 【生涯学習課】 埋蔵文化財の保護管理のための交付金を交付する。 埋蔵文化財試掘調査件数25件。 埋蔵文化財保存管理交付金110千円	埋蔵文化財・史跡・天然記念物や彫刻など、町内の貴重な歴史的・文化的資産の保護活用のための事業を行つもの。 埋蔵文化財の保護・保存として、埋蔵文化財包蔵地内の試掘調査を実施する。また、町指定文化財の管理者・団体に対し、文化財保護管理のための交付金を交付する。 指定文化財数25件。 埋蔵文化財試掘調査件数19件(内発掘〇件) 文化財保存管理交付金110千円	本上遺跡の発掘調査報告書の刊行、町指定文化財1件の指定を行つた。また、久保山遺跡発掘調査報告書刊行に向け、遺物整理作業を進めることができた。 文化財は、歴史・文化の正しい理解のため、々くことのでききりにも貢献する。また、保存管理は重要であり、地域づく文化財を良好に保つため、保管者に適切な補助と貴重な文化財を保護して行う必要がある。	4,284 (5,351)	5,159
58 【生涯学習課】 郷土資料館運営事業 【生涯学習課】 【学識経験者の意見等】 ・埋蔵文化財、史跡、天然記念物、彫刻など対象が広く、地域づくりに大きく貢献する事業であると解しました。町指定文化財数が26件に。 ・発掘調査や報告書作成など町内資産の適正な保護、保存活用を継続してください。 ・埋蔵文化財の試掘調査件数が19件あり、そのうち発掘調査が〇件となるが、北足立北部はどこを掘っても出るといわれるくらい埋蔵文化財候補地が多いので、〇件は珍しいと思う。そんな中、発掘調査報告書を刊行できたのは素晴らしい。	町の民俗・歴史等文化遺産を継承し、郷土愛の精神を高揚するため、自然・地理・歴史に関する資料及び人間国宝田口善国氏の作品を展示(体験講座)の開催を行つもの。 企画展「伊奈の板牌～石に刻まれた中世の人々の信仰～」を開催した。また、体験講座「まが玉作り体験」を開催しました。文化財に対する興味・関心を向ける機会にすることを目的とした企画展を開催した。 開館日数199日 来館延人数437人	町の歴史・民俗資料等を継承していくための唯一の施設として、自然・地理・歴史等の資料を展示公開し、町の歴史・民俗資料等に触れる機会を提供してきた。 新収蔵資料や未公開資料について、企画展などを適宜開催し、広く周知する必要がある。また、展示・収蔵・作業スペースの不足から充実した資料館活動が難しい。	2,141	2,126

【学識経験者の意見等】  
・発掘調査や報告書作成など町内資産の適正な保護、保存活用・郷土資料館の適切な運営管理が行われていると解します。  
・企画展開催、体験講座等の企画運営に感謝いたします。地域に生きる歴史的資料に触れる機会を設けるなど工夫があり、適切なタイミングで行われたことで来館者数の伸びにもつなげることができる。この機会で企画展や体験講座を実施するのは、さぞ大変だろうと思う。実施ただけでも評価できる。  
・こんなに多くの来館者がいることに驚いた。

## 第6節 生涯にわたる学びの支援と文化芸術の振興

### 【事務事業の評価・課題】 3. 文化財及び町史資料の保護・保存・活用

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額(補正後予算額)	決算額
町史編集事務費 【生涯学習課】 59	町史編集事業の過程で収集された数多くの資料を整理・保存するなどに、歴史資料として重要な公文書等の収集、整理及び保存を行い、将来の公開・利用に向け準備を行うもの。  町内に残る文書の調査及びマイクロフィルム撮影、デジタル化を行った。また、歴史資料として重要な公文書等を歴史公文書として収集するための体制を整備した。	町史編集事業の過程や寄贈等で収集された古文書等の保存及び今後の活用や公開のための資料作りができた。  今後は、収集資料等の整理・保存・目録化及び保管場所の確保が課題である。	1,367	1,335
【学識経験者の意見等】 ・適切に町史編集事務が執り行われているものと解っています。引き続きの体制整備に取り組みください。 ・気を遣う作業であろうかと思いません。 ・収集資料等の整理、保存、保管場所の確保など、担当もごく少人数で、どうやっているのか不思議なくらいだ。 ・町史編集室もない、どうか。	・生涯に町史編集事業であります。長い形で歴史を引き継いでいくことが今を生きる私たちの役目でもあります。長期の保存にも耐えうる方法での取り扱いはなかなか良いです。 ・収集資料等の整理、保存、保管場所の確保など、担当もごく少人数で、どうやっているのか不思議なくらいだ。 ・町史編集室もない、どうか。	・生涯に町史編集事業であります。長い形で歴史を引き継いでいくことが今を生きる私たちの役目でもあります。長期の保存にも耐えうる方法での取り扱いはなかなか良いです。 ・収集資料等の整理、保存、保管場所の確保など、担当もごく少人数で、どうやっているのか不思議なくらいだ。 ・町史編集室もない、どうか。	2,082 (2,149)	2,028
伊奈氏屋敷跡保存活用事業 【生涯学習課】 60	草刈りのボランティアを実施し、32人が参加した。また、職員及び業者委託で除草・樹木伐採などをを行い、見学しやすい環境を整え、倒木などの事故防止に努めた。発掘調査現場説明会を開催し、162人が参加した。	平成31年3月に策定された『伊奈氏屋敷跡保存活用計画』に基づいて保存・活用を図るもの。今後も活用のためのイベントを開催するなど見学しやすい環境の整備が必要がある。  今後も計画的に発掘調査を実施し、伊奈氏屋敷跡の構造や所属時期などの解明や活用を進める必要がある。		
【学識経験者の意見等】 ・保存、管理が着実に進められています。見学者を想定した環境整備も進められています。興味が高まっています。何か特別な事柄（取組、催し、広報活動等）が行われたのでしようか。次年度への継承をお願いします。 ・町おこしに伊奈氏を上手に活用しているなど思う。また、発掘調査説明会に162人の参加者があったというのには町民の関心の高さを表していると思う。				



## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	今年度の 施策達成度	A	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行い最善に近い。(進歩率71~100%)												
章名	第3章 人を育て、はじける笑顔、輝くまち			B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。(進歩率31~70%)												
節名	第7節 スポーツ及びレクリエーション活動の推進			C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。(進歩率0~30%)												
施策名	施策「スポーツを通じた元気なまちづくり」				<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設品等、劣化している箇所が多くなっているが、修繕することができた。</li> <li>・緊急的に破損が発生した場合には、利用できない期間を短くできるように、予約システムの利用方法について、再度テニスコートにについて、多くの人が利用できるように、予約システムの利用方法について、再度利用者に周知した。</li> </ul>												
目指す姿	生涯にわたりスポーツを楽しむ環境が整つており、まちづくりや地域活動などに生かされています。				<ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の施設や備品等の多くが古くなっているため、修繕と計画的な更新が必要となっている。</li> <li>・誰もが安心して活動できるスポーツ施設の提供が必要となっている。</li> <li>・施設の充実を求める声が増えてきている。</li> <li>・各年代の方々が楽しめるスポーツ教室等の開催や内容の検討が求められている。</li> </ul>												
施策の内容	<p>● 軽スポーツなど誰でも参加できるスポーツイベント等を開催するとともに、「スポーツ都市宣言」(昭和57年)から40年目を越えることから、記念イベントに努めます。</p> <p>● 各種スポーツ教室を通して、市民の健康づくりのサポートに努めます。また、種目について、市民のニーズに対応するよう検討します。</p> <p>● スポーツ・レクリエーションの活動団体によっては、会員の減少、後継者不足が課題となつているため、魅力ある事業の企画立案、具現化に努め、会員の確保、後継者の育成に取り組みます。</p> <p>● スポーツ施設は、屋内・屋外とも引き続き計画的な改修や用地の確保、署さ対策に取り組みます。</p>				<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策を取り巻く環境の変化について</li> <li>・施設の予約、利用料の支払いについて利便性を求められている。</li> <li>・施設を運営ができた。</li> <li>・各施設や予約システムにおいて、利用者から不具合や不満について要望があるため、充実した事業を展開するには、施設ごとにおける住民ニーズにあつた施設整備の更新や整備が必要である。</li> </ul>												
今後に向けた課題・方向性					<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策を達成するうえでの障害について</li> </ul>												
まちづくり目標の推移	<table border="1"> <thead> <tr> <th>指標名</th> <th>目標(令和6年度)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 町スポーツ施設の利用者数</td> <td>320,000人</td> </tr> <tr> <td>(2)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4)</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	指標名	目標(令和6年度)	(1) 町スポーツ施設の利用者数	320,000人	(2)		(3)		(4)					<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の維持管理等を計画的に進めます。</li> <li>・利用者のニーズに応じた安全な施設運営を行います。</li> <li>・近年、ジョンソングロードの損壊が増えていていることから、見回りを行い、損壊箇所の早期見と迅速な修繕を行います。</li> </ul>		
指標名	目標(令和6年度)																
(1) 町スポーツ施設の利用者数	320,000人																
(2)																	
(3)																	
(4)																	
まちづくり目標の達成度																	
行政評価表(事業評価一覧)合計		決算額	決算額 (単位:千円)														
	当初予算額	決算合計	国・県補助	地方債	その他の特定財源	一般財源											
	17,326	22,171	0	0	3,265	18,906											

## 第7節 スポーツ及びクリエーション活動の推進

### 【事務事業の評価・課題】 1. スポーツを通じた元気なまちづくり

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
体育施設維持管理事業 【生涯学習課】 61	<p>市民の誰もが体力や年齢に応じ、生涯を通してスポーツ・レクリエーションに親しめるよう、活動の拠点となる施設の適正な維持・管理を実施し、更なる施設の利用率向上を図る。</p> <p>丸山スポーツグラウンドの整備、丸山スポーツグラウンド、ジョギングロードの修繕及び管理等を適切に行っていく必要がある。</p> <p>除草・清掃を行つた。丸山スポーツ広場、少年スポーツ広場、少年スポーツグラウンドの土地賃り上げ料を支払つた。丸山スポーツ広場用地の購入を行つた。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用率向上に向け適切な施設管理、整備の継続ありがとうございます。老朽化対策としての定期的な見回りも必要ですが、計画的な改修も視野に置いて改善も必要かと想います。利用者のニーズを的確に捉えながら、必要となる予算的な配分も含め今後の計画に盛り込んでみてください。</li> <li>・かつて、私も少年スポーツ広場を向か利用したことがあるが、いい施設があるなと思ったことを覚えている。そのころからすでに20年以上たっているのでいろいろと傷んでいることは思う。限られた予算で厳しいと思うが、継続的な予算計上を図られたい。</li> </ul>	<p>日々の適正な維持管理により良好なスポーツ施設環境の充実が図られた。</p> <p>利用者のニーズに応じた安全管理等を適切に行っていく必要がある。</p> <p>施設が老朽化してきているため、定期的に見回りが必要である。</p>	17,326 (23,150)	22,170

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。
章名	第3章_人を育てはじける笑顔輝くまち	B	施策の見直し、改善等の検討余地がある。見直し、改善等の検討余地がある。見直し、改善等の検討余地がある。
節名	第7節_スポーツ及びレクリエーション活動の推進	C	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。未実施。未実施。
施策名	施策2_スポーツ・レクリエーション事業の充実		
目指す姿	生涯にわたりスポーツを楽しむ環境が整っており、まちづくりや地域活動などに生かされています。		
施策の内容	●軽スポーツなど誰でも参加できるスポーツイベント等を開催するとともに、「スポーツ都市宣言」昭和57年から40年目を迎えることから、記念イベントについて検討します。 ●各種スポーツ教室を通して、町民の健康づくりのサポートに努めます。また、種目に従っては、住民のニーズに対応するよう検討します。 ●スポーツ・レクリエーションの活動団体によつては、会員の減少、後継者不足が課題となっています。そのため、魅力ある事業の企画立案、具現化に努め、会員の確保、後継者の育成に取り組みます。 ●スポーツ施設は、屋内・屋外とも引き続き計画的な改修や用地の確保、署さ対策に取り組みます。	今後に向けた課題・方向性	施策を実現するための課題
今年度の施策達成度	施策達成度の理由 (施策に対する金利6年度の実績及び効果)	A	施策が既に完了した。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。
		B	施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。未実施。
		C	・町が主催する各種スポーツ教室、各種イベントを実施し、スポーツに関する機会を提供することができた。また、各スポーツ、レクリエーション団体の活動に対してサポートを行うことができた。 ・友好都市である、茨城県つくばみらい市と町内のスポーツ少年団及びグラウンドゴルフの団体が交流を行うことができた。
指標名	施策を取巻く環境について	A	・住民のイベントへの参加意欲が高まっている。 ・各年代の方々が楽しめるスポーツ教室等の開催や、子どもから大人まで誰でも気軽に参加できるスポーツイベントが求められている。
目標(令和6年度)	住民ニーズの変化について	B	・開催した全ての教室において応募者が十分におり、好評であった。 ・各スポーツ、レクリエーション団体の活動のサポートを行うことができ、スポーツを楽しむ環境を維持することができた。
指標名	施策を実現するための課題	C	・指導者不足により開催できる教室が限られている。
指標名	施策を達成するうえでの障害について	A	
目標(令和6年度)		B	
(1) 町スポーツ施設の利用者数	320,000人	C	
(2)			
(3)			
(4)			
まちづくり目標の達成度	次年度以降における施策の具体的な方向性	A	・町主催のスポーツイベントについては、関係団体と連携して事業内容の検討を行った。 ・スポーツエスティバルについては、午前中に実施する地区会抗種目及び午後に実施するニュースポーツ体験と体力測定を実施するが、継続して見直しを検討していく必要がある。 ・つくばみらい市とスポーツを通じた交流を行際は、関係団体と調整を行うとともに、スポーツを楽しみながら、交流を深める機会を提供していく。
成績指標の推移	令和2年度実績 令和3年度実績 令和4年度実績 令和5年度実績 令和6年度実績	B	・スポーツを楽しむ環境を提供することができた。また、スポーツ、レクリエーション団体の活動に取り組むことでサポートを行うことができた。各スポーツ、レクリエーション団体が楽しむことができるよう工夫をして開催している。
指標名	決算額 (単位:千円)	A	
当初予算額	決算合計 国・県補助 地方債 その他特定財源 一般財源	B	
合計	4,867 4,458 0 0 0 4,458	C	
行政評価表(事業評価一覧)		A	

## 【事務事業の評価・課題】 2. スポーツ・レクリエーション事業の充実

### 第7節 スポーツ及びレクリエーション活動の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
スポーツレクリエーション振興事業 【生涯学習課】 62	生涯スポーツの普及とスポーツ・レクリエーション教室等の充実を図ることによる組織の充実を図ることとともに、各団体への運営補助を行う。 ゴルフ教室、親子ナイターテニス教室、ふれあいクラブ（剣道）、卓球教室、市民バスハイクを実施した。 スポーツフェスティバルを実施し、地区対抗5競技、ニュースポーツ体験、体力測定、野球体験教室を行った。	各種団体への運営支援を通して、健康で文化的な生活への一翼を担った。	4,712	4,308
【学識経験者の意見等】 ・多くの教室が開催されている。全体的な参加者の伸びはどうであつたのか。数値等客観的な実績はデータがあると利用者のニーズも掴みやすくなると思います。 ・「一翼」の評価であるが、利用者の声などを踏まえ、今後の事業継続について引き続き町民の心身の健康に努めたい。 ・健常寿命比寿命の乖離が言わわれているので、引き続き町民の心身の健康に努めたい。				
友好都市スポーツ交流事業 【生涯学習課】 63	茨城県つくばみらい市と伊奈町は友好都市提携協定を締結しており、休日等を利用して軟式少年野球大会に参加し地元チームとの交流を図り友好関係を深め、小さい頃から人間関係を構築することことで、協定の目的以上の効果を期待する。また、横瀬町に赴いて少年野球交流会なども開催された。 友好都市に赴いて少年野球交流会を実施し、参加者同士の友好関係も深められた。	友好都市である茨城県つくばみらい市との交流事業として、つくばみらい市杯軟式少年野球大会へ伊奈町スポーツ少年団からチームを派遣し、小学生年代との交流を広げることができた。 今後においても積極的に参加していくほか、町内スポーツ少年団の他チームも交流を広げていく必要がある。	155	149
【学識経験者の意見等】 ・友好都市との交流は、大変有意義なことであると考えます。双方方向型の交流が実施されたことは、一つの成果だと考えます。双方で定着した事業として定着するところを願うものです。 ・友好都市交流は少年とお年寄りが中心となっているようだが、仕事がある人は仕方ないかなと思う。ただ、できるだけ多くの団体がかかわれるように配慮するよといふと思う。				

## 令和6年度 行政評価表

担当課	生涯学習課	A	A 施策が既に完了した。見直しや改善を行った。見直しや改善を行った。	（進歩率71～100%）	
章名	第5章_共につくる_未来につながるまち	B	B 施策の見直し、改善等の検討余地がある。	（進歩率31～70%）	
節名	第5節_人権尊重と平和意識の啓発推進	C	C 施策を検討したが効果が上がらない。遅れている。未実施。（進歩率0～30%）		
施策名	施策1_人権・同和教育啓発の推進				
施策の内容	<p>目標</p> <p>誰もが互いの権力を尊重し、自分らしく生きる社会が形成されています。また、平和意識が世代を超えて継承されています。</p> <p>●人権意識の高揚を図り、人権啓発、人権教育の推進が必要であり、平成28年12月に「部落差別の解消の推進に関する法律」が施行されるなど、人権に関する様々な法整備も進められており、一層の取組に努めます。</p> <p>●人権講座は平成29年度まで平日昼間に開催していましたが、参加可能な層が限られてしまってから、平成30年度より夜間・休日も開催しました。今後も開催します。</p> <p>●人権相談についても工夫し、多くの市民が参加できるよう努めます。</p> <p>●増加していくことが考えられることから、相談体制を充実させ、新たなニーズに対応します。</p> <p>●平和学習の内容は、次世代を担う子どもや市民に戦争の悲惨さを認識してもらえるものとし、平和に対する意識の啓発に努めます。</p>	<p>施策達成度</p> <p>（施策に対する金額及び実績）</p> <p>（施策にに対する金額及び実績）</p>	<p>フレンドシップセミナーでは、「五反田会館チャレンジの会」の協力を得て、革新的ベンチマークづくりを通して人権感覚を磨く事業を実施することことができた。人権講座では、マイクロアフレッシュ・LGBTQ、リフレミングという考え方を取り上げ、3回の内容で開催した。伊奈町総合文化祭の会場で「人権啓発映画会」を開催し、人権問題について改めて考える機会を提供できるよう全戸配布を行い人権教育広報紙「みどり」については、人権講座の実施報告や児童生徒の人権標語の作品及び人権啓発DVDの紹介を掲載し、人権課題をより身近なものとして捉える機会を提供できるよう全戸配布を行った。</p> <p>・権意識の高揚を図った。</p> <p>・町内の小中学生には、人権教育として、自分の人権だけでなく、周りの人の人権についても大切なことについて教えるため、人権標語を募集し、優秀作品をポスターを作成した。また、各地区的集会所や関係機関に掲示し人権啓発を行った。</p>	<p>（進歩率71～100%）</p> <p>（進歩率31～70%）</p> <p>（進歩率0～30%）</p>	
施策実現のための課題	<p>施策を取り巻く環境について</p> <p>住民ニーズの変化について</p>	<p>・町民の人権に対する意識は高まりつつあるが、人権に関する問題は多様化している。</p> <p>・町民の生活様式の多様化が進んでいる。</p> <p>・人権問題が多様化していることから、新たな知識を得たいというニーズが高まっている。</p>	<p>・人権講座のアンケート結果では、「自分の言動を改めて振り返る良い機会など」「それ自身の意見や経験をたくさん聞くことが、一人ひとりを尊重することだと気づけた」等の意義のある意見を多數いたしました。開催した事業は、より多くの参加者を得たと考る。</p> <p>・伊奈町総合文化祭の会場で人権啓発映画会を行ったことで、多くの方にご来館いただく結果となり、当初の目的であった周知・啓発の効果が十分に得られたと考える。</p> <p>・人権講座の多様化による幅広い人権問題に対応した講座の企画を研究していくほか、参加者の増加による様々な開催日程の設定や講座内容を再検討し、広報活動においても工夫をしていく必要がある。</p>	<p>（進歩率71～100%）</p> <p>（進歩率31～70%）</p> <p>（進歩率0～30%）</p>	
次年度以降における施策の具体的な方向性	<p>指標名</p> <p>人権講座などへの参加者数</p>	<p>目標（令和6年度）</p> <p>400人</p>	<p>まちづくり目標の達成する方向性についての障害について</p>	<p>・人権講座では、これまでの参加者アンケートを参考にしながら、社会情勢の中で問題となるタイムリーな人権問題について幅広く取り扱う。</p> <p>・人権講座等の人権啓発事業は、より多くの参加者を得られるよう、引き続き広報しないやホームページへ掲載するほか、案内チラシやポスターの作成を行う。若年層の参加をやすやすため、伊奈町公式LINEやFacebook、いなナビなどを活用する。</p> <p>・人権講座では、これまでの参加者アンケートを参考に開心の高いテーマを取り入れている。また、多くの方に参加してもらえるよう、より町民ニーズに合った講座になるよう検討する。</p> <p>・人権標語ポスターや啓発品等の作成数、人権啓発広報紙の掲載記事を凝縮し、コストの見直しを図っている。</p> <p>・人権啓発事業においては様々なツールを用いて情報発信に努めている。</p>	<p>（進歩率71～100%）</p> <p>（進歩率31～70%）</p> <p>（進歩率0～30%）</p>
成績指標の推移	<p>指標名</p> <p>人権講座などへの参加者数</p>	<p>目標（令和6年度）</p> <p>400人</p>	<p>まちづくり目標の達成する方向性についての障害について</p>	<p>第6次行政改革大綱に基づく取組の進捗状況</p>	<p>（進歩率71～100%）</p> <p>（進歩率31～70%）</p> <p>（進歩率0～30%）</p>
行政評価表（事業評価一覧）合計	<p>決算額（単位：千円）</p> <p>決算合計</p>	<p>当初予算額</p> <p>（1） 未実施 74人、68人 260人 191人</p> <p>（2）</p> <p>（3）</p> <p>（4）</p>			

まち  
づくり  
目標  
の推  
移

## 第5節 人権尊重と平和意識の啓発推進

### 【事務事業の評価・課題】 1. 人権・同和教育啓発の推進

事業名	事業内容・実施状況・実績等	評価・課題	当初予算額 (補正後予算額)	決算額
人権教育事業 【生涯学習課】 64	<p>日常生活の中での多様な人権課題や人権の意義、その重要性について理解を深めるための事業を行う。</p> <p>小・中学生を対象としたフレンドシップセミナーについては、講師や異学年などができるでてきた。(15人で、他人作品の制作を通じて、講師や異学年などができるでてきた。)また、成人を対象とした人権講座には、人権課題のなかから3つの課題を取り上げ実施した。(3回、延106人)さらに、今年度より新たな事業として、総合文化祭の会場で人権啓発映画会を開催した。(70人参加)</p> <p>人権講座の実施報告や児童生徒の人権講話作品及び人権教育DVDの紹介を掲載し、金世帯及び関係機関に配布。人権課題をより身近なものとしてもらえる機会を提供できるよう努めた。</p> <p>【学識経験者の意見等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権講座、人権啓発映画会等、次年度以降の増員を目指した一層の工夫をお願いします。</li> <li>・捉え、「努める」よりも「歩み込む」を期待します。今後も人権尊重、意識の向上を図つていけることを願うものであります。</li> <li>・人権講座は、どこかの市町村でもテーマ及び講師の選定に苦労しているのではないかと思うが、3回の講座で106人も参加したということは盛況だったのではないか。最近、来日外国人も増え住民とのトラブルも少なからず報道されているが難しい問題だと思う。</li> </ul>	<p>感染症対策を徹底した形で実施し、市民の人権意識の高揚を図るために、人権問題を身近に考えていただくための引きかづくことができた。</p> <p>継続的に事業を進めることで、町全体の人権意識を向上させていくことが重要である。</p>	960	846

### III 関係資料

学校別児童生徒数・学級数

学校施設の現況

## 学校別児童生徒数・学級数 (令和6年5月1日現在)

### (1) 小学校

学校名		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	総合計
小室小学校	人数	92	72	90	80	77	92	18	521
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	21
小針小学校	人数	73	75	85	97	84	95	17	526
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	21
南小学校	人数	80	83	71	86	89	91	16	516
	学級数	3	3	3	3	3	3	3	21
小針北小学校	人数	104	104	129	117	131	146	13	744
	学級数	3	3	4	4	4	5	2	25
小学校計	人数	349	334	375	380	381	424	64	2,307
	学級数	12	12	13	13	13	14	11	88

### (2) 中学校

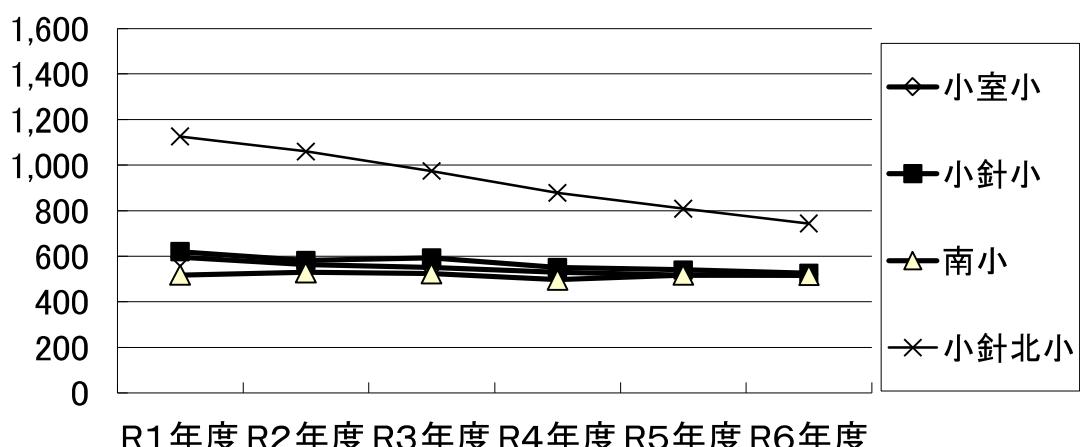
学校名		第1学年	第2学年	第3学年				特別支援学級	総合計
伊奈中学校	人数	91	90	109				6	296
	学級数	3	3	3				2	11
小針中学校	人数	232	247	321				22	822
	学級数	7	7	9				3	26
南中学校	人数	74	67	95				5	241
	学級数	2	2	3				2	9
中学校計	人数	397	404	525				33	1,359
	学級数	12	12	15				7	46

小・中計	人数	746	738	900	380	381	424	97	3,666
------	----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-------

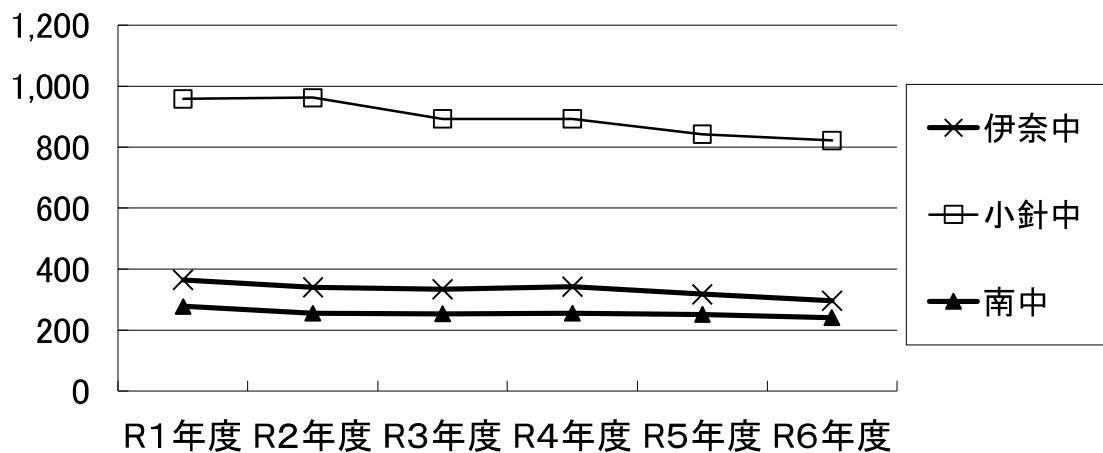
学校別児童生徒数・学級数 (令和6年5月1日現在)

	小室小	小針小	南小	小針北小	小学校計	伊奈中	小針中	南中	中学校計	小・中計
R1年度	596	620	518	1,127	2,861	365	959	278	1,602	4,463
R2年度	563	582	530	1,061	2,736	341	963	255	1,559	4,295
R3年度	550	593	524	975	2,642	334	893	253	1,480	4,122
R4年度	529	551	497	879	2,456	343	893	255	1,491	3,947
R5年度	517	540	517	809	2,383	318	842	251	1,411	3,794
R6年度	521	526	516	744	2,307	296	822	241	1,359	3,666

小学校別児童数の推移



中学校別生徒数の推移



## 学校施設の現況 (令和7年5月1日現在)

学校名 施設(m <sup>2</sup> )		小室 小学校	小針 小学校	南 小学校	小針北 小学校	小学校 計	伊奈 中学校	小針 中学校	南 中学校	中学校 計
校 舎	木造					0				
	鉄筋コン クリート	5,531	4,576	4,707	8,042	<b>22,856</b>	6,183	5,828	5,370	<b>17,381</b>
	鉄骨		444			<b>444</b>		173		173
	合計	5,531	5,020	4,707	8,042	<b>23,300</b>	6,183	6,001	5,370	<b>17,554</b>
屋 内 運 動 場	鉄筋コン クリート	947	1,594	732	1,406	<b>4,679</b>	1,296	1,290		2,586
	鉄骨								1,890	1,890
	計	947	1,594	732	1,406	<b>4,679</b>	1,296	1,290	1,890	<b>4,476</b>
用 地 面 積	建物 敷地	9,097	8,763	7,372	12,940	<b>38,172</b>	17,564	9,598	12,942	<b>40,104</b>
	屋外 運動場	8,494	9,114	8,107	7,560	<b>33,275</b>	11,685	18,407	16,587	<b>46,679</b>
	その他									
	合計	17,591	17,877	15,479	20,500	<b>71,447</b>	29,249	28,005	29,529	<b>86,783</b>
設置年度		明治6	明治6	昭和54	平成18		昭和22	昭和57	昭和63	